

同 甲府始審裁判所管轄ノ地方
 静岡重罪裁判所
 同 静岡 濱松始審裁判所管轄ノ地方
 長野重罪裁判所
 同 松本 長野 上田始審裁判所管轄ノ地方
 大坂重罪裁判所
 同 大坂 堺 奈良始審裁判所管轄ノ地方
 京都重罪裁判所
 同 京都 園部 宮津始審裁判所管轄ノ地方
 兵庫重罪裁判所
 同 神戸 姫路始審裁判所管轄ノ地方
 和歌山重罪裁判所
 同 和歌山始審裁判所管轄ノ地方

滋賀重罪裁判所
 同 大津 彦根始審裁判所管轄ノ地方
 徳島重罪裁判所
 同 徳島始審裁判所管轄ノ地方
 岡山重罪裁判所
 同 岡山 津山始審裁判所管轄ノ地方
 福井重罪裁判所
 同 福井始審裁判所管轄ノ地方
 石川重罪裁判所
 同 金澤 富山 七尾始審裁判所管轄ノ地方
 高知重罪裁判所
 同 高知 中村始審裁判所管轄ノ地方
 愛媛重罪裁判所
 同

長崎重罪裁判所
同 松山 高松 宇和島始審裁判所管轄ノ地方
福岡重罪裁判所
同 長崎 佐賀始審裁判所管轄ノ地方
熊本重罪裁判所
同 福岡始審裁判所管轄ノ地方
大分重罪裁判所
同 熊本始審裁判所管轄ノ地方
鹿兒島重罪裁判所
同 大分 中津始審裁判所管轄ノ地方
函館重罪裁判所
同 鹿兒島 宮崎始審裁判所管轄ノ地方
同 沖繩縣管轄ノ地方
同 函館始審裁判所管轄ノ地方

十五号第二十九號
布告ヲ以テ改正

青森重罪裁判所
同 開拓使 札幌 本支廳管轄ノ地方
愛知重罪裁判所
同 弘前始審裁判所管轄ノ地方
岐阜重罪裁判所
同 名古屋 岡崎始審裁判所管轄ノ地方
三重重罪裁判所
同 岐阜始審裁判所管轄ノ地方
宮城重罪裁判所
同 安濃津 山田始審裁判所管轄ノ地方
福島重罪裁判所
同 仙臺始審裁判所管轄ノ地方
巖手重罪裁判所
同 福島 若松 平 白川始審裁判所管轄ノ地方

同 盛岡 磐井始審裁判所管轄ノ地方
 山形重罪裁判所
 同 山形 米澤 酒田始審裁判所管轄ノ地方
 秋田重罪裁判所
 同 秋田始審裁判所管轄ノ地方
 廣島重罪裁判所
 同 廣島 尾道始審裁判所管轄ノ地方
 山口重罪裁判所
 同 山口始審裁判所管轄ノ地方
 島根重罪裁判所
 同 松江 濱田始審裁判所管轄ノ地方
 鳥取重罪裁判所
 同 鳥取 米子始審裁判所管轄ノ地方

十五年第十四號
廿六年第二號
廿三年法律
廿二年依

十八年第三十一號
布告ヲ以テ廢止

○第七十九號 (十二月二十八日 輪船附 司法卿連署)
 各裁判所ノ位置及管轄區並ノ儀本年十月第五十三號ヲ以テ布告候處北海道函館始審裁判所并ニ沖繩縣ノ儀ハ當分從前ノ通其所轄ノ官廳ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜ノ取計ヲ爲スヘシ
 但控訴ノ儀北海道ハ函館控訴裁判所沖繩縣ハ長崎控訴裁判所ノ管轄ニ屬ス
 右奉 勅旨布告候事
 ○第八十號 (十二月二十八日 輪船附 司法卿連署)
 本年九月第四十八號布告左ノ通改正ス
 違警罪ノ儀ハ本年第三十六號布告ニ據リ明治十五年一月一日ヨリ治安裁判所ニ於テ裁判スヘキ處當分ノ内府縣警察署及日共分署ニ於テ裁判セシムヘシ
 右奉 勅旨布告候事
 ○第八十一號 (十二月二十八日 輪船附 司法卿連署)
 刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニハ左ノ例ニ從フヘシ
 第一條 新舊法比照左ノ如シ

新法	舊法
一 死刑	斬絞
二 無期徒刑	懲役終身
三 有期徒刑	懲役終身
四 無期徒刑	禁獄終身
五 有期徒刑	
六 重懲役	懲役十年

七 輕懲役 懲役七年
 八 重懲役 懲役十年
 九 輕禁獄 禁獄七年
 十 重禁獄 禁獄十年
 十一 輕禁錮 禁錮五年
 十二 重禁錮 禁錮十年
 十三 拘留 拘留十日以上三十日以下
 十四 科料 科料二十圓以下

第二條 舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ刑期ニ過クルコトヲ得スニ於テ
 若シ舊法ノ刑期新法主刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ
 第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其短期ノ短キ者ニ從フ但其長期ノ短キ者ニ過ルコトヲ得ス
 若シ舊法新法ノ刑共ニ短期等シクシテ舊法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ
 第四條 舊法ノ罰金收贖若クハ罰金科料ノ金額新法主刑ノ金額内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ金額ニ過ルコトヲ得ス
 第五條 舊法新法ノ罰金科料共ニ多數算數アル者ハ其算數ノ寡キ者ニ從フ但其多數ノ寡キ者ニ過クルコトヲ得ス

十五年第五號布告
 及同法第三十號
 法律第六號二十三號
 減刑法

第六條 舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加ス可キ時ハ其罰金ヲ附加セシム
 第七條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金科料ニ該ル時ハ新法ニ從フ
 第八條 舊法ニ於テ體刑收贖若クハ罰金科料ニ該ル者新法ニ照シ體刑ニ該ル時ハ舊法ニ從フ
 第九條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スル時ハ新法ノ附加刑ヲ適用セシム但除族追奪位配沒收ノ類ハ舊法ニ從フ
 第十條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セシム
 第十一條 華士族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル者舊法ニ從ヒ處斷スル時ハ其族ヲ除セシム
 第十二條 新法ト舊法トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス
 第十三條 舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ス
 右奉 勅旨布告候事

○第八十二號 (十二月二十八日 輪廊附 司法卿連署)
 大審院各裁判所ニ於テ明治十四年十二月三十一日以前審理ニ著手セシ刑事ハ十五年一月一日以後ト雖モ治罪法ニ拘ハラヌ仍ホ從前ノ規則ニ從ヒ處分スヘシ
 右奉 勅旨布告候事

○第八十三號 (十二月二十八日 輪廊附 司法卿連署)
 治安裁判所及ヒ始審裁判所ノ權限左ノ通制定ス
 右奉 勅旨布告候事

第一條 治安裁判所ハ訴訟事件ヲ勸解ス但諸官廳ニ對スル事件及ヒ商事ニ係リ急速ヲ要スル事件

ハ勸解メルノ限ニアラス

第二條 治安裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓未満ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第三條 治安裁判所ハ人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノヲ裁判スルコトヲ得ス

第四條 始審裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓以上並ニ第三條ニ掲ケタル治安裁判所權外ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第五條 始審裁判所ハ其管轄地内ノ治安裁判所ノ始審裁判ニ對スル控訴ニ付終審ノ裁判ヲ爲ス但控訴ノ手續ハ明治十年第十九號布告控訴手續ニ照準スヘシ

○六月十一日

來ル七月山形縣秋田縣及北海道へ 御巡幸被 仰出候條此旨布告候事

但御發聲日限並御道筋ノ儀ハ進テ 御沙汰可有之候事

○七月十四日

山形縣秋田縣並北海道 御巡幸本月三十日東京 御發聲被 仰出候條此旨布告候事

○八月三日

今三日午後四時三十分權典侍千種任子分曉皇女御降誕被 遊候條此旨布告候事

○八月九日

皇女御名留子ト被命滋宮ト可奉稱此旨布告候事

○九月二日

二品勳一等守備親王昨一日午後二時三十分罷去ニ付三日ノ間歌舞音曲等令停止候此旨布告候事但東京府下ハ本日ヨリ其他ノ地方ハ到達ノ日ヨリ算スヘキ事

七月十四日布告

十月十一日遼幸

十六年九月七日遼幸

○十月三日

一品淑子内親王今三日午前一時十七分罷去被遊候條此旨布告候事

但東京府下ハ本日ヨリ其他ノ地方ハ布告到達ノ日ヨリ三日間歌舞音曲等令停止候尤京都府下ハ御葬送當日迄停止スヘキ事

○十月八日

來ル十一月還幸被爲在候條此旨布告候事

○十月十三日

故一品淑子内親王來ル二十日京都府下愛宕郡今熊野村へ御葬送相成候條此旨布告候事

布達

○第一號 (十二月二十八日 輪船附 農商務卿達)

今般第七拾五號ヲ以テ西洋形船船長運轉手機關手免狀規則改定ニ付別冊ノ通試驗規程ヲ定ム

右布達候事

(別冊)

西洋形船船長運轉手機關手試驗規程

第一條 凡ソ此規程ニ從テ試驗ヲ願フ者ハ受験ノ當日ヨリ三日以前ニ其履歷書及ヒ性行善長ナル

ノ保證書ヲ添ヘ願書ヲ試驗所ヘ出スヘシ

但シ願書用紙ハ試驗所ヨリ附與スヘシ

第二條 定時試驗ハ毎月第二火曜日東京試驗所ニ於テ之ヲ開クヘシ若シ開カサルトキハ農商務省

ヨリ其旨ヲ十五日前三廣告スヘシ

十六年第十九號布告

明治十四年十月十二日 大政官 布告 無號 第一號 (西洋形船船長運轉手機關手試驗規程)

(改)第二條 定時試験ハ内國人ハ毎月第一、三、五、日、外國人ハ毎月第二、四、日ヲ以テ東京試験

所ニ於テ之ヲ開クヘシ若シ開カサル時ハ農商務省ヨリ共旨十五日以前ニ廣告スヘシ

第三條 試験願書ヲ出ストキ左ニ掲載セル試験料ヲ前納スヘシ

甲種免狀

船長 七圓

一等運轉手 五圓

二等運轉手 三圓

一等機關手 七圓

二等機關手 五圓

乙種免狀

船長 五圓

一等運轉手 三圓

二等運轉手 二圓

一等機關手 五圓

二等機關手 三圓

小形船機關手免狀

二圓

第四條 定日外メリトモ別段手数料トシテ金五圓ヲ納メ臨時試験ヲ願フトキハ東京ニ限り司驗官

ノ都合ニ因テ之ヲ許スコトアルヘシ

第五條 船長、運轉手、機關手免狀規則第八條ニ從ヒ甲種免狀ヲ請願スル者ハ本途試験料ノ半額ヲ

納ムヘシ

第六條 甲種免狀ヲ受有スヘキ受験人ハ左ニ記載セル各款ニ從ヒ履歷アルモノニシテ其試験問題

ニ應答スヘシ

二等運轉手

二等運轉手ノ受験人ハ十九歳以上ニシテ少クトモ四ヶ年間西洋形航洋船ノ運航ニ從事セシ者又

ハ司驗官ノ允當ト見認ムル學校ニ於テ航海運用學卒業ノ上少クトモ三ヶ年間西洋形船ノ運航ニ

從事セシモノトス

試験問題

○通常文書ノ記載

○加減乗除及ヒ對數ノ用方

○航海日誌ニ記セル前日ノ正午ヨリ當日ノ正午マテノ鐵路航程ニ羅鍼ノ偏差、自差、風壓、流潮ヲ

加減シテ本船所在ノ經緯度及ヒ直航距離、方位ヲ知ルノ算法

○起程、已達、兩所ノ經緯度ヲ以テ瑪氏航法及ヒ中分緯度航法ニ據リ鐵路航程ヲ知ルノ算法

○太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法

○太陽出沒方位ニ據リ羅鍼ノ誤指ヲ知ルノ算法

○六分儀ノ用方

○航海日誌ノ記載方

○索具ノ取付及ヒ取脱方

○揚帆、卸帆、縮帆ノ方法

○順轉、逆轉及ヒ諸帆ヲ整頓スルノ方法

- 船貨積載ノ方法
- 測程線ノ尺度其用方及ロ沙漏ノ時限
- 大小測鉛ノ重量其線ノ尺度符號及ロ其用方
- 萬國信號法
- 海上衝突豫防規則
- 海員雇入雇止規則
- 登等運轉手
 - 一等運轉手ノ受驗人ハ二十一歳以上ニシテ少クトモ一ケ年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニアリテ二等運轉手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス
 - 試驗問題 二等運轉手ノ試驗問題ヲ合セ
- 太陽方位角ニ據リ羅針ノ誤指ヲ知ルノ算法
- 潮時ノ算法
- 時辰儀ト太陽高度トニ據リ經度ヲ知ルノ算法
- 仰角、燈臺等ノ方位ヲ測リ或ハ經緯度ニ據リ海圖ニ本船所在ノ位置ヲ記シ又偏差、自差ヲ加減シテ鐵路ヲ定メ航程ヲ求ムルノ方法
- 六分儀ノ動鏡、地平鏡等ノ位置ヲ正シ又太陽及ロ地平線ニ據リ器差ヲ求ムルノ方法
- 風潮ノ變化ニ際シ放泊船ヲ安全ニ所置スルノ方法
- 出入港運轉ノ方法
- 橋ヲ立ルノ方法

- 重貨積載ノ方法
- 暴風ノ際船ヲ運轉シ或ハ不慮ノ災害ニ臨ミ之ヲ處置スルノ方法
- 日本海岸ノ地勢

船長

- 船長ノ受驗人ハ二十三歳以上ニシテ少クトモ一ケ年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニアリテ一等運轉手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス
- 試驗問題 二等及二等運轉手ノ試驗問題ヲ合セ
- 子午線ニ近キ太陽ノ高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
- 星象子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
- 地平儀ヲ用ヒテ測リタル太陽高度ノ改正
- 各種ノ方法ニ據リ木位羅針ノ自差ヲ定メ及ロ那氏ノ式ニ從テ其圖ヲ製スルノ方法
- 難破ノ際人命ヲ救助スルノ方法
- 颶風ノ解明及ロ之ヲ避ルノ方法
- 二等機關手
 - 二等機關手ノ受驗人ハ二十一歳以上ニシテ少クトモ四ケ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ機關運轉ニ從事セシ者又ハ司驗官ノ允當ト認ムル汽機製造所ニアリテ少クトモ三ケ年間汽機及ロ機關ノ製造又ハ修繕ニ從事シ且少クトモ一ケ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ機關運轉ニ從事セシモノトス
 - 試驗問題
- 通事文書ノ記載

○加減乘除及ヒ比例法
 ○機關室日誌ノ記載方
 ○馬力ノ解明及ヒ算法
 ○唧筒ニテ排出スル水量ヲ知ルノ算法
 ○安全瓣ノ種類、効用及ヒ算法
 ○濕罐及ヒ機關ノ檢査并所置
 ○濕罐各種ノ解明及ヒ其固定法
 ○瓣費ノ効用及ヒ諸管接合ノ方法
 ○外輪及ヒ螺旋用高壓、低壓及ヒ聯成機關ノ解明及ヒ其運轉ノ方法
 ○濕罐及ヒ機關ニ屬スル諸器ノ効用及ヒ用法
 ○沸騰、擦熱ヲ起スノ原因ヲ熟知シ及ヒ之ヲ回復スルノ方法
 ○驗温器、驗氣器、驗鹽器ノ効用及ヒ用法

一等機關手
 一等機關手ノ受験人ハ二十三歳以上ニシテ少クトモ一ケ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリ
 テ二等機關手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス

試驗問題 二等機關手ノ試験問題ヲ合セ
 ○面体ノ求積及ヒ開平法
 ○濕罐ノ強弱ヲ知ルノ算法
 ○膨脹力ノ効用及ヒ其算法

○指壓器ノ用方及ヒ之ニ據リ實馬力ヲ知ルノ算法
 ○螺旋ノ勾配及ヒ其角度ヲ求ムルノ算法
 ○製造ノ爲メ濕罐及ヒ機關ニ於ル局部ノ製圖
 ○加熱器ノ種類及ヒ其効用
 ○滑瓣及ヒ車軸ノ位置ヲ正シ之ヲ裝置スルノ方法
 ○濕罐及ヒ機關ニ於ケル肝要ナル部分ノ割合
 第七條 乙種免狀ヲ受有スヘキ受験人ハ左ニ記載スル各款ニ從ヒ履歷アルモノニシテ其試驗問題
 ニ應答スヘシ

二等運轉手
 二等運轉手ノ受験人ハ二十歳以上ニシテ少クトモ六ケ年間海上ニアリテ船舶ノ運航ニ從事シ内
 少クトモ三ケ年間西洋形航洋船ニアリシモノトス

試驗問題
 ○通常文書ノ解讀
 ○加減乘除
 ○羅針ノ解明
 ○揚帆、卸帆及ヒ諸帆ヲ收頓スルノ方法
 ○船貨積載ノ方法
 ○測程線ノ尺度其用方及ヒ沙漏ノ時限
 ○大小測鉛ノ重量其線ノ尺度符號及其用方
 ○海上衝突豫防規則

○海員雇入雇止規則

一等運轉手

一等運轉手ノ受驗人ハ二十二歳以上ニシテ少クトモ七ヶ年間海上ニアリテ船舶ノ運航ニ従事シ内少クトモ四ヶ年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニアリシモノトス

試驗問題 二等運轉手ノ試驗問題ヲ合セ

○航海日誌ノ記載方

○航海日誌ニ記セル前日ノ正午ヨリ當日ノ正午マテノ航路航程ニ羅針ノ偏差自差風壓流潮ヲ加減シテ本船所在ノ經緯度及直航距離方位ヲ知ルノ算法

○太陽出沒方位ニ據リ羅針ノ誤指ヲ知ルノ算法

○羅針ニ據リ岬角燈臺等ノ方位ヲ測リ又ハ經緯度ニ據リ海圖上ニ本船所在ノ位置ヲ記シ及ヒ偏差自差ヲ加減シテ航路ヲ定メ航程ヲ測ルノ方法

○順轉逆轉縮帆及出入港運轉ノ方法

○重貨積載ノ方法

○萬國信號法

船長

船長ノ受驗人ハ二十五歳以上ニシテ少クトモ二ヶ年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニアリテ一等運轉手ノ免許ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス

試驗問題 二等及ヒ一等運轉手ノ試驗問題ヲ合セ

○太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法

○時辰儀ト太陽高度トニ據リ經度ヲ知ルノ算法

- 六分儀ノ用法及ヒ動鏡地平鏡等ノ位置ヲ正シ太陽又ハ地平線ニ據リ器差ヲ求ムルノ方法
- 暴風ノ際船舶ヲ運轉シ及ヒ不慮ノ災害ニ臨ミ之レヲ處置スルノ方法
- 颶風ノ定則及ヒ之レヲ避ルノ方法
- 日本海岸ノ地勢

二等機關手

二等機關手ノ受驗人ハ二十二歳以上ニシテ少クトモ五ヶ年間船用機關運轉ニ従事セシ者又ハ司驗官ノ允當ト認ムル汽機製造所ニアリテ少クトモ三ヶ年間汽機及ヒ機關ノ製造又ハ修繕ニ従事シ且二ヶ年以上船用機關運轉ニ従事セシモノトス

試驗問題

○通常文書ノ解讀

○加減乗除

○機關室日誌ノ記載方

○汽機及ヒ機關ノ檢査并所置

○運轉中汽機及ヒ機關ニ於ケル注意

○安全弁ノ種類効用及ヒ其重量ノ増減

○汽機及ヒ機關ニ屬スル諸器ノ効用及ヒ用法

○弁嘴ノ効用及ヒ諸管接合ノ方法

○汽機及ヒ機關ノ部分ニ生セル損所ヲ假リニ修繕スルノ方法

○沸溢蒸熱ヲ生セントキ之ヲ回復スルノ方法

○驗温器、驗氣器、驗鹽器ノ効用及ヒ用法

一等機關手

一等機關手ノ受験人ハ二十五歳以上ニシテ少クトモ二ケ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ二等機關手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス

試験問題 二等機關手ノ試験問題ヲ合セ

- 馬力ノ解明及ヒ算法
 - 汽鐘各種ノ解明及ヒ安全瓣ノ算法
 - 外輪及ヒ螺施用高壓低壓及ヒ聯成機關ノ解明及ヒ其運轉ノ方法
 - 膨脹力ノ解明及ヒ算法
 - 加熱器ノ効用及ヒ其種類
 - 汽鐘及ヒ機關中肝要ナル部分ノ割合
- 第八條 小形船機關手ノ免狀ヲ受有スヘキ受験人ハ左ニ記載スル履歴アルモノニシテ其口上試験問題ニ應答スヘシ

小形船機關手

小形船機關手ノ受験人ハ二十一歳以上ニシテ少クトモ三ケ年間船用機關運轉ニ従事セシモノトス

試験問題

- 通常ノ叢書
- 汽鐘及ヒ機關ノ検査并所置
- 運轉中汽鐘及ヒ機關ニ於ケル注意
- 安全瓣ノ効用及ヒ其重量ノ増減

○汽鐘及ヒ機關ニ屬スル諸器ノ効用及ヒ用法

○汽鐘及ヒ機關ノ部分ニ生セル損所ヲ假リニ修繕スルノ方法

○洩溢及ヒ擦熱ヲ生セシトキ之ヲ回復スルノ方法

第九條 乙種免狀若クハ従前ノ假免狀ヲ受有シ既ニ一ケ年以上其職ヲ執リシ者ハ甲種ニ於テ同等ノ試験ヲ出願スルヲ得ヘシ

第十條 甲種ニ從テ試験ニ於テ其紙上ノ答ヲ爲スノ時限ハ五時間ト定メ乙種ノ時限ハ三時間ト定メ若シ此時限ヲ過キテ其答ヲ畢ラサレハ之ヲ落第者ト爲スヘシ

第十一條 受験人ハ書籍及ヒ書留類ヲ携帶シテ試験場ヘ入ルヲ許サス

第十二條 船長及ヒ運轉手ノ受験人ハ平生各自ノ熟知セル算式及ヒ航海表ヲ用ヒテ問題ニ答フルハ妨ケナシ故ニ自己ノ慣用セル表ニ限リ試験場ニ携帶シ得ヘシ

第十三條 受験人若シ他ノ受験人ノ文案ヲ竊取シ或ハ助力ヲ授受シ其他如何ナル手段ニ據ルモ出場中他ノ受験人ト往復セシコト發覺スルニ於テハ之ヲ落第者トナスヘシ

第十四條 紙上ノ問題ニ應答スルニ方リ其問題ノ總數三分一ヨリ以上ノ誤算アルモノ又ハ問題中ノ算法ヲ解シ得サルモノハ落第者トナスヘシ然レトモ其誤算問題ノ總數三分一ニ止ルトキハ之ヲ改正セシメ其正算ヲ得ルモノハ紙上ノ試験ニ於テ及第者トナスヘシ

第十五條 受験人紙上ノ試験ニ落第スルコト三回ニ及フトキハ其最後落第ノ日ヨリ三ヶ月以上ヲ經ルニ非サレハ再試ヲ許サス又口上ノ試験ニ落第スルコト三回ニ及フトキハ其最後落第ノ日ヨリ六ヶ月以上實地修業セルノ確證アルニアラサレハ再試ヲ許サス

第十六條 受験人紙上及ヒ口上ノ問題ニ正シク答ヘ畢ルトキハ司驗官ヨリ直ニ及第證書ヲ本人ニ附與シ其旨ヲ農商務省ヘ報告スヘシ

十九年勅令第四十二號
二十三年法律第二十號
依り消

農商務省ニ於テハ其報告ニ據リ受驗人及ヒ司驗官ノ氏名ヲ簿冊ニ登記シ應等ノ免狀ヲ授與スヘシ
○第二號 (十一月二十八日 檢附附 司法廳達)
本年十月第五十三號布告ヲ以テ各裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區畫改正候ニ付テハ從前布告布達中上等裁判所トアルハ控訴裁判所地方裁判所トアルハ始發裁判所區裁判所トアルハ治安裁判所ト改マリ候儀ト心得ヘシ
右布達候事

達

十八年太政官第三十四號
依り消
等係給改定

○第一號 (二月十四日 檢附附)
東京府下ニ警視廳ヲ置キ官等係給別表ノ通相定候條此旨相達候事
官省院使府縣

(別表)

階級	勅任					任		判		任		外	
	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	月給	月給	月給	月給	月給	月給
本廳						警視廳長	警視廳副廳長	巡査部長	巡査部長	巡査部長	巡査部長	巡査部長	巡査部長
巡査本部								巡査部長	巡査部長	巡査部長	巡査部長	巡査部長	巡査部長
警務署						一等警務使	二等警務使						

第二十三號第六十號
第三十八號第六十號
第五十六號第六十號
依り消
加

消防本部		警視廳	
消防司令	消防司令	警視廳長	警視廳副廳長
消防中司令	消防中司令	巡査部長	巡査部長
消防少司令	消防少司令	巡査部長	巡査部長
典	典	巡査部長	巡査部長
副典	副典	巡査部長	巡査部長
記	記	巡査部長	巡査部長
守	守	巡査部長	巡査部長
守	守	巡査部長	巡査部長
守	守	巡査部長	巡査部長

○第一號 (二月十四日 檢附附)
内務省中警視官ヲ廢シ警視局ヲ警保局ト改稱候條此旨相達候事
官省院使府縣 内務省

○第三號 (二月十四日 檢附附)
警視廳職制并事務章程別冊ノ通相定候條此旨相達候事
官省院使府縣

(別冊)
警視廳職制并事務章程

職制
警視廳 東京府下警察事務ヲ總理シ消防隊及ヒ監獄ヲ管轄シ左ノ諸局及ヒ部署ヲ設ケ各其事務ヲ
幹理ス
内局

明治十四年一月 太政官 達 第二號 第三號

- 書記局
- 第一局
- 第二局
- 巡查本部
- 警察署
- 消防木署
- 監獄署

警視總監

内務卿ノ管轄ニ屬シ警視以下ノ諸員ヲ統督シ府下郡區長戸長ヲ指揮シ警察事務ヲ總管ス
 廳中委任官ノ進退黜陟ハ内務卿ニ具申シ判任以下ハ之ヲ專行ス
 各省卿權内ノ警察事務ニ付テハ直ニ其命令ヲ受ク

警視副總監

總監ノ職掌ヲ輔ク
 總監事故アル時ハ其代理タルコトヲ得

- 一等警視
- 二等警視
- 三等警視
- 四等警視

五等警視

總監ノ命ヲ受ケ各其主務ヲ幹ス

警視廳

各其庶務ニ従事ス

巡查總長

總監ノ命ヲ受ケ各方面監督以下ヲ指揮シ警邏巡察ノ事ヲ幹ス

巡查副總長

總長ノ職掌ヲ助ク

方面監督

總長ノ命ヲ受ケ各方面巡查長以下ノ掌務ヲ監督ス

巡查長

總長ノ命ヲ受ケ巡查部長以下ヲ指揮シ警邏巡察ノ事ヲ掌ル

巡查副長

掌巡查長ニ亞ク

巡查部長

巡查長ノ命ヲ受ケ巡查ヲ指揮シ警邏巡察ノ事ヲ掌ル

巡查

部長ノ命ヲ受ケ警邏巡察ニ従事ス

一等警察使

二等警察使

總監ノ命ヲ受テ警戒檢察ノ事務ヲ掌ル
警察副使

掌警察使ニ亞ク

書記

警察使ノ命ヲ受ケ署中ノ庶務ヲ掌ル
消防司令長

總監ノ命ヲ受ケ木署諸屬員ヲ監督指揮シ火災消防ノ事ヲ幹ス
消防司令副長

掌司令長ニ亞ク

消防大司令

司令長ノ命ヲ受ケ消防隊ヲ監督指揮ス
消防中司令

大司令ノ命ヲ受ケ消防分隊ヲ監督指揮ス
消防少司令

中司令ノ命ヲ受ケ消防手ノ部伍ヲ監督指揮ス
典獄

典獄

總監ノ命ヲ受ケ未決已決各囚監獄ヲ管掌シ書記看守長以下ノ諸員ヲ監督ス
副典獄

掌典獄ニ亞ク

書記

典獄ノ命ヲ受ケ署中ノ庶務ヲ掌ル
看守長

典獄ノ命ヲ受ケ看守ヲ指揮シ監獄ヲ看守ス
看守副長

掌看守長ニ亞ク

看守

監獄看守ニ從事ス

事務章程

主管ノ事務左ニ記列スル者ハ總監其意見ヲ内務卿若クハ主務ノ省卿ニ申稟シ認可ヲ經テ然後
施行ス其他ハ總監之ヲ專行スルコトヲ得

但其施行ニ付テハ總監皆其實ニ任ス

第一條 主管ノ事務ニ付テハ部下ノ官吏ヲ外國ニ派遣スル事

第二條 各局并各部署ヲ廢置變換スル事

第三條 各局并各部署ノ處務規程ヲ定ムル事

第四條 外國人ヲ傭入シ又ハ之ヲ解僱スル事

第五條 新ニ事ヲ創メ又ハ舊規ヲ變更スル事

○第四號 (二月十四日 諭旨)

今般陸軍部内ニ憲兵ヲ設置條條此旨相違候事

官省院使府縣

第八十八號達ニ依リ
消滅

○第五號 (二月十八日 輪附)

官省院使廳府縣

第九十一號達ニ依リ
消滅

○第六號 (二月十四日 輪附)

官省院使廳府縣

○第六號 (二月十四日 輪附)
今般大政官中審理局ヲ置キ事務手續等左ノ通相定候條此旨相達候事
但本文ノ儀ハ府縣會ニ送シ置ヘシ

第一條 審理局ハ第四號布告府縣會規則第九條追加ニ依リ府知事縣令及ヒ府縣會ヨリ具狀裁定ヲ請フコトアル毎ニ臨時左ノ人員ヲ特選シテ其事件ヲ裁定スル所トス
委員長 參隨 壹人
委員 貳人
大審院判事 貳人
大政官書記官 貳人以上

第二條 審理局主事壹人ヲ置キ庶務ヲ掌理セシム

第三條 裁定ヲ要スル具狀書ハ府知事縣令及ヒ議長各自署捺印シ府知事縣令ニ於テ之ヲ取纏メ主事ニ宛テ差出スヘシ

第四條 裁定ヲ要スル事件具狀書ヲ以テ悉サ、ルコトアルトキハ府知事縣令若クハ其代理人及ヒ府縣會總代自ラ審理局ニ出頭シテ之ヲ辯明シ又ハ審理局ヨリ之ヲ召喚シテ鞫問スルコトヲ得但府縣會總代ハ其議員タル者ニ限ル

第五條 本局ノ會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ委員長ノ可否スル所ニ依ル
第六條 裁定書ハ其議決ノ理由ヲ詳記シ委員長并ニ委員連署捺印シテ之ヲ發付スヘシ

十七年大政官第六十一號達ニ依リ消滅

○第七號 (二月十五日 輪附)

諸 省

十九年內閣第二號達ニ依リ消滅

○第八號 (二月二十六日 輪附)

官省院使廳府縣

○第八號 (二月二十六日 輪附)
修正館中一等掌記以下月俸自今左ノ通改定候條此旨相達候事

一等掌記	八等	月俸六拾圓
二等掌記	九等	同 五拾圓
三等掌記	十等	同 四拾五圓
四等掌記	十一等	同 四拾圓
五等掌記	十二等	同 三拾五圓
六等掌記	十三等	同 三拾圓
七等掌記	十四等	同 貳拾五圓
八等掌記	十五等	同 貳拾圓
一等繕寫	十六等	同 拾五圓
二等繕寫	十七等	同 拾圓

○第九號 (三月三日 輪附)

官省院使廳府縣

○第九號 (三月三日 輪附)
明治十三年四月第貳拾七號達中警視官登名トアルヲ警保局長ト改正候條此旨相達候事

○第十號 (三月四日 輪附)

府 縣

○第十號 (三月四日 輪附)
明治十三年一月第六號ヲ以テ公立小學校公立中學校公立專門學校等設置ノ地所ハ無代價ニテ可下渡旨相達置候處今般教育令改正布告候ニ付テハ自今公立農學校公立商業學校公立職工學校設置ノ地

二十二年勅令第四十三號ヲ以テ改正

官省院使廳府縣

所ヨ公立專門學校同様に可取計此旨相違候事

○第十一號 (三月十一日 輪圖附)

憲兵條例別冊ノ通相定候條此旨相違候事
但シ現今先ツ東京府下ニ共一隊ヲ實施シ他府縣ニハ追テ施行スヘシ
(別冊)

憲兵條例

第一章 憲兵汎則

- 第一條 凡ソ憲兵ハ陸軍兵科ノ一部ニ位シ巡按檢察ノ事ヲ掌リ軍人ノ非違ヲ觀察シ行政警察及ヒ司法警察ノ事ヲ兼テ内務海軍司法ノ三省ニ兼隸シテ國內ノ安寧ヲ掌ル其戰時外及ヒ非常内ノ際ニ於ケル服役ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二條 憲兵ハ各軍管ニ布キ各府縣ニ配置ス
- 第三條 憲兵ノ職掌其軍紀ノ檢察ニ係ル事ハ陸海軍兩省ニ隸シ行政警察ニ係ル事ハ内務省ニ隸シ司法警察ニ係ル事ハ司法省ニ隸ス
- 第四條 憲兵ハ其職務ニ關シ警視總監府知事縣令東京府知事ヲ除ク并ニ上等及ヒ地方裁判所檢察ノ指揮ヲ受ク
- 第五條 憲兵ハ軍管ノ司令官ニ對シテハ鎮守條例第十九條及ヒ第二十條ヲ遵守スヘシ
- 第六條 憲兵ノ常務ヲ分ツテ二種トス晝夜交替シテ非違ヲ觀察スルヲ巡察トシ臨時ニ探偵逮捕スル爲メニ派遣スルヲ檢察トス
- 第七條 巡察中若シ警察ノ職權ヲ有スル者又ハ巡查ヨリ補助ヲ要求スルコトアラハ直チニ應援シ或ハ代ツテ其事ヲ掌ル又時宜ニ依リ憲兵ヨリ巡查ニ補助ヲ求ムルコトヲ得

十六年大政官第五十二號連ヲ以テ改正
例中改正刪除

- 第八條 巡察中若シ巡查ニテ軍人ノ非違ヲ捕フル者アルニ遇ハ、憲兵ハ速ニ其軍人ヲ受取り其處分ヲ爲スヘシ又憲兵ニテ常人ノ違式違違ヲ發見シタル時ハ拘引シテ之ヲ巡查ニ引渡スヘシ
- 第九條 巡察中現行犯罪アルニ遇ハ、其何人タルヲ論セス直チニ之ヲ逮捕スルコトヲ得
但シ違式違違ハ此限ニ在ラス
- 第十條 軍人ノ逃亡及ヒ潛伏スル者等ハ陸海軍ノ諸官廳ヨリノ命令ヲ得テ之ヲ逮捕スヘシ
- 第十一條 軍人遊歩中途上ニ醉醜暴行シ或ハ酒樓食肆等ニ暴動シ或ハ武權ヲ弄シテ人ヲ侮蔑スル等凡ソ隊外ニ在テ兇暴ノ所爲ニ涉ル者ハ直チニ逮捕シテ木人所屬ノ官廳ニ送付スヘシ若シ之カ爲メニ他人ノ損害ニ罹リシ者アラハ併セテ之ヲ報告スヘシ
- 第十二條 若シ暴行者數人アリテ悉ク捕獲スルコト能ハサル時ハ其中ニテ造意者或ハ其威權アル者ヲ逮捕スヘシ
- 第十三條 若シ草賊一揆等ノ萌芽スルアラハ密カニ之ヲ觀察シ其首唱ノ人名及ヒ其人員等ヲ探偵シテ速ニ報告スヘシ
- 第十四條 水火災ノ節ハ專ラ其補助ヲ爲シ非違ヲ警メ及ヒ貨物運搬ノ場所等ヲ監視スヘシ
- 第十五條 變死人アル時ハ速ニ其處分ヲナシ又老幼婦女及ヒ急病人或ハ瘋癲人等ノ危害ニ罹ル者アレハ其扶助ヲ加フヘシ
- 第十六條 憲兵ハ命令書ヲ有スルニ非サレハ漫リニ人ヲ逮捕シ若クハ人家ニ侵入シ若クハ物件ヲ差押ルコトヲ得ス
- 第十七條 但シ現行犯及ヒ現行犯ニ准スル場合ハ此限ニ在ラス
憲兵ハ漫リニ兵器ヲ用ルコトヲ許サス
但シ其抗拒シテ制シ難ク殺傷シテ勢ハ猶豫シ難キ者アル時ハ之ヲ用ルモ妨ケナシ

第十八條 凡ツ何等ノ犯罪タルヲ論セス逃レテ外國公使ノ館地内ニ在ル者ハ之ヲ追捕スルコトヲ得

ス此場合ニ於テハ其外部ヲ警備シ速ニ屯所ニ報告シテ其指揮ヲ受クヘシ

第十九條 憲兵ハ其職務上ノ過誤失錯懲戒シテ止ムヘキモノハ陸軍懲罰令ニ照シテ之ヲ處分ス

但シ事ノ軍紀ニ關セサル者ハ此限ニ在ラス

第二章 布置編制

第二十條 憲兵ハ現今先ツ東京府下ニ共一隊ヲ設置シ憲兵本部ヲ置キ陸軍卿ニ直隸ス

第二十一條 府内ヲ六區ニ分子之ヲ憲兵ノ六管區トナシ各管區ニ若干ノ屯所ヲ設ケ二伍以上ノ分

遣ヲ爲ス其六管區ノ配置左ノ如シ

- 第一管區
- 第二管區 日本橋區 京橋區
- 第三管區 芝區 赤坂區 麻布區 荏原郡
- 第四管區 牛込區 小石川區
- 第五管區 神田區 本郷區 下谷區 淺草區
- 第六管區 深川區 本所區 南葛飾郡 南足立郡
- 北豐島郡 南豐島郡 東多摩郡

第二十二條 東京府下ノ憲兵ハ兵卒五名ヲ以テ一伍トナシ伍長一名ヲ附ス二伍ニ軍曹一名ヲ附シ十伍ニ中(少)尉一名ヲ附メ四十伍ヲ以テ一分隊トナシ大尉一名ヲ附メ其六分隊ヲ合シテ之ヲ一隊トシ中佐其司令ヲ掌ル其編制左ノ如シ

- 憲兵中佐 隊長 一名
- 憲兵大尉 副官 一名
- 憲兵大尉 分隊長 六名
- 憲兵中(少)尉ノ内 二十四名
- 憲兵准士官 下副官 一名
- 憲兵曹長 六名
- 憲兵軍曹 百二十名
- 憲兵伍長 二百四十名
- 憲兵卒 千二百名
- 會計軍吏 一名
- 會計軍吏副(補)ノ内 一名
- 軍醫 一名
- 軍醫副(補)ノ内 若干名
- 憲兵軍曹 書記 二名
- 憲兵伍長 書記 六名
- 會計二三(三)等書記 八名

第二十三條 憲兵ハ第二十四條ヨリ第二十九條マテニ據テ其擢舉及ヒ進級ヲ爲ス者トス

但シ進級法ハ其最下限ヲ示ス者ナルヲ以テ其最下限ヲ越ル者ト雖モ必シモ直チニ進級セシムルノ例ニ在ラス

第二十四條 兵卒ハ近衛及ヒ鎮臺ノ常備豫備後備軍ニ在テ左ノ三項ニ合格スル者ヲ撰擧ス

第一項 年齢二十二歳ヨリ三十歳迄ニシテ身幹五尺以上ノ者

第二項 識ミ書キヲ爲シ得ル者

第三項 行狀方正ノ者

第二十五條 伍長ハ憲兵卒ノ服役六箇月ヲ經タル者ヨリ撰任ス

但シ時宜ニ依リ他兵科ノ伍長ニシテ其服役六箇月ヲ經タル者ヨリ撰任スルコトヲ得

第二十六條 軍曹ハ憲兵伍長ノ服役六箇月ヲ經タル者ヨリ撰任ス

但シ時宜ニ依リ他兵科ノ軍曹ニシテ其服役六箇月ヲ經タル者ヨリ撰任スルコトヲ得

第二十七條 曹長ハ憲兵軍曹ノ服役一箇年ヲ經タル者ヨリ撰任ス

但シ時宜ニ依リ他兵科ノ曹長ニシテ其服役一箇年ヲ經タル者ヨリ撰任スルコトヲ得

第二十八條 下副官ハ憲兵曹長若クハ他兵科ノ下副官ヨリ撰任ス

第二十九條 士官以上ハ專ラ憲兵曹長以上ノ者ヨリシテ陸軍武官進級條例ニ基キ順次昇級セシムルヲ以テ正例トス

但シ時宜ニ依リ他兵科ノ士官以上ヨリ之ヲ撰任スルコトアルヘシ

第三章 職務分掌

第三十條 憲兵隊長ハ憲兵本部長トナリ部下ノ憲兵ヲ統率シ其命令ヲ司リ其勸懲ヲ監視シ憲兵

本部ノ事務ヲ總理ス

第三十一條 隊長ハ各官廳ノ命令或ハ依頼ヲ受テ其職務ニ服行シ及ヒ其職務ノ事ニ係リテハ直チ

ニ各官廳ト往復スルコトヲ得

第三十二條 隊長ハ非常ノ事件アルヲ探知セハ即時ニ之ヲ内務卿陸軍卿司法卿及ヒ警視總監ニ急

報スヘシ

第三十三條 隊長ハ非常ノ事件アルニ際シテハ時宜ニ依リ直チニ鎮臺兵ノ應援ヲ要求スルコトヲ得

第三十四條 隊長ハ各分隊長ノ報告ヲ受ケ月末毎ニ報告書ヲ作り行政警察ニ係ル者ハ内務卿ニ司

法警察ニ係ル者ハ司法卿及ヒ檢察ニ申告シ其行政及ヒ司法ニ係ル者ヲ併シ陸軍卿ニ申報スヘシ

但シ海軍部内ニ關スル報告ハ別ニ海軍卿ニ申告スヘシ

第三十五條 隊長ハ時々各管區并ニ各屯所ヲ巡廻スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ軍曹及ヒ兵卒各一名ヲ

具スルコトヲ得

第三十六條 副官ハ隊長ヲ補助シ各管區并ニ各屯所ヲ巡廻スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長或ハ兵卒

一名ヲ具スルコトヲ得

第三十七條 副官ハ隊長事故アル時ハ其代理ヲ爲スコトヲ得

第三十八條 分隊長ハ其分隊ノ指揮ヲ司リ巡察并ニ檢察ノ部署ヲ定メ又管區以下ノ會計給與ノ事

ヲ管理ス

第三十九條 分隊長ハ時々管區内ヲ巡廻シ部下ノ勸懲ヲ監視ス其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長或ハ兵卒一

名ヲ具スルコトヲ得

第四十條 分隊長ハ管區内ニ非常ノ事件アル時ハ直チニ出張シ之ヲ隊長ニ急報シ其指揮ヲ受ケ

ルヲ例トス

第四十一條 分隊長ハ各屯所ノ報告ヲ受ケ一週毎ニ報告書ヲ作りテ之ヲ隊長ニ申報スヘシ

第四十二條 中(少)尉ハ分隊長ノ命ヲ受ケ時々各屯所ヲ巡廻シ部下ノ勸懲ヲ監視ス其夜巡ヲ爲ス

時ハ兵卒一名ヲ具スルヲ得

第四十三條 中(少)尉ハ各管區ノ事務ヲ分掌シ各屯所ノ報告ヲ掌ル

第四十四條 中(少)尉ハ變死人等アル時ハ醫員ヲ率テ其場ニ臨ミ死體ヲ檢視シ軍人ハ該軍衛ニ通

報シ其他ハ渾テ警察官ニ引渡スヘシ

但シ時宜ニ依リ軍曹ヲ以テ檢視セシムルヲ得

第四十五條 中(少)尉ハ非常ノ事件アル時ハ之ヲ分隊長ニ急報シ其指揮ヲ受ク

第四十六條 下副官ハ副官ノ命ヲ受ケ本部中ノ庶務ヲ掌リ併セテ書記ノ監督ヲ爲ス

第四十七條 曹長ハ分隊長ノ命ヲ受ケ隊中ノ庶務ヲ掌リ併セテ書記ノ監督ヲ爲ス

第四十八條 軍曹ハ中(少)尉ノ命ヲ受ケ中(少)尉ノ在ラザル屯所ニ於テハ古參ノ者其長トナリ中

(少)尉ノ職務ヲ辨理ス

第四十九條 軍曹ハ巡察及口檢察ヲ派遣スルニ方リ其人員一伍ニ越ル時ハ之カ長トナリ伍長以下

ノ勤務ヲ監視ス

第五十條 書記軍曹ハ下副官ノ命ヲ受ケ事務ヲ分掌ス

第五十一條 伍長ハ巡察檢察及口護送等ノ事ニ當リ一伍ヲ以テスル時ハ其指揮ヲ爲シ兵卒ノ勤務

ヲ監視ス

第五十二條 書記伍長ハ曹長ノ命ヲ受ケ事務ヲ分掌ス

第五十三條 兵卒ハ守區ヲ畫シテ巡察スル者ナリト雖モ警察上追蹤スヘキ者アルニ方リテハ自他

ヲ區畫スルノ限リニ在ラズ

又他ノ管區ト連續スルノ事件ハ相通隣シテ其處分ヲ爲ス渾テ巡察中ニ生スル事件ハ手帖ニ記載

シ其報告ニ供ス

十五年陸軍省令
第二十號
ヲ以テ
第二十八號
ヲ增加ス

第五十四條 東京府下ノ憲兵ハ常人ノ現行犯罪ヲ除クテ逮捕シタル時ハ直テニ警察署若クハ巡

行ノ巡查ニ引渡スヘシ

但シ軍人ノ現行犯罪ハ第十一條ノ例ニ據ル

東京憲兵定員表

東京憲兵定員表			東京憲兵本部									
部	官	名	中佐	大尉	中尉	少尉	准士官	曹長	軍曹	伍長	卒	計
第一管區	第一管區	東京 日本橋區	一	一	一	一	四	一	二	一	二	二百二十六
		芝原區	一	一	一	一	四	一	二	一	二	二百二十六
		赤坂區	一	一	一	一	四	一	二	一	二	二百二十六
		芝原區	一	一	一	一	四	一	二	一	二	二百二十六
		四谷區	一	一	一	一	四	一	二	一	二	二百二十六
		小石川區	一	一	一	一	四	一	二	一	二	二百二十六
		神田區	一	一	一	一	四	一	二	一	二	二百二十六
		本郷區	一	一	一	一	四	一	二	一	二	二百二十六
		深谷區	一	一	一	一	四	一	二	一	二	二百二十六
		水戸區	一	一	一	一	四	一	二	一	二	二百二十六
		深谷區	一	一	一	一	四	一	二	一	二	二百二十六
		南區	一	一	一	一	四	一	二	一	二	二百二十六
		南區	一	一	一	一	四	一	二	一	二	二百二十六
		北區	一	一	一	一	四	一	二	一	二	二百二十六
		北區	一	一	一	一	四	一	二	一	二	二百二十六
		東區	一	一	一	一	四	一	二	一	二	二百二十六
		東區	一	一	一	一	四	一	二	一	二	二百二十六
		第六管區	一	一	一	一	四	一	二	一	二	二百二十六

備考	一	九	二十五	一	六	三百七十六	二千二百六十八
----	---	---	-----	---	---	-------	---------

○計官警官ヲ除キ少尉以上凡テ乘馬水分トシテ副官以下ハ時並ニ依リ乘馬セシムルコトアルヘシ
 ○遊兵隊ノ人員ハ時並ニ依リ之ヲ増減スルコトアルヘシ
 ○軍醫副官ノ人員ハ實際ニ就テ之ヲ定ム

二十一年勅令第六十一號ヲ以テ第十一號布告改定

○第十二號 (三月十八日 輪廻附)
本年二月拾六號布告第三條警察官吏并之ニ準スヘキ備内外人ノ諸給與ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ストアルハ是迄全ク國庫ノ支辨ニ係リシ費項ヲ指シタルモノニシテ地方稅ト連帶支辨ニ係ル費項ニ關係ナキ儀ト心得ヘシ此旨相違候事

第八十一號並ニ依リ消滅

○第十三號 (三月十八日 輪廻附)
內務省 開拓使 警視廳
府 縣 東京府 府 縣 除ク

明治八年二月第八號違囚人給與規則ヲ廢シ在監人給與規則別紙ノ通相定メ候條來ル七月一日ヨリ施行致スヘシ此旨相違候事
(別紙)

在監人給與規則

- 第一條 已決囚ノ獄衣類ハ總テ之ヲ貸與ス
- 第二條 未決者ノ衣類ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セント請フ者ハ之ヲ許ス貧困ニシテ衣類ヲ自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス
- 第三條 已決囚ノ獄衣ハ赭色トシ懲治人ノ衣服ハ淺葱色トス
- 第四條 獄衣ハ總テ筒袖トシ長短二種ニ別ツ男ノ通常服ハ長衣就役服ハ短衣トシ女服ハ總テ長衣トス
- 第五條 獄衣ノ外襟ニハ白布ヲ縫着シ之ニ番號ヲ墨書スヘシ

通常服

- 一 單衣
- 一 袴
- 一 綿入衣
- 一 襦袢
- 一 就役服
- 一 單短衣
- 一 袴短衣
- 一 綿入短衣
- 一 襦袢
- 一 股引
- 一 雜具
- 一 蒲團
- 一 蚊帳
- 一 莞蓆
- 一 枕
- 一 帶 尺三
- 一 帶 尺三
- 一 襪 尺三
- 一 手巾
- 一 蓑

一笠
以上ノ貸與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ澁濯補綴シテ共用ニ充ルヲ得

第六條 在監一人一日ノ食糧
一 下白米十分ノ四七分
一 挽割麥十分ノ六五分
一 同 五合
一 同 四合
一 同 三合
一 菜 金壹錢五厘以下
地方ノ便宜ニ依リ粟稗ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルヲ得

第七條 工業ニ勉勵熟達シテ食費三倍以上ノ工錢ヲ得ル殊獎ノ者ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ物品ヲ購ヒ之ヲ給スルヲ得
但一日金三錢ヲ過ルコトヲ得ス

第八條 在監人日用ノ雜費 澁濯補綴又ハ炊用ノ薪炭
其他一身ニ係ル日常諸費 一人一日金壹錢以下トス

第九條 監房常置ノ器具
一 貯水器并ニ炊器 木製
一 唾壺 同
一 便器 木製 大小二種但監房ニ用ルハ檢鎖スルモノハ此器ヲ用ヒス
一 小箒 草ノ種類ヲ以テ製作
一 洗手盆 木製

内務省乙第十七號
明治十四年三月
第二十七號ニ依リ
施行

第十條 浴湯ノ定度ハ每年六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一次十月ヨリ五月マテハ十日毎ニ一次トス
第十一條 已決囚及口懲治人ノ髪ハ常ニ之ヲ短整シ髭鬚アル者ハ常ニ剃除セシム但未決者ハ此限ニ在ラズ
婦女ノ梳髮ハ齊ヲ用ヒテ裝飾スルヲ許サズ

第十四號 (三月十八日 輪廓附)
官省院使廳府縣
内務省所管集治監獄司以下官等俸給左ノ通改定俸條此旨相違候事

十九年勅令第五十四號
依リ消滅

第十五號 (三月十八日 輪廓附)
官省院使廳府縣
府縣官中典獄書記看守長看守ヲ置キ官等俸給左ノ通相定俸條此旨相違候事

官等	典獄	書記	看守長	看守	看守	看守	看守	看守	
判									
月俸	七十五圓 六十四圓 五十四圓 四十四圓 四十四圓 三十五圓 三十四圓 三十四圓 二十四圓 二十四圓	六十四圓 五十四圓 四十四圓 三十四圓 三十四圓 二十五圓 二十四圓 二十四圓 十四圓 十四圓	六十四圓 五十四圓 四十四圓 三十四圓 三十四圓 二十五圓 二十四圓 二十四圓 十四圓 十四圓	六十四圓 五十四圓 四十四圓 三十四圓 三十四圓 二十五圓 二十四圓 二十四圓 十四圓 十四圓	六十四圓 五十四圓 四十四圓 三十四圓 三十四圓 二十五圓 二十四圓 二十四圓 十四圓 十四圓	六十四圓 五十四圓 四十四圓 三十四圓 三十四圓 二十五圓 二十四圓 二十四圓 十四圓 十四圓	六十四圓 五十四圓 四十四圓 三十四圓 三十四圓 二十五圓 二十四圓 二十四圓 十四圓 十四圓	六十四圓 五十四圓 四十四圓 三十四圓 三十四圓 二十五圓 二十四圓 二十四圓 十四圓 十四圓	六十四圓 五十四圓 四十四圓 三十四圓 三十四圓 二十五圓 二十四圓 二十四圓 十四圓 十四圓

府縣東政府
府縣東政府
府縣東政府

典獄ハ事ヲ府知事縣令ニ受テ監署ノ事務ヲ總理ス

副典獄

典獄ニ亞シ

書記

各共主務ニ従事ス

看守長

監獄ノ戒護ヲ掌リ兼テ看守ノ勤惰ヲ視察ス

看守

監獄ノ戒護ニ従事ス

○第十七號 (三月十八日 檢附)

官省院使廳府縣

監獄看守長及ヒ看守ノ服制並ニ提燈徽章左ノ通相定候條此旨相違候事

一 看守長ノ服制提燈徽章ハ總テ明治十二年六月第二十五號通守長ノ制ヲ用フヘシ

一 看守ノ服制提燈徽章ハ同通守長ノ制ヲ用フヘシ

但前章ヲ存シ其横線及ヒ衣袴ノ章ハ總テ廢止ス

○第十八號 (三月十八日 檢附)

警視廳 府縣 東京府

監獄看守長看守ニ爲取給帶劔可爲致此旨相違候事

但劔制ハ適宜タルヘシ

○第十九號 (三月十八日 檢附)

官省院使廳府縣

内務省所管集治監職制左ノ通相定候條此旨相違候事

職制

内務省乙第三十一號
明治十二年六月第二十五號
通守長ノ制ヲ用フヘシ
以テ看守長ノ制ヲ用フヘシ
以テ看守長ノ制ヲ用フヘシ
以テ看守長ノ制ヲ用フヘシ

内務省乙第三十一號
明治十二年六月第二十五號
通守長ノ制ヲ用フヘシ
以テ看守長ノ制ヲ用フヘシ
以テ看守長ノ制ヲ用フヘシ
以テ看守長ノ制ヲ用フヘシ

典獄

一 内務卿ノ指揮ヲ受テ書記看守長以下ヲ統率シ監署ノ事務ヲ總理ス

二 判任官ノ進退黜陟ハ内務卿ニ具狀シ等外吏及ヒ傭人ノ進退黜陟ハ之ヲ專行ス

副典獄

典獄ニ亞シ

書記

各共主務ニ従事ス

看守長

監獄ノ戒護ヲ掌リ兼テ看守ノ勤惰ヲ視察ス

看守

監獄ノ戒護ニ従事ス

○第二十號 (三月二十一日 檢附)

官省院使廳府縣

宮内省中門監長以下ヲ置キ官等俸給左ノ通相定候條此旨相違候事

門監長 十等以下十三等以上

門監 十七等

門部 等外七月拾圓以下

○第二十一號 (三月二十一日 檢附)

官省院使廳府縣

明治十三年十一月第六十四號達皇居諸門規則中左ノ通り改正來ル四月一日ヨリ施行候條此旨相違候

事

第一條中

明治十四年三月 大政官 第十七號 第二十一號

十九年宮内省第一
號ニ依リ消滅

二十一年宮内省第一
號ニ依リ消滅

第一 皇居正門(裏門)

皇居正門ハ車駕ノ出入スル所ナリ故ニ皇族ハ常ニ此門ヲ通行ス勅拜參賀ニ付諸官員雖香問請
非役有位有勳ノ者禮服用ノ節并ニ外國人參内スル者ニ限り其通行ヲ許ス

但其乘車馬ヲ用フルハ從前ノ成規ニ據ル(以下ノ略)

第二條 皇居ノ諸門ハ近衛兵共守衛ヲ掌ルト雖モ出入其門鑑ヲ検査セシムル爲メ別ニ宮内省ヨリ
門部ヲ置ク

第三條 門部ハ出入門鑑ヲ検査スルノ際其通行人ニ於テ非違暴行ノ所爲ニ涉ル者アル時ハ直チニ
該門ノ守衛兵ニ引渡スヘシ

第四條 外部諸門出入ノ際大禮服用ノ者及ヒ勳章掲帶ノ者并軍人警察官制服着用ノ者ハ其門鑑
ヲ要セス

但大臣參議諸省ノ卿ハ常服用ノ時ト雖モ其官姓名ヲ告ケテ出入スルコトヲ得

○第二十二號 (三月二十一日 陸軍部)

陸軍憲兵服制別冊ノ通相定候條此旨相違候事

(別冊)

陸軍憲兵服制圖例

將校正服用 水例中略シテ載セサルモノハ派テ陸軍服

帽正軍服兼用

諸將校正帽ニ同シ但其色ヲ萌黃トス

形状 如圖

衣袴

十九年内閣第十四
號通令第四十八
號ニ依リ明治
十七年六月號
第七十六號通
令第二十五
號ニ依リテ服制中
加改正

十九年内閣第十五
號通令第五十二
號ニ依リテ門部
正

步兵將校正衣袴ニ同シ

同軍服

帽

衣袴

步兵將校軍衣袴ニ同シ

同懸章

憲兵將校ハ正軍服ニ論ナク常ニ懸章ヲ佩用スルヲ法トス

品質 毛或ハ絹織打紐其他飾物ニ同シ

色 萌黃

形状 如圖

同軍刀

步兵將校ニ同シ

同外套

諸將校ニ同シ但袖口ヲ緋色トス

形状 如圖

下副官正服

帽正軍服兼用

諸兵下副官正帽ニ同シ但其色ヲ萌黃トス

形状 如圖

衣袴

歩兵下副官正衣袴ニ同シ

同軍服

袴

衣袴

歩兵下副官軍衣袴ニ同シ

同外套

諸兵下副官ニ同シ但袖口ヲ緋色トス

形状 如圖

下士服

袴

地質 絨

色 萌黄

縦横線章 横線ハ毛糸打紐色緋帽ニシテ各差アリ曹長ハ四條 幾條ト記スルハ帽ノ上部ト下部トニ一分分 縦線亦横線ニ同クシテ上方ニ向テ各部斜ニ一條ヲ附ス

軍曹ハ三條伍長ハ二條トス但各線間隙ハ縫際ノ横線ノ外各一分トス

頂上章 襄狀小線ノ内ニ星章一箇ヲ附ス

眼庇 黒色革

前章 具餘日章五分

頤紐 將校ノ制ニ同シ但其金具ヲ銅トス

形状 如圖

衣

地質 大絨

色 紺

襟 無章

袖章 緋毛織ニシテ各差アリ曹長ハ大線一分 小線五分 軍曹ハ大線一分 小線五分 伍長ハ大線一分 小線五分 附ス

線邊 但各線間隙ハ各一分トス

物入 黒毛織五分 左衽ノ裏面ニ一箇ヲ付ス

縫製形状 如圖

地質 大絨

色 紺

側章 緋毛織五分

縫製形状 如圖

兵卒服

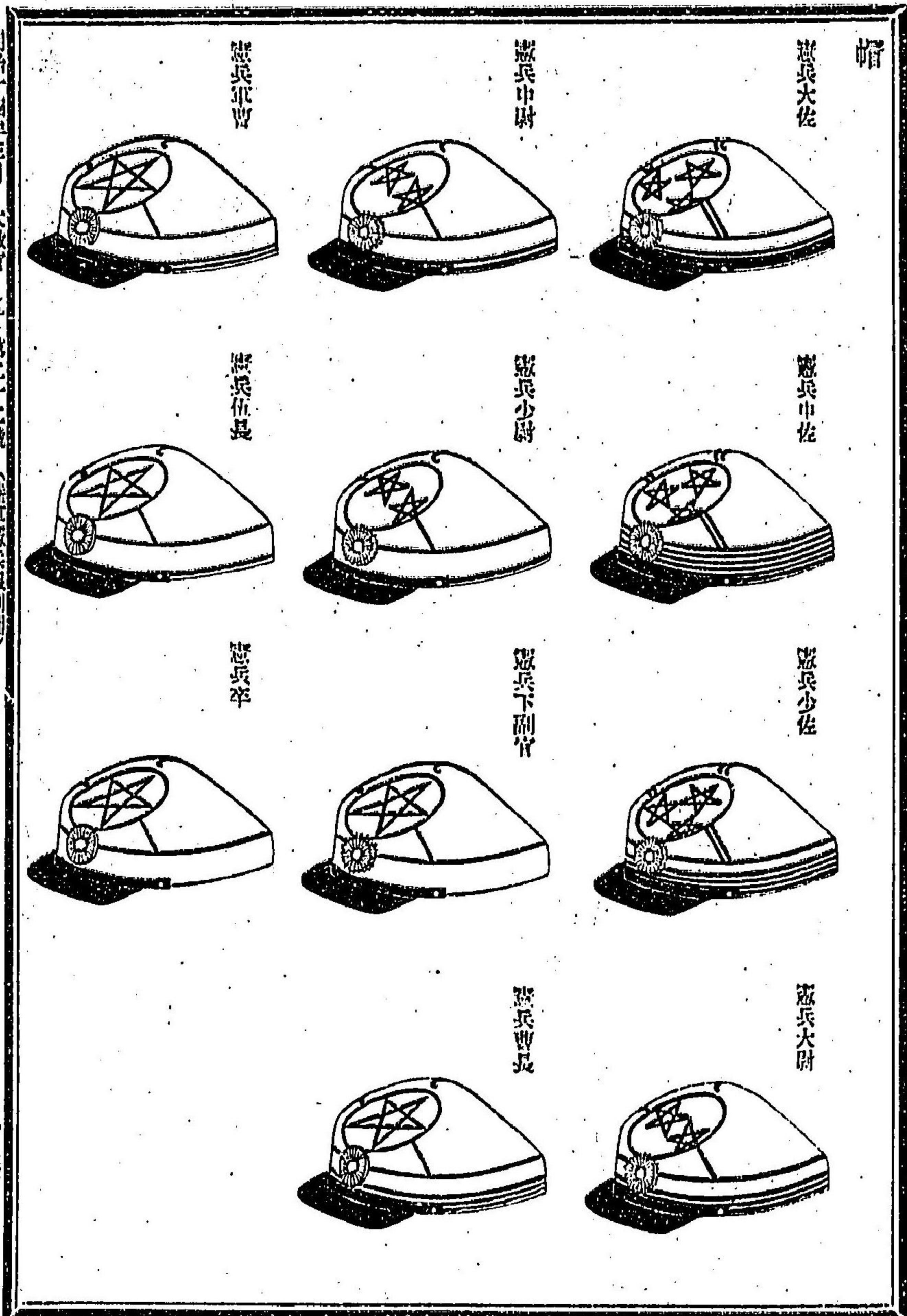
下士ニ同シ但其異ナルモノ左ノ如シ

横章 縫際ノ線一條トス

前章 銅日章五分

形状 如圖

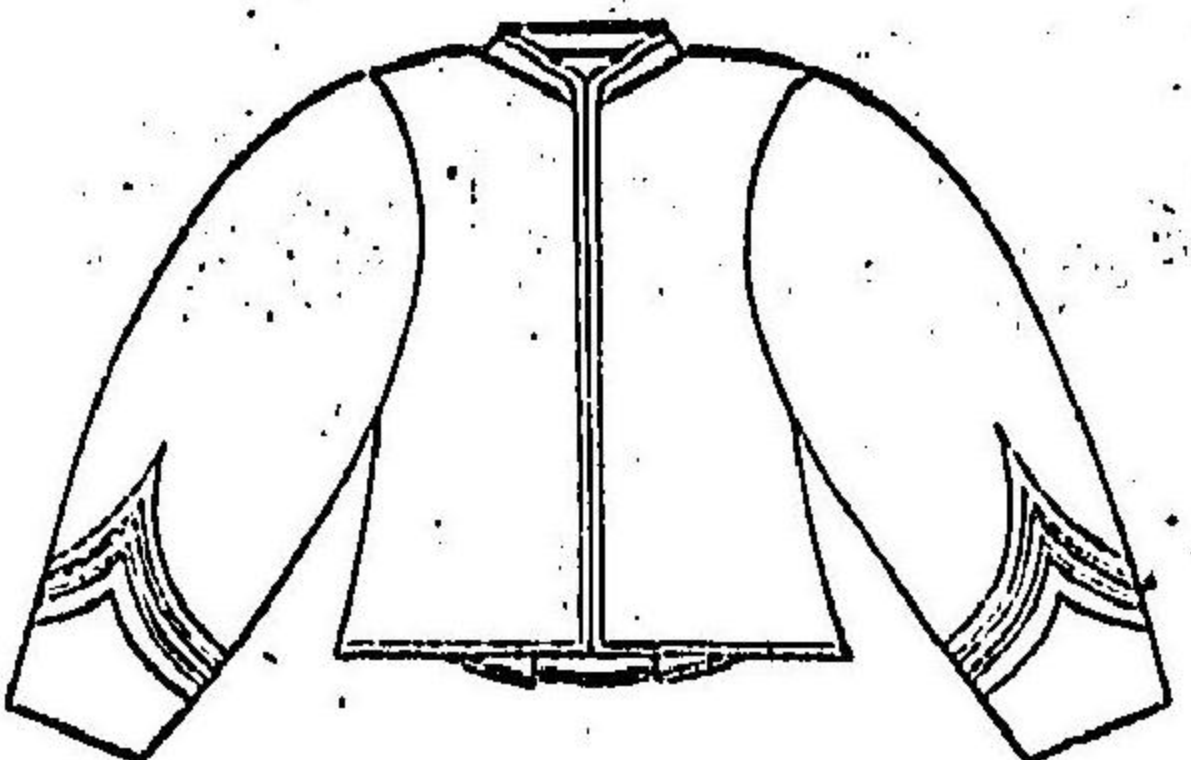
形狀 如圖
 衣 綾小倉
 地質 紺
 色 紺
 襟 無章
 袖章 緋毛絲織小線 幅五一樣ヲ附ス
 物入 下士ニ同シ
 縫製形狀 如圖
 袴 綾小倉其他下士ニ同シ
 地質 綾小倉其他下士ニ同シ
 縫製形狀 如圖
 下士卒外套 諸兵下士卒ニ同シ但袖口ヲ緋色トス
 形狀 如圖
 同夏服 諸兵下士卒ニ同シ但袖口ヲ緋色トシ卒ハ黃色ノ喰田シノ細線ヲ附セシ
 同晴日覆 地質 白雲齋
 縫製形狀 如圖
 陸軍憲兵制服圖



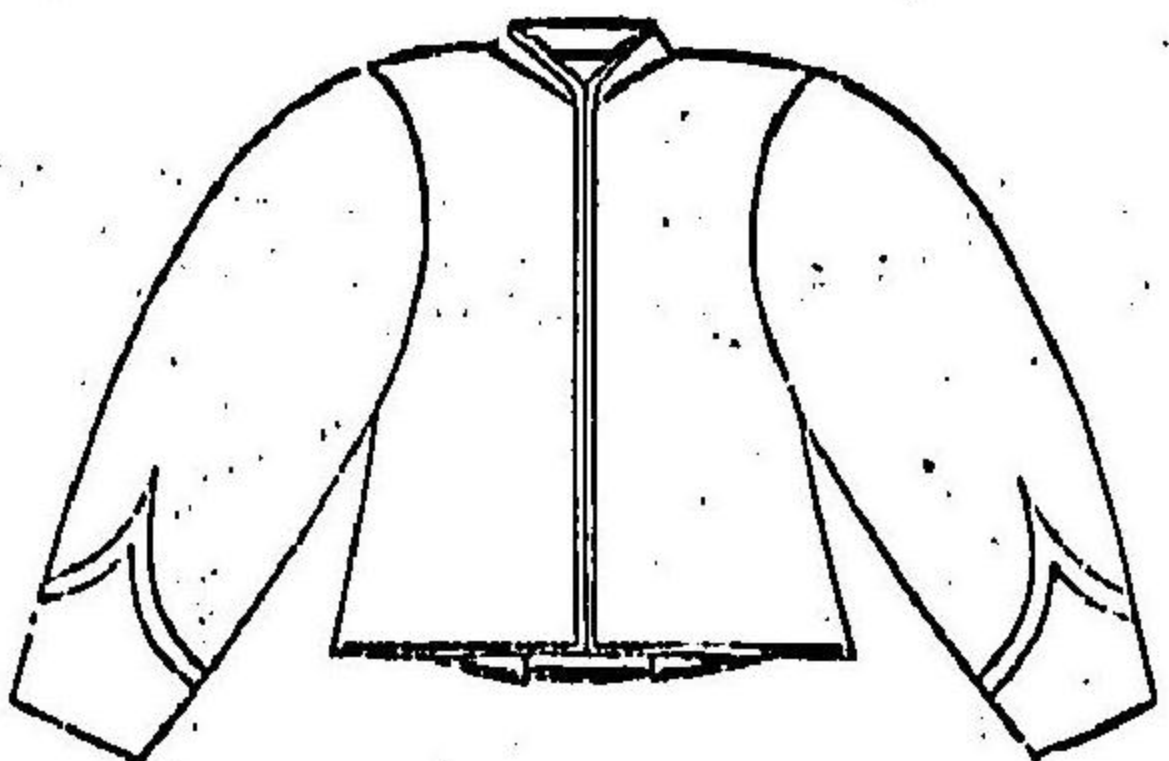
衣

憲兵曹長

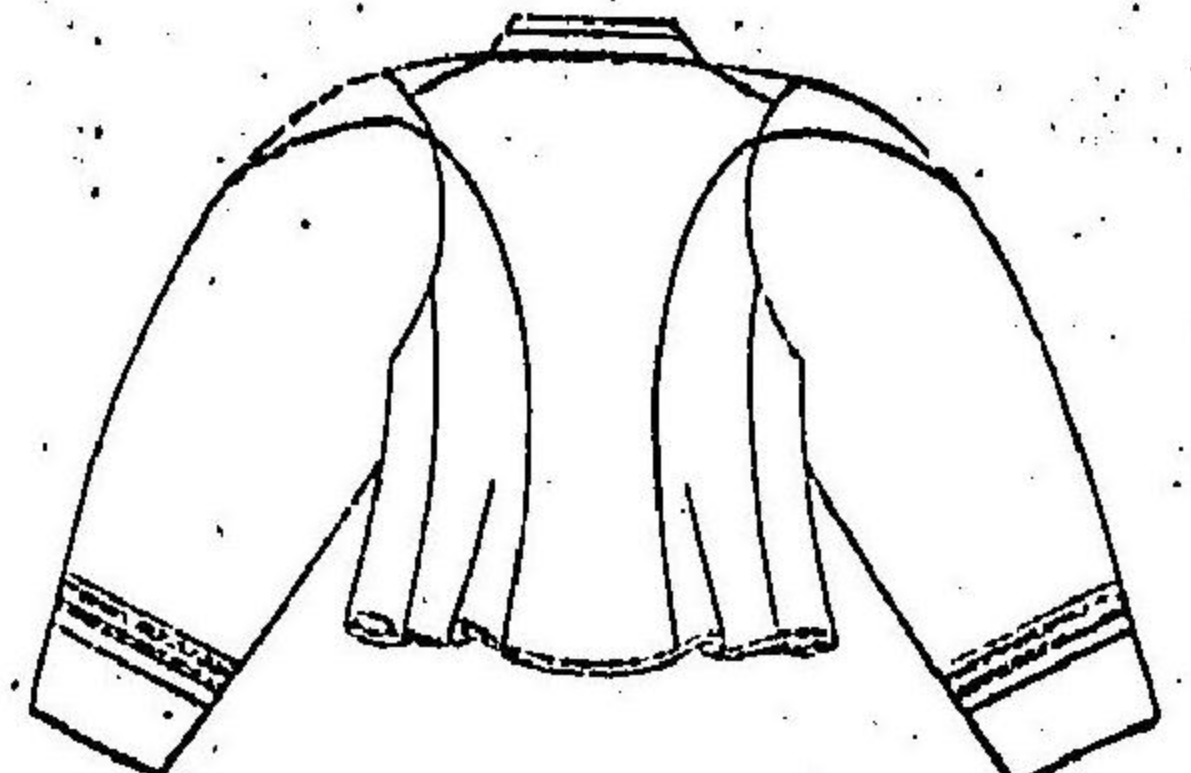
前



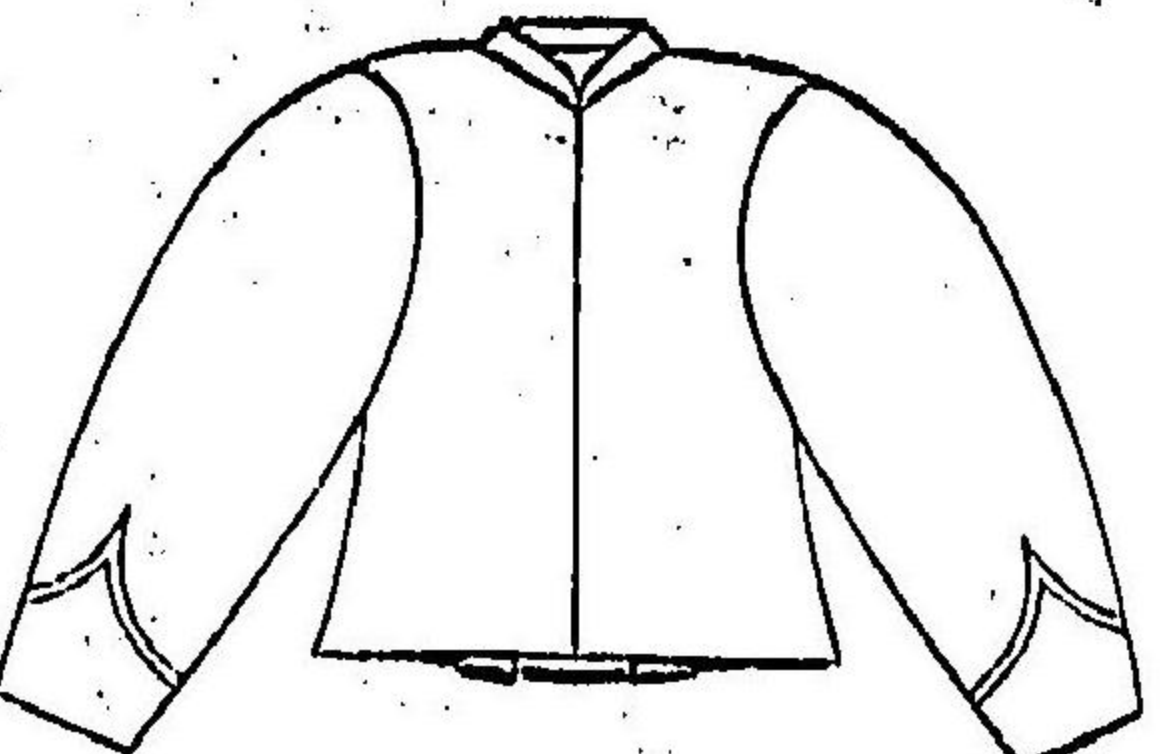
憲兵伍長



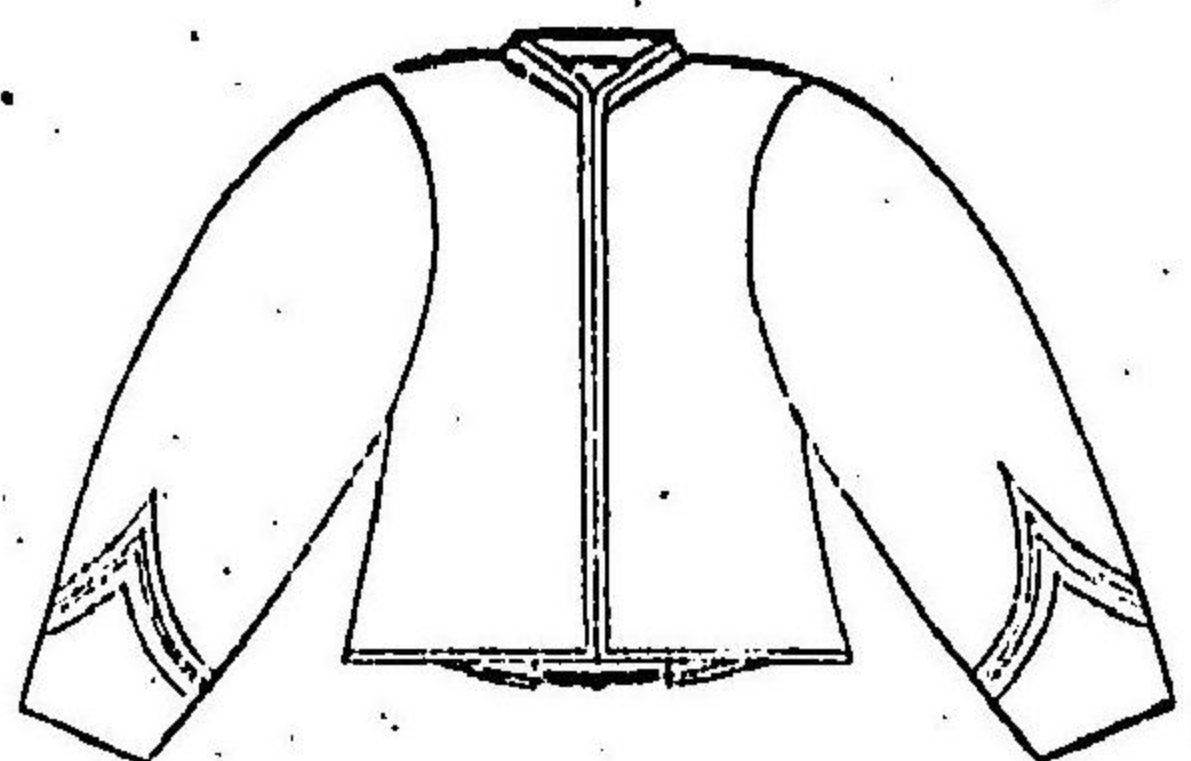
後



憲兵卒

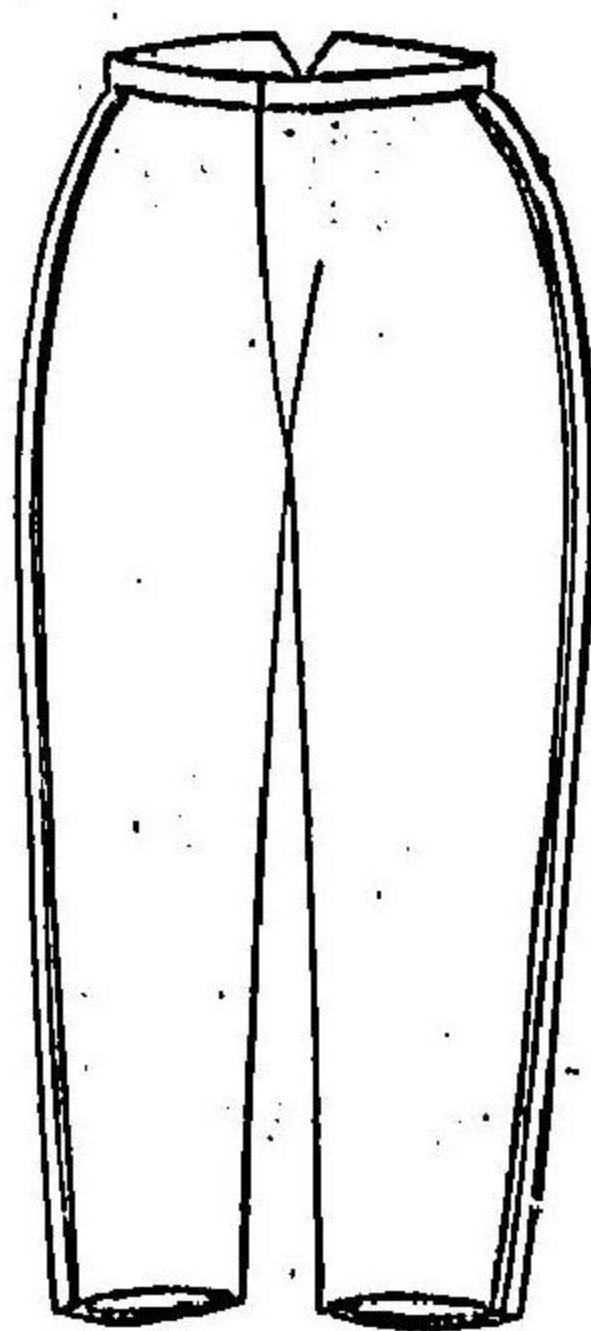


憲兵曹



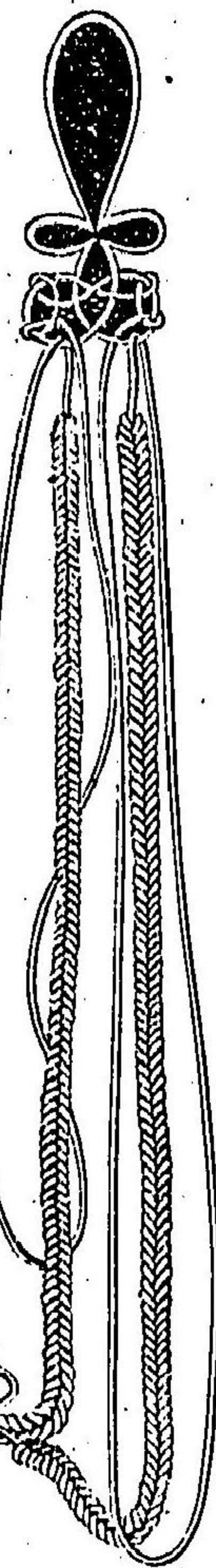
袴

憲兵下士卒



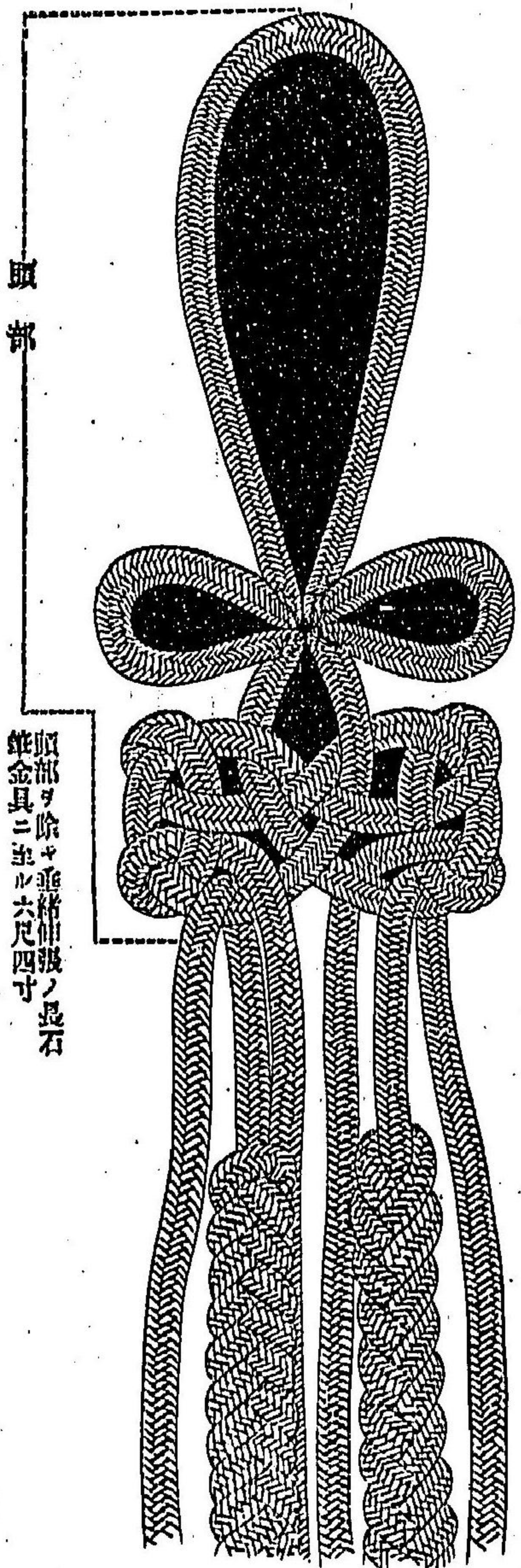
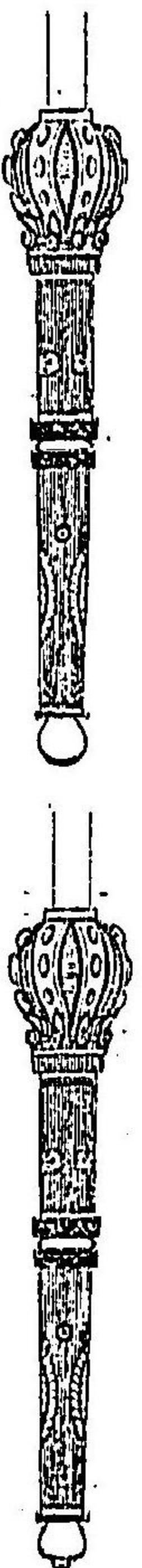
懸章

憲兵將校



全體官服之圖

大小如圖 (大者圖中二倍於小)

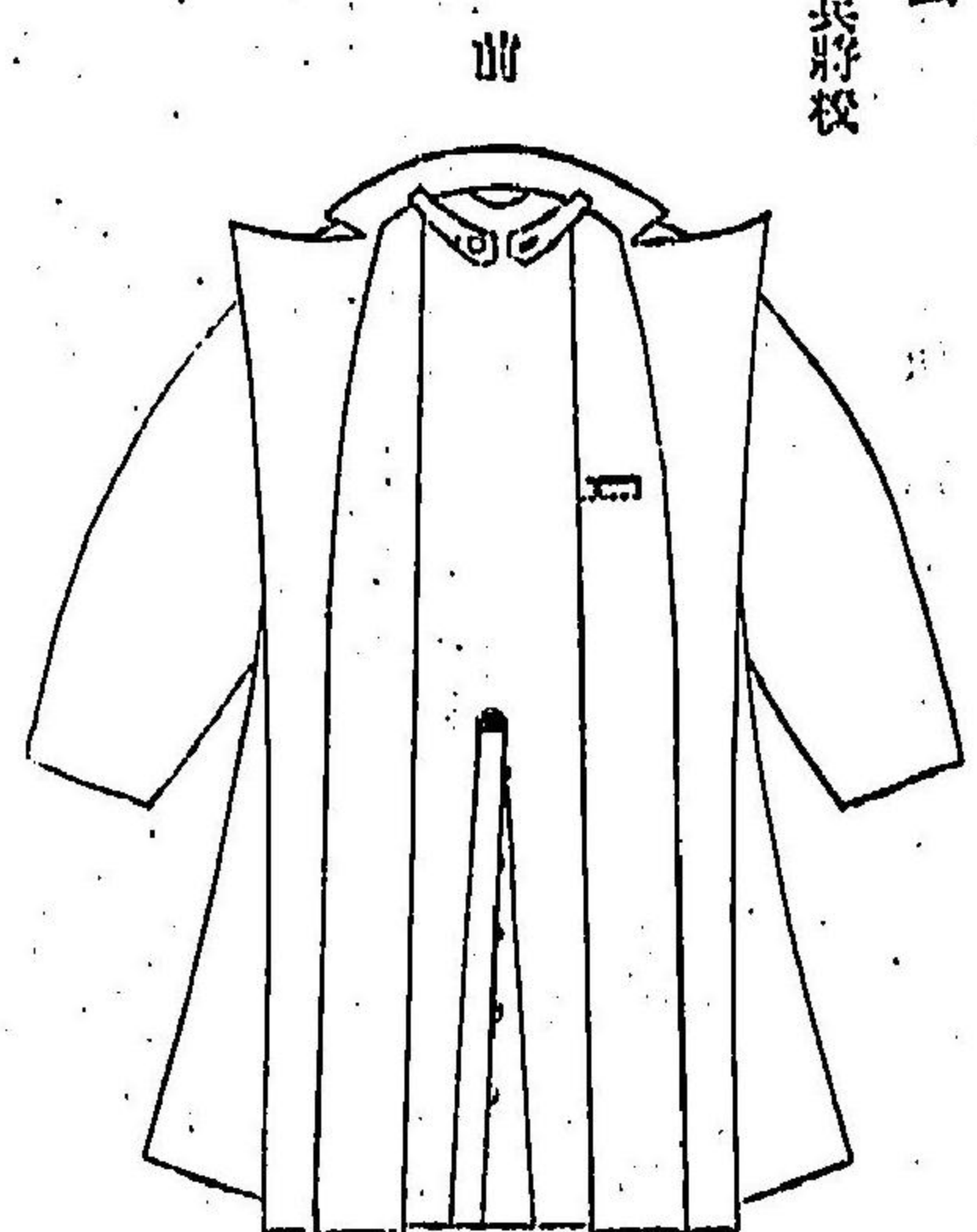


佩帶

頂部ヲ除キ垂線部ノ長石
鍍金具ニ由ル六尺四寸

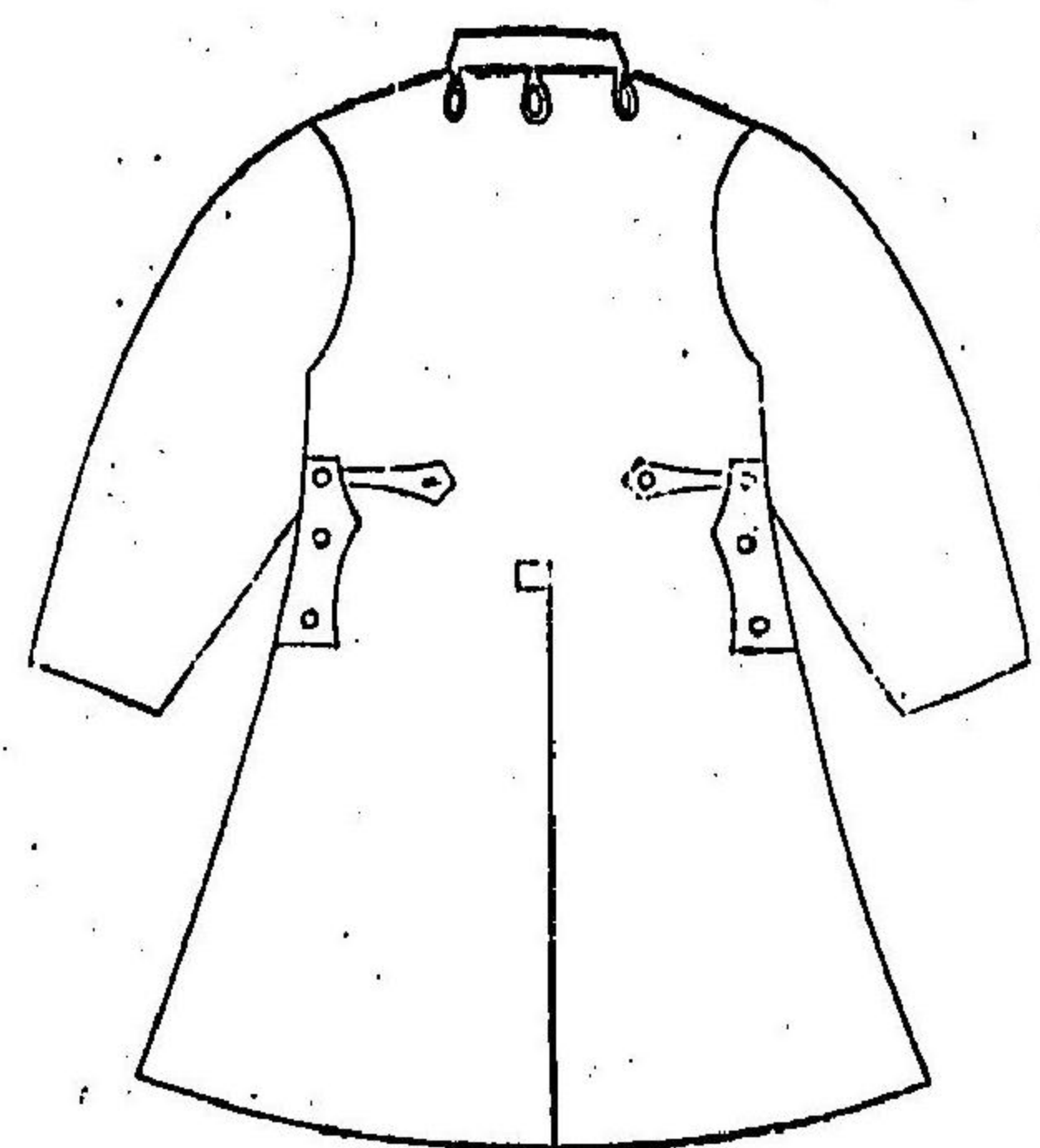
外套

憲兵將校

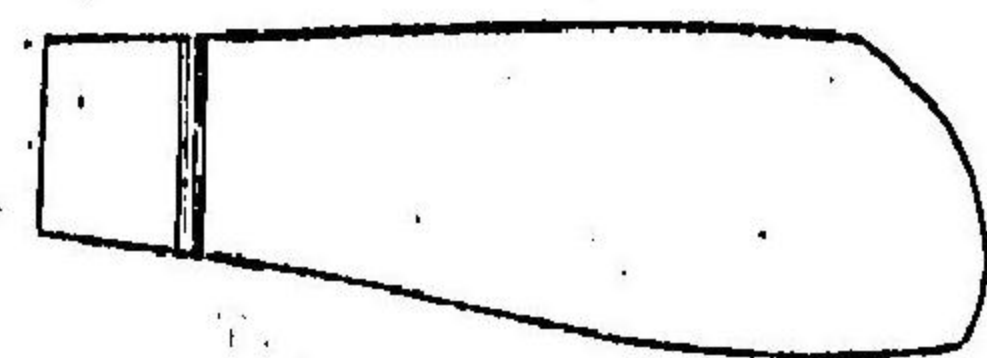


前

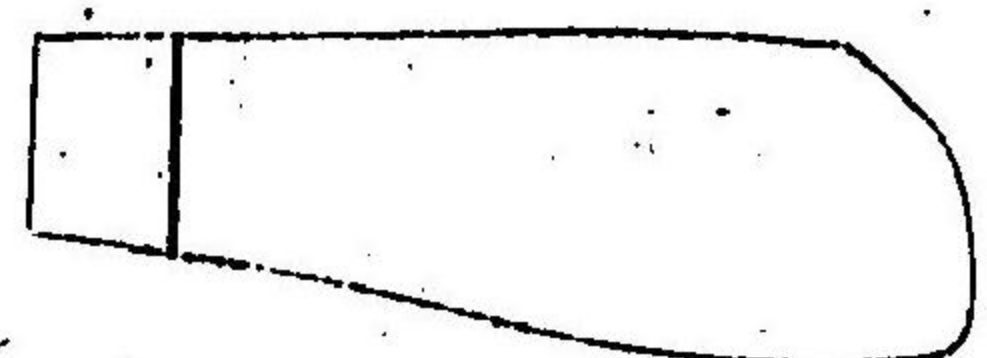
後



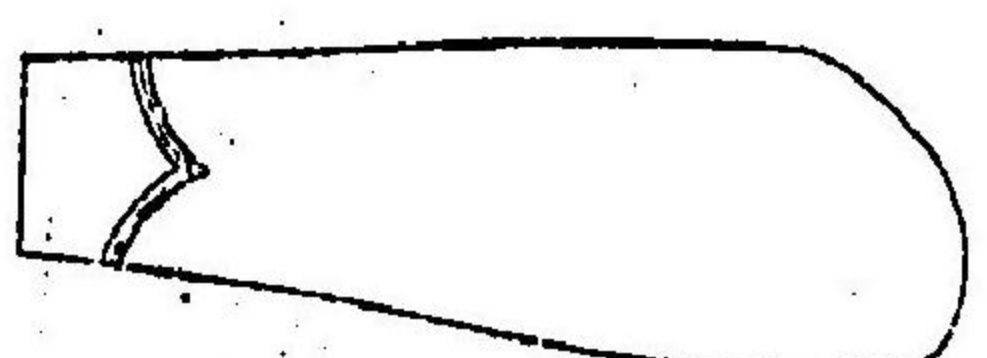
外套袖章
佐官



尉官



下副官

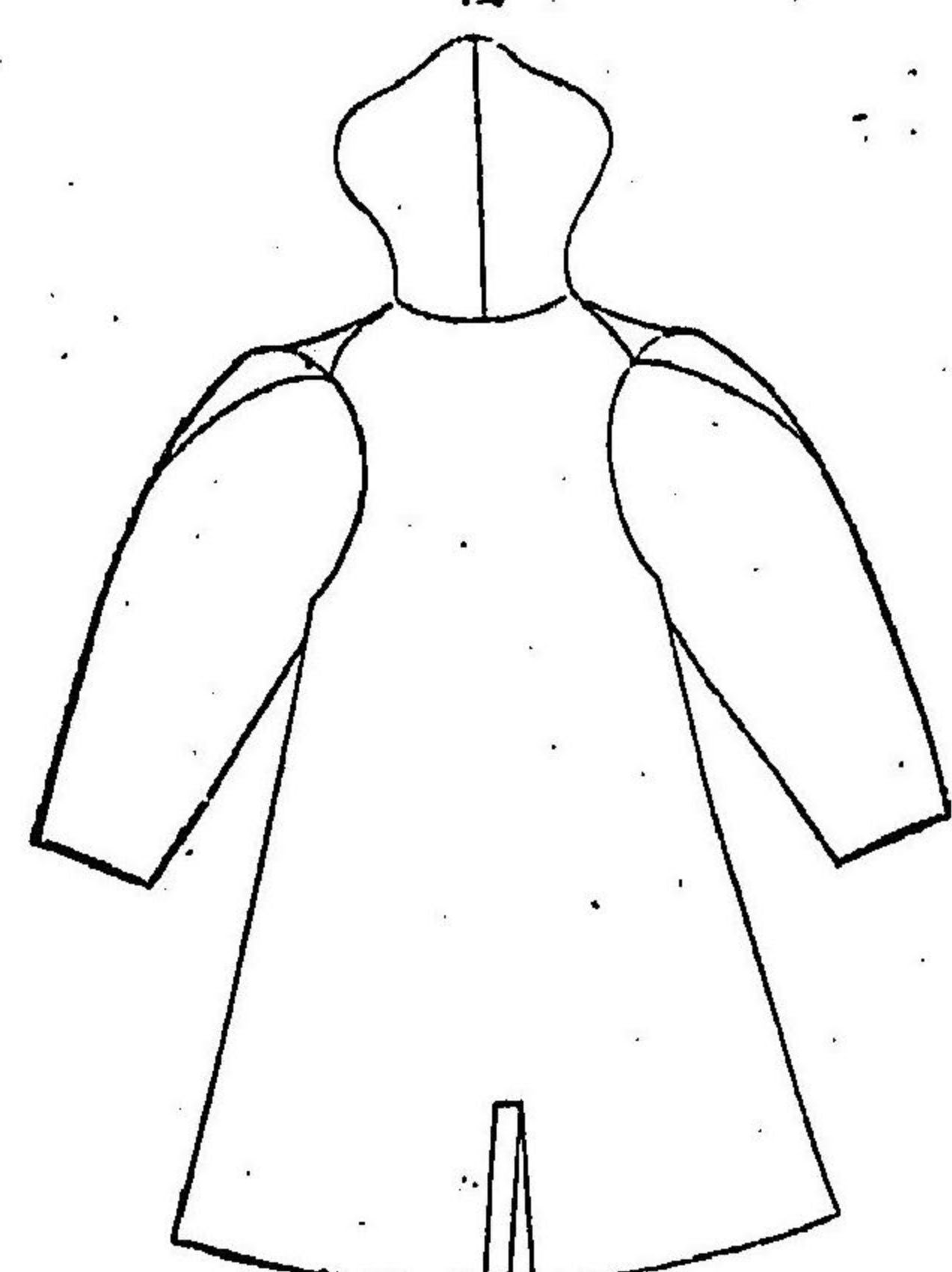


外套
憲兵下士卒

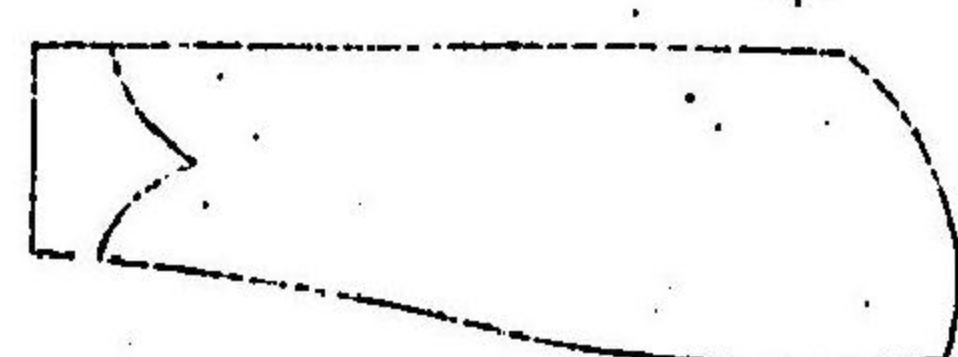
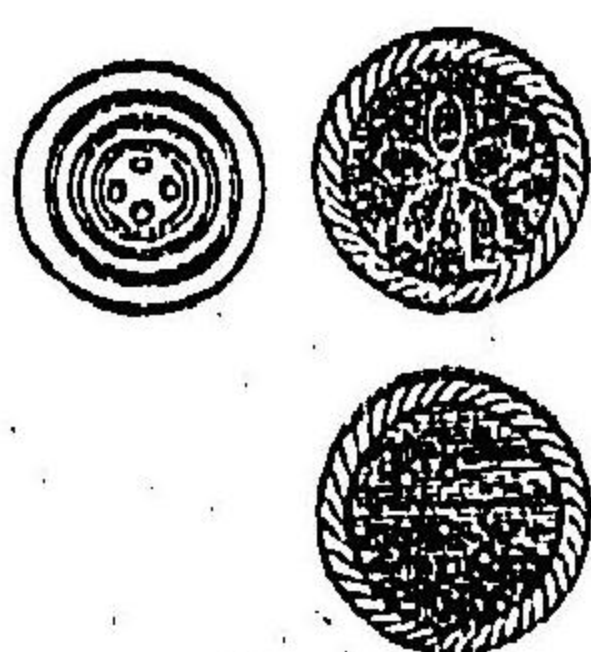


前

後

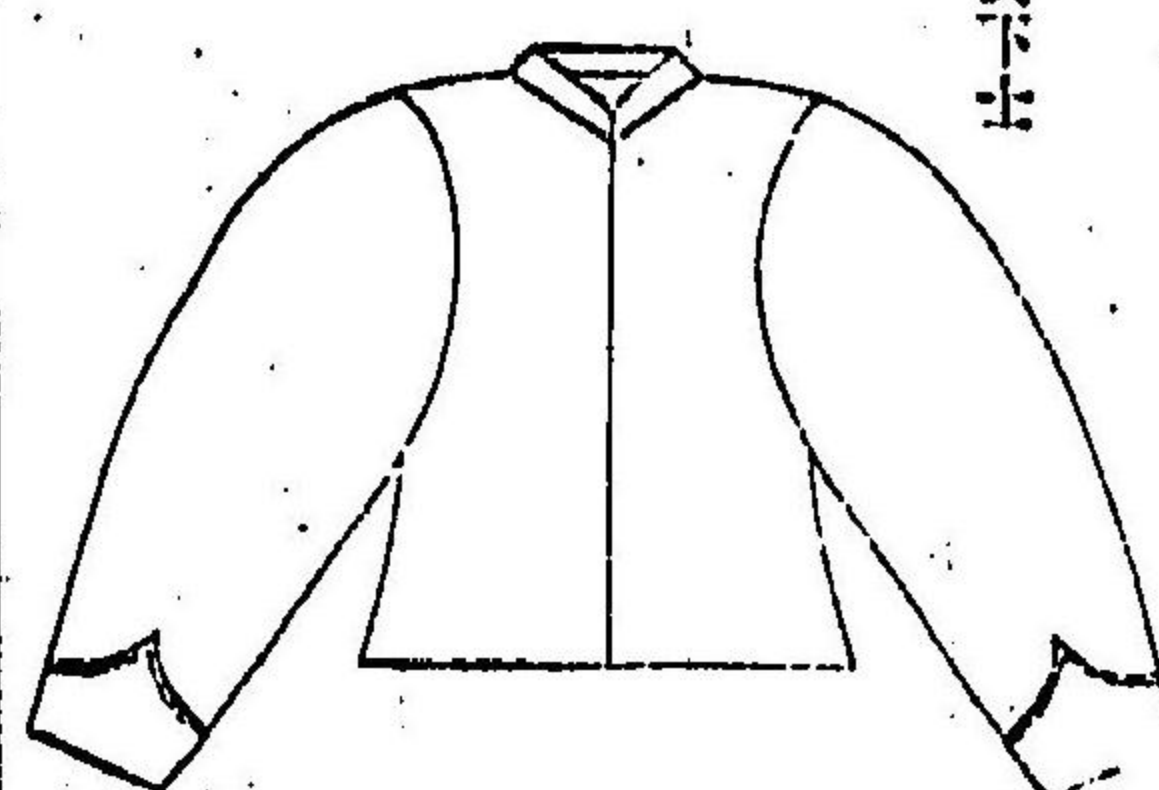


外套袖章
憲兵下士卒

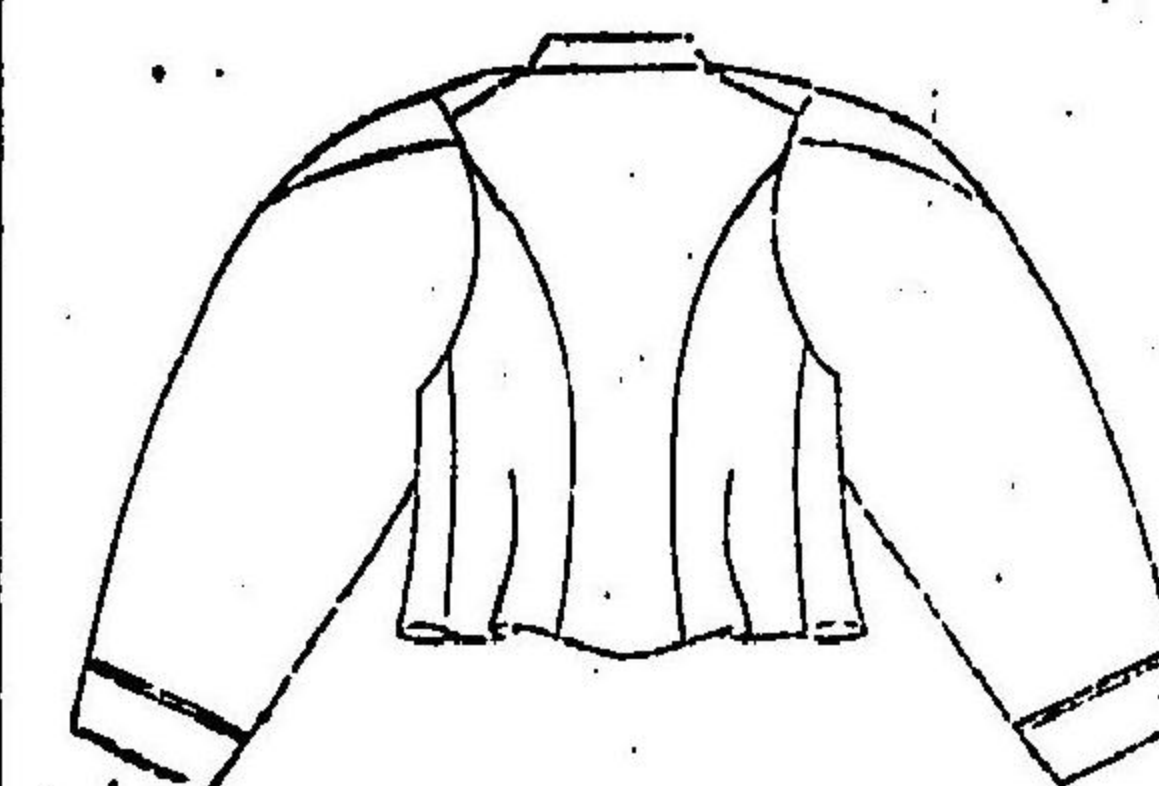


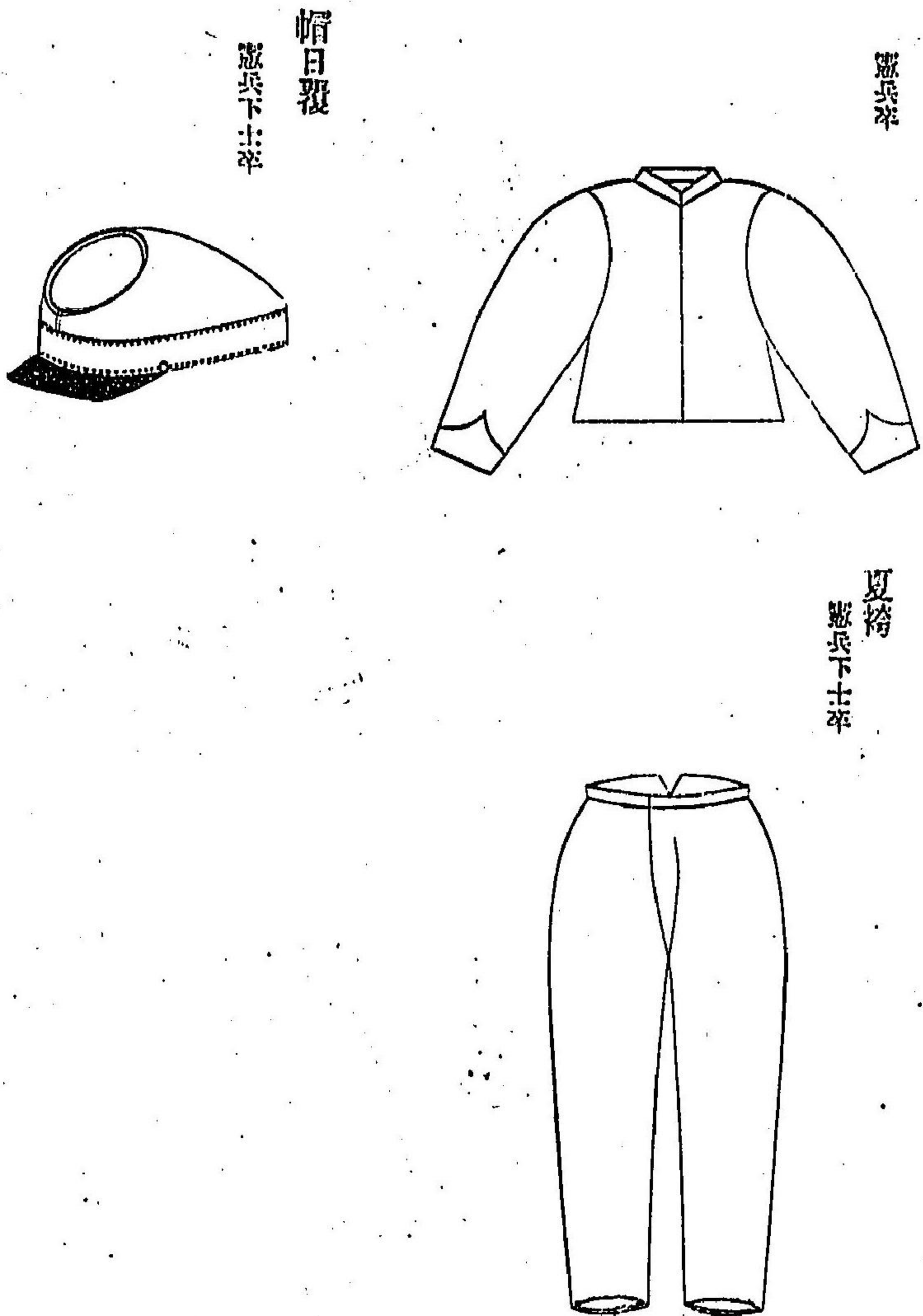
夏衣
憲兵下士

前



後





十五号太政官第三十八號ニ依リ消滅

十一月十五日文部省令以テ内閣府廢止

第九十四號建十八号太政官第六十九号令第二號ニ依リ職制及事務減

第七十八號建以テ第一項中追加

十五号太政官第二十九號建以テ第二項改正

十八号太政官第三十號建以テ第五項改正

○第二十三號 (三月二十六日 陸軍府)

警視廳消防少司令月給左ノ通改定候條此旨相違候事

消防少司令 一等 貳拾圓 二等 拾五圓 三等 拾貳圓

○第二十四號 (三月二十九日 陸軍府) 官省院使廳府縣

今般文部省中ニ内記局設置候條此旨相違候事

○第二十五號 (四月七日 陸軍府) 官省院使廳府縣

今般農商務省ヲ設置シ職制並ニ事務章程別冊ノ通相定候條此旨相違候事

(別冊)

農商務省職制並ニ事務章程

農商務省職制

卿

- 第一 農業、商業、工作、技術、漁獵、商船、海員、海軍所管ノ發明、商標、度量衡、開墾、牧畜、動植物ノ育種、獸醫、會社、銀行、台社、山林、驛遞ニ關スル法令ノ施行ヲ保持監督ス
- 第二 官設ノ農商工ノ諸學校、工部省所管ノ工農工業模範ノ建造物及日博物館、從前內務省所管ノ管理シ民立農商工ノ諸學校ヲ監督ス
- 第三 商法會議所及農工業ニ關スル議會、米商會社、株式取引所ヲ管轄ス
- 第四 博覽會、競進會、博物館ノ保存、農商業工作技術ノ改良、防害、其器具ノ改良、試驗、地質調査ノ結果等ニ因リ農商工ノ改進黨勸ニ關スル事務ヲ管理ス
- 第五 驛遞官ヲ統率シ驛遞及日郵便爲換貯金預リノ事務ヲ總判ス
- 第六 官有ノ山林ヲ管轄シ其保蓄栽培伐木ニ係ル事務ヲ統理シ私有ノ山林保蓄栽培伐木ノ方

ヲ監督ス

- 第七 一般ノ統計表編製ノ材ニ供スルメ農商工ノ盛衰郵便ノ増減物價ノ高低内外貿易ノ
景況及ヒ山林ノ調査等ニ關スル文書ヲ採集ス
 - 第八 部下ノ官員奏任以上ノ進退辭階ヲ上請シ其他ノ屬官ハ之ヲ判任ス
 - 第九 主管ノ事務ニ付テハ地方官ニ向テ命令副狀ヲ下スヲ得
 - 第十 省中各局長ノ任免ハ之ヲ上請シ省中ノ官員ニ課長以下ノ課務ヲ命スルヲ得但局中ニ課
ヲ置キ課中ニ掛ヲ置キ及ヒ各局處務規程ヲ創設シ若クハ之ヲ改正シ及ヒ主管ノ事務ニ付人
民ニ布達セントスルトキハ上請裁可ノ上之ヲ處辨スルヲ得
 - 第十一 主管ノ事務ニ付法律規則ヲ設ケ又ハ其補正ヲ要スルコトアル時ハ其意見ヲ具狀スル
ヲ得
 - 第十二 省中奏任以上ノ官員ヲ内地ニ派遣シ若クハ在勤セシムルコトヲ得但之ヲ外國ニ派遣
シ及ヒ外國人ヲ備役シ若クハ解備セントスルトキハ上請裁可ノ上之ヲ決行スハキモノトス
 - 第十三 施行ノ任アル法律ノ制定若クハ改正ニ就テハ元老院ノ會議ニ列シテ辯論スルコトヲ
得
- 大輔
少輔
卿ノ職掌ヲ輔ケ卿事故アルトキハ其代理ヲナスヲ得
大書記官
權大書記官
少書記官

權少書記官

卿ノ命ヲ受ケ卿管掌事務ノ一部ヲ幹理ス
屬一等ヨリ十
書記官ノ命ヲ受ケ庶務ニ従事ス

農商務省事務章程

- 第一條 農商務卿管掌ノ事務ハ左ノ諸局并ニ會議ニ分任シテ辦理審議スハキモノトス
- 一 書記局
 - 二 農務局
 - 三 商務局
 - 四 工務局
 - 五 山林局
 - 六 驛遞局
 - 七 博物館
 - 八 會計局
 - 九 農商工上等會議
- 第二條 書記局ハ卿輔官房ノ事務官印ノ監守公文ノ往復職員記錄其他々局ノ主務ニ屬セサル事件
ヲ調理ス
- 第三條 農務局ハ湖農漁獵開墾地質調査農學校農業上ノ建造物農業上ノ統計ニ關スル文書ノ
採集及ヒ農業議會ニ關スル事務ヲ調理ス

第四條 商務局ハ勸業會社度量衡商船海員商業上ノ統計ニ關スル文書ノ採集及ヒ商法會議所ニ關スル事務ヲ調理ス

第五條 工務局ハ勸工發明品ノ專賣免許商標工學校工作上ノ建造物工作上ノ統計ニ關スル文書ノ採集及ヒ工作技術ノ議會ニ關スル事務ヲ調理ス

第六條 山林局ハ官有私有山林ノ保護栽培伐木等山林ニ關スル一切ノ事務ヲ調理ス

第七條 博物館ハ古器物ノ保存美術ノ勸奨ニ關スル事務ヲ調理シ博物館ヲ管守ス

第八條 驛遞局ハ驛遞郵便爲換貯金預リニ關スル一切ノ事務ヲ調理ス

第九條 會計局ハ各局經費ノ出納所要物品ノ購入及ヒ交付等會計ニ關スル一切ノ事務ヲ調理ス

第十條 農商工上等會議ハ臨時若クハ定期農商務卿ノ招集ヲ以テ之ヲ開キ太政官若クハ農商務卿ヨリ諮詢スル農商工ノ利害ニ關スル事件ヲ審議スルモノトシ其會員ハ兼テ太政官ヨリ之ヲ命シ農商務卿ヲ以テ其議長トス

第十一條 農商工上等會議ノ議件撥當ノ事務ニ關係アルハ參議各省使長官及ヒ其代理人ハ會議ニ出席シテ辯論スルヲ得

第十二條 農商工上等會員ハ宣任ノル其專務ヲ農商工ノ三部ニ分チ任シ農商務卿ハ其一部ノ會員ノミヲ招集シ若クハ三部ノ會員ヲ同時ニ招集スルヲ得

第十三條 農商工上等會議ノ書記ハ農商務卿ノヲ命ス

第十四條 農商工上等會議ニ諮詢スヘキ事件及ヒ該會員選擇ノ方法其他ノ細則ハ別段ノ達シヲ以テ之ヲ定ムヘシ

○第二十六號 (四月七日 輪傳附)

宣省院使廳府縣

今般農商務省設置ニ付内務大藏兩省中諸局ノ管理換へ其他別紙ノ通右兩省へ相違候條爲心得此旨

相違候事

(別紙)

内務省

今般農商務省設置候ニ付テハ其省中左ノ通諸局ノ管理換へ并ニ廢止致シ候條此旨相違候事

一 驛遞局山林局博物館及ヒ所屬博物館ハ舉ケテ農商務省ノ管理ニ付シ候條其事務悉皆該省へ引繼クヘシ

一 勸業局相廢シ候條其事務ハ農商務省職制并ニ事務章程ニ照ラシテ夫々該省へ引繼クヘシ而テ猶殘餘ノ事務ハ其省ニ於テ此際完結ノ見込ヲ以テ處分方(其完結ニ至リ難キ分ハ他ノ局課等ニテ管理方)取調詳細申出ヘシ

大藏省

今般農商務省設置候ニ付テハ其省中商務局相廢シ候條其事務ハ農商務省職制并ニ事務章程ニ照ラシテ夫々該省へ引繼クヘシ而テ猶殘餘ノ事務ハ其省ニ於テ此際完結ノ見込ヲ以テ處分方(其完結ニ至リ難キ分ハ他ノ局課等ニテ管理方)取調詳細申出ヘシ此旨相違候事

府 縣 東京府 縣 東京府

○第二十七號 (四月十二日 輪傳附)

府 縣 東京府 縣 東京府

明治九年八月第八拾號達巡查旅費日當表中滯留日當ノ額左ノ通改正候條來ル五月一日ヨリ施行可致此旨相違候事

但地方ノ見込ヲ以テ適宜減省候條ハ皆シカラズ

府 縣 東京府 縣 東京府

○第二十八號 (四月十五日 輪傳附)

府 縣 東京府 縣 東京府

本年二月第拾六號布告第二條地方稅支出高拾分ノ三トアルハ警察費總高ノ内第三條ノ費用ヲ除キ餘

十八年太政官第七
號達ニ依リ驛遞
局博物館等ニ關ス
ル事務ハ其省ニ
於テ此際完結ノ
見込ヲ以テ處分
方(其完結ニ至
リ難キ分ハ他ノ
局課等ニテ管理
方)取調詳細申
出ヘシ

十九年内務省令第
十一號ニ依リ消滅
ス

二十一年勸令第六
十一號ニ依リ消滅
ス

ハ金員ノ十三分ノ三ト心得ヘシ此旨相違候事

官省院使廳府縣

○第二十九號 (四月十八日 輪原附)

農商務省ハ文部省ノ次ニ列シ候條此旨相違候事

府 縣

○第三十號 (四月十九日 輪原附)

明治八年四月第四拾九號達廢止候條流行病ノ節貧民救療ニ係ル費用ハ明治十四年度以降地方稅中衛生費ヲ以テ支辨可致此旨相違候事

官省院使廳府縣

但流行ノ勢盛ナルトキハ時機ニヨリ官費支給スルコトアルヘシ

○第三十一號 (四月二十日 輪原附)

海軍省職制及事務章程第二章第七條及第十一條左ノ通改正候條此旨相違候事

府 縣

第七條 將官ニ職課ヲ命シ及ヒ局長官廳長艦船長ヲ命シ又ハ之ヲ免スル事

第十一條 軍律内ノ條款ヲ改正スル事

○第三十二號 (四月二十六日 輪原附)

賣藥請賣鑑札並行商鑑札製作費ノ備ハ自今明治十三年四月第十六號布告第三條第七項ノ内ヲ以テ支辨スヘシ此旨相違候事

官省院使廳府縣

○第三十三號 (四月二十八日 輪原附)

會計法別冊ノ通相定條條此旨相違候事

(別冊)

會計法

第一章 總則

第一條 凡ソ會計ハ豫算ニ起リ之ニ據テ出納シ決算ニ結了ス

十六年太政官第八號達ヲ以テ改正
第九十四號達ニ依
リ以テ第三條改正
十五年太政官第五號達ヲ以テ改正

會計年度

會計ノ區分

歳入出科目

第二條 會計ハ其年七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ルヲ以テ一周年度トシ甲年ノ收支ニ係ル金額ヲ以テ乙年ノ收支ニ混用スルヲ得ス

第三條 會計ヲ大別シテ常用準備ノ二種トシ常用準備ヲ分テ各歳入歳出ノ二部トス

第四條 常用ノ歳入出ハ經常臨時ノ二部ニ區分シ準備ノ歳入出ハ本部減債ノ二部ニ區分ス

第五條 歳入科目ヲ分テ大科目小科目トス但科目ノ解疏ハ明治十四年四月第三拾四號達ニ據ルヘシ

第六條 歳出科目ヲ分テ大科目中科目小科目細科目トシ細科目中附スルニ細節ヲ以テス但科目ノ解疏ハ明治十二年四月二十五號達ニ據ルヘシ

第二章 歳入出豫算
第七條 歳入出豫算ハ各廳ノ申牒ニ就キ大藏省之ヲ調理統計シ會計檢査院ノ審査ヲ經内閣ニ於テ決定ス

第八條 各廳ニ於テハ豫算調書ヲ調整シ各科目ニ就キ其員額ヲ掲載シ前々年度ノ實額及前年度ノ豫算額ヲ傍記スヘシ但豫算調書々式ハ別段ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第九條 各廳(府縣ヲ除ク)ハ前年度十二月廿日迄ニ其豫算調書ヲ大藏省ヘ送付スヘシ

第十條 府縣ハ國庫ノ收支ニ係ル歳入出豫算ヲ調製シ前年度十二月廿日迄ニ該廳ヲ發シ之ヲ大藏省ヘ送付スヘシ

第十一條 大藏省ハ前條條ノ豫算調書ヲ以テ統計豫算書ヲ調整シ豫算調書ト共ニ四月十日迄ニ太

政官ヘ進達シ太政官ハ直ニ之ヲ會計檢査院ヘ送付スヘシ

第十二條 大藏省ハ統計豫算書調理ノ際其増減ヲ要スルモノハ各廳開申ノ事由ト大藏卿ノ意見トヲ詳記シ統計豫算書ト共ニ之ヲ太政官ヘ進達スヘシ太政官ヨリ之ヲ會計檢査院ヘ送付スルコト

前條ニ同シ

世帯ノ流用繰入
出ノ増減

記簿

第十三條 會計検査院ハ豫算調書統計豫算書及ヒ大藏卿ノ意見書審査ノ爲メ四月十五日ヨリ検査官ノ會議ヲ開キ五月廿日限り之ヲ了シ直ニ太政官ヘ進達スヘシ

第十四條 太政官ニ於テハ會計検査院ヨリ進達シタル豫算書ヲ審議シ六月五日迄ニ之ヲ決定スヘシ

第十五條 各廳(府縣ヲ除ク)ニ於テ豫算上決定シタル小科目以上ノ費額ハ太政官ノ特別ノ許可ヲ得ルニアラザレハ彼此流用スルヲ得ス太政官ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査院及ヒ大藏省ヘ通知スヘシ

第十六條 府縣ニ於テ小科目以上ノ流用ヲ要スル時ハ其事由ヲ大藏卿ヘ具申シ其許可ヲ請クヘシ大藏卿ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査院ヘ通知スヘシ

第十七條 各廳ニ於テ豫算外臨時ノ増費ヲ要スル時ハ其事由ヲ太政官ヘ具申シテ許可ヲ請クヘシ太政官ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査院及ヒ大藏省ヘ通知スヘシ

第十八條 府縣ニ於テ第十七條ノ場合アル時ハ其事由ヲ大藏省ヘ具申シ大藏省ハ之ヲ太政官ヘ具申シテ許可ヲ請クヘシ太政官ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査院ヘ通知スヘシ

第十九條 各廳ニ於テ歳入豫算上ニ増減ヲ生スル時ハ之ヲ大藏省ヘ通知シ大藏省ハ之ヲ太政官ヘ上申シ會計検査院ヘ通知スヘシ

第三章 金繰ノ出納

第二十條 凡ソ出納ハ各廳長官ヨリ收支ノ命令ヲ共會計主務官吏ニ下シ會計主務官吏ニ於テ其收支ヲ執行スルモノトス但常例ノ出納ハ其時々命令ヲ要セス會計主務官吏ニ於テ其收支ヲ執行スルヲ得

第二十一條 凡ソ出納ノ記簿ハ複記式ヲ用フヘシ若シ其式様ヲ變更セントスルハ會計検査院ノ

國庫ノ出納

各廳ノ出納

第六十三號總務省

承認ヲ請クヘシ

第二十二條 記簿ハ長官ノ命令書若クハ會計主務官吏ノ調書ヲ憑據トシテ之レカ記入ヲ爲スヘシ

第二十三條 記簿ノ重要ナルモノハ日記簿原簿現金受拂簿豫算簿ノ四種トス其補助簿ヲ設クルハ各廳ノ便宜ニ任ス

第二十四條 前條四種ノ帳簿ヲ取捨シ及ヒ補助簿ヲ設クルハ會計検査院ノ承認ヲ請クヘシ

第二十五條 國庫ノ出納ハ別段ノ出納條規ニ據リ大藏卿之ヲ管理スヘシ

第二十六條 歳入ハ法律規則ニ指定セシ期限ニ據テ之ヲ收入スヘシ

第二十七條 歳出中通常ノ費途ハ各廳(使府縣ヲ除ク)ハ其年額ヲ十二分シ使府縣ハ之ヲ四分シ在外公館ハ之ヲ二分シ其他ハ實際支消スヘキ時ニ臨ミ交付スヘシ

第二十八條 大藏省ハ國庫ニ於テ日々出納スル所ノ金額科目及ヒ事由ヲ詳記シ其毎翌日會計検査院ヘ報告スヘシ

第二十九條 歳入出決算上ニ於テ歳入ニ殘餘ヲ生セシ時ハ之ヲ準備金ヘ繰入スヘシ

第三十條 各廳ノ歳入ハ各部ノ收額ヲ本廳ヘ採集シテ之ヲ大藏省ヘ納付シ其歳出ハ大藏省ヨリ本廳ヘ受領シテ之ヲ各部ヘ分賦スヘシ

第三十一條 各廳ハ其歳入金額ヲ以テ直チニ之ヲ歳出ニ移用スルヲ得ス

第三十二條 各廳ハ經費決算ニ際シ其殘餘アル時ハ大藏省ヘ還納スヘシ

第三十三條 各廳現金及ヒ物品ノ管守并ニ其出納ハ該廳會計主務官吏ヲシテ之ヲ掌トラシムヘシ

第三十四條 現金ノ管守出納ヲ銀行等ニ掌トラシムル時ハ成規ニ依リ抵當品ヲ差出サシムヘシ

第三十五條 作業費ノ出納ハ興業費ト營業費トニ區分シ興業費ハ之ヲ歳出ニ編入シ營業費ハ工事開始ノ際資本金額ヲ定メ之ヲ貸與スヘシ

出納勘定帳
第七十二號證券

第三十六條 營業資本金ハ營業上諸般ノ費途ヲ辨シ其回收ノ金額ヲ以テ之ヲ償還シ其餘ハ公益金トシテ之ヲ大藏省ヘ收入ス若シ營業資本金ニ不足ヲ生スル時ハ更ニ歳入ヨリ之ヲ補填スヘシ
第三十七條 各廳ニ於テハ毎年度ノ收入ト經費トヲ分チ其精算ノ既済未済ヲ區別シ官省院廳局ハ毎月使府縣ハ毎三ヶ月在外公館ハ毎六ヶ月出納勘定帳ヲ翌月二十日迄ニ調製シ之ヲ會計検査院及ヒ大藏省ヘ送付スヘシ

第三十八條 大藏省ハ毎三ヶ月租稅勘定帳ヲ編成シテ翌月二十日迄ニ之ヲ會計検査院ヘ差出スヘシ

第三十九條 大藏省ハ毎三ヶ月國債償還紙幣支消準備金ノ收支起業基金ノ受拂及ヒ貸付金繰替金返納等ノ勘定帳ヲ翌月二十日迄ニ之ヲ會計検査院ヘ差出スヘシ

第四十條 一周年度ノ出納ハ七月一日ニ於テ之ヲ開始シ該年度經過ノ後八ヶ月ヲ限リ之ヲ閉鎖スヘシ

第四十一條 各廳ニ於テ出納閉鎖ノ期ニ際シ若シ收入支出ノ決算ニ至ラサルモノアル時ハ其事由ヲ會計検査院及ヒ大藏省ヘ開申シ翌年度ニ於テ其結算ヲナスヘシ

第四十二條 出納閉鎖ノ後帳簿ノ検査上ヨリ差違ヲ生スル時ハ其額ニ限り閉鎖後四ヶ月以内ハ之ヲ出納スルヲ得ヘシ

第四十三條 各廳金繰出納ノ細則ハ其長官ノ上請ニ依リ別ニ之ヲ定ムヘシ

第四十四條 凡ソ歳入出入ノ決算ハ各廳收支ノ決算額ヲ會計検査院ニ證明シ大政官ヨリ之ヲ公達スヘキモノトス

第四十五條 歳入出入ノ決算ハ歳入ニ於テハ現金ヲ大藏省ヘ納付シ其領收書ニ據リ歳出ニ於テハ現

出納ノ閉鎖

第四章 歳入出決算

國庫出納ノ決算

金ヲ正當ノ請取人ヘ交付シ其領收證書ニ據リ其他ノ歳出ニ屬スヘキモノハ其文書ニ據テ之ヲ爲スヘシ
第四十六條 各廳經費中建築等ノ費項ニシテ該年度最初決定ノ豫算書ニ科目金額ヲ明載シ既ニ著手セシモノ事故アリテ豫算ノ如ク竣成ニ至ラズ翌年度ニ跨ルノ類ニ限リ三ヶ月間決算ヲ延期スヘシ其延期ヲ要スルモノハ事由ヲ具シ會計検査院ノ承認ヲ請クヘシ但豫算決定ノ後他費流用又ハ増費等ヲ以テ起業セシモノハ第二條ニ據リ六月三十日ヲ以テ決算スヘシ

第四十七條 大藏省ハ毎會計年度國庫ノ出納決算報告書ヲ編成シ出納閉鎖後六ヶ月限リ會計検査院ヘ差出スヘシ

第四十八條 租稅徵收ノ任アル各廳ハ法律規則ニ指定シタル各種租稅ノ皆納期限後四ヶ月以内ニ皆済帳ヲ作り之ヲ大藏省ヘ送付スヘシ

第四十九條 各廳ハ毎會計年度作業基金及ヒ雜收入ノ決算報告書ヲ編成シ出納閉鎖後五ヶ月限リ會計検査院ヘ差出スヘシ

第五十條 各廳ハ毎會計年度諸經費ノ決算報告書ヲ編成シ出納閉鎖後五ヶ月限リ會計検査院ヘ差出スヘシ

第五章 雜則

第五十一條 準備金ハ其管理ノ規程ニ據リ大藏卿之ヲ管守ス

第五十二條 大藏省ニ於テハ毎月常用金ノ在當其種類ノ内譯及ヒ國債額 準備金起業基金貸附金預ケ金并其抵當品假納金預リ金等ノ増減及ヒ種類ノ内譯表ヲ翌月七日迄ニ會計検査院ヘ報告スヘシ

第五十三條 大藏省ハ毎會計年度末ニ於テ該年度ニ屬スル收支ヲ概定センカ爲メ其現出納及ヒ

酒類金ノ管理
諸報
告

官有物拂下代	森林諸貸下料	森林諸拂下代	雜收入ノ部	業 所	業 益 金 ノ 部	海外旅券其他免許手数料	版權免許料	度 量 衡 稅	替 資 料	牛馬賣買免許稅	職 稅
								權 衡 稅	尺 度 稅	替 資 料 稅	

官力及遊蕩々貸金返納	外國債代償道徵金	勸業貸返納	救助貸返納	賭返納ノ部	雜 收	徵 兵 代 人 料	賦 順 道 徵 金	開 港 市 場 官 地 貸 下 料	地 所 貸 下 料	家 屋 貸 下 料	物 品 貸 下 料	官有物貸下料	地 所 拂 下 代	家 屋 拂 下 代	物 品 拂 下 代

石	高	貸	下	返	納	遊	滞	々	貸	金	返	納
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

十五年大政官第五號
以テ改正

○第三十五號 (四月二十八日 檢附)

官省院使廳府縣

會計檢査院職制章程別冊ノ通更定候條此旨相違候事

(別冊)

會計檢査院職制章程

會計檢査院職制

長 二等官

本院ノ官吏ヲ統率シテ主管百般ノ事務ヲ總理ス

本院官吏ノ進退黜陟奏任以上ハ之ヲ具狀シ判任以下ハ之ヲ專行ス

副長 三等官

職掌長ニ亞シ

以上勅任

一等檢査官

二等檢査官

三等檢査官

四等檢査官

官金及口物品ノ出納官有財産管理方法ノ監査會計ノ豫算決算ニ係ル事務ニ分任シ會計主務官

吏懲戒ノ斷案ヲ調整ス

定員拾名

大書記官

權大書記官

少書記官

權少書記官

院長官房ノ事務及口院中ノ庶務會計記録ヲ幹理ス

大少書記官ノ内二名ヲ定員トス

以上奏任

檢査官補

相當八等官ヨリ
十七等官ニ至ル

檢査官ニ屬シ檢査ノ事務ニ從事ス檢査官事故アルトキハ共事務ヲ代理スルヲ得

定員七拾五名

關 相當八等官ヨリ
十七等官ニ至ル

書記官ニ屬シ文書計算ノ事務ニ從事ス

會計檢査院章程

第一條 會計檢査院ハ政府ノ歲計ヲ審查監督シ會計法規ノ統一ヲ主持スル所トス

第二條 歲入出豫算ノ當否ヲ審查シ其意見ヲ内閣ニ具申ス

第三條 官金及口物品ノ出納官有財産管理ノ方法ヲ監査ス

第四條 會計檢査上ニ於テ各事業ノ審查ヲ要スル時ハ其實況ヲ觀察シ其得失ヲ内閣ニ具申スルヲ得

第五條 國庫及口各屬收支ノ決算ヲ審查判定シ當該會計官吏ニ向テ決算ノ狀ヲ宣告ス

第六條 前條ニ依リ爲シタル宣告ハ終審ノモノトス但内閣ニ於テ其宣告ヲ不當ト認メタル時ハ更ニ本院ニ下シテ再審セシメ又ハ特別委員ヲ命ジテ審理セシムルヲ得

第七條 歳入出決算ノ報告及ヒ行務ノ年報ヲ調整シ之ヲ内閣ニ進呈ス

第八條 會計ニ關スル法律規則及ヒ院中處務規程ノ制定釐革ニ付其意見ヲ内閣ニ建議スルヲ得

第九條 會計ニ關スル法規ノ疑條ヲ辨明シ之ヲ各廳ニ通知スルヲ得

第十條 地方稅收入支出ノ豫算及ヒ決算報告ヲ査閱ス

第十一條 會計主務官吏會計ノ法規ニ違フタル時ハ懲戒ノ斷案ヲ草シ其奏任以上ニ係ル者ハ内閣ニ上申シ其判任以下ニ係ル者ハ所屬長官ニ通報ス但刑法ニ明文アル者ハ一面以テ之ヲ檢事ニ告知ス

第十二條 會計檢査院ヨリ發スル文書ハ院長ノ名ヲ以テ其決算ノ狀ヲ宣告スルモノ及ヒ懲戒ノ斷案ハ主任ノ檢査官之ニ連署ス

○第三十六號 (四月三十日 檢附)

官省院使廳府縣

今般會計法制定并ニ會計檢査院事務章程更定ニ付會計ノ事務上各廳長官ト會計主務官吏トノ分掌方左ノ通相定候條此旨相違候事

第一條 各廳ノ長官ハ會計ノ法規ニ從ヒ會計主務官吏ニ向テ金錢及ヒ物品出納ノ命令ヲ下レ該廳ノ歳入出豫算ヲ調整シ會計檢査院ニ向テ其決算ノ報告ヲ爲スヲ掌リ其決算ニ就テノ責任ハ太政官ヨリ該年度政府ノ歳入出決算書ヲ公布シタルニテ

第二條 各廳ノ會計主務官吏ハ會計ノ法規ニ從ヒ金錢物品ノ管守及ヒ該廳長官ノ命令ニ依リ金錢物品ノ現出納ヲ掌リ其出納上ノ計算ヲ會計檢査院ニ向テ證明シ其認可狀ヲ得テ其責任ヲ了ル

第三條 各廳長官ハ便宜金錢物品收支命令ノ權ヲ部下ノ官吏ニ委スルヲ得

二十二年法律第四號ニ依リ消滅

十七年四月五日大藏省官制ニ依リ消滅

制度總章ニ依リ消滅

第四條 各廳會計主務官吏ハ其長官ノ上請ニ依リ太政官ヨリ之ヲ命ス但別ニ會計官吏ノ制アルモノニ増任ノ場所ヲ命シ及ヒ判任官ヲ以テ會計主務官吏ト爲シタルトキハ會計檢査院ニ届出ヘシ

第五條 國庫ノ出納ハ別段ノ法規ニ依ル

○第三十七號 (五月六日 檢附)

官省院使廳府縣

官吏商業區分ノ備ニ付テハ兼テ相違候趣モ有之候處自今道路河港ノ修築海陸ノ運輸土地ノ開墾及ヒ殖産ノ事業ヲ以テ目的ト爲シ設立スル會社ノ株主トナルハ不苦候條此旨相違候事

○第三十八號 (五月六日 檢附)

府 縣

明治十二年七月第三拾貳號達中府縣ノ事務主務ノ省ニ稟請シテ後ニ處分スヘキ條目ノ内第十一項ノ但書ヲ刪除シ左ノ一項ヲ追加候條此旨相違候事

第三十六 開墾地獄下十ヶ年荒地免稅五ヶ年ヨリ以上ノ年季ヲ付與スル事

但續年季ヲ要スル時當初ヨリ通算シテ此年限ヲ越ユルモノモ本文ニ準ス

○第三十九號 (五月十三日 檢附)

官省院使廳府縣

陸軍職制并陸軍省職制事務章程中別冊ノ通改正候條此旨相違候事

(別冊)

陸軍職制中改正

第六條 參謀本部長ハ一般ノ參謀將校ヲ統轄シ併ヒテ兵略ニ關スル圖誌ヲ總理ス

第八條 戰時ニ在テ親裁ノ軍令ハ直チニ師團長或ハ軍團長若クハ特命司令將官ニ下シ帷幕ト相通報シテ間斷ナカラシム

第九條 中 (地理)ノ下(政誌)ノ二字ヲ加フ

第十條 中 (諸課ヲ洗テ)ノ下(電信)ノ二字ヲ加ヘ(測量課譯)ヲ(編譯測量)ニ改ム

明治十四年五月 太政官 第三十七號 第三十八號 第三十九號

第十二條以下各條中 (監軍中將)ヲ(監軍部長)ニ改ム
 第十三條中 (監軍中將ノ部内ニ各其幕僚參謀官)ヲ(各監軍部ニ幕僚參謀官)ニ改ム
 第十五條中 (參謀官)ヲ(諸官)ニ改ム
 第十六條中 (參謀)以下二十三字ヲ刪ル
 第十七條中 (科)ノ字及ロ(科ノ)ノ二字ヲ刪リ(科并ニ)ヲ(尉官并ニ)ニ改ム
 第二十條中 (近衛)ノ下(ニ)ノ字ヲ加ヘ(參謀官)ヲ(諸官)ニ改ム
 第二十一條 凡ソ參謀將校ハ參謀本部ニ服務シ或ハ侍中武官陸軍卿官房總務局并ニ監軍部近衛領
 臺ノ幕僚ニ服務ス
 第二十四條中 (科ノ)ノ二字ヲ刪ル
 第二十七條中 (科)ノ字及ロ(科ノ)ノ二字ヲ刪リ(任ス)ノ下(ル)ノ字及ロ(其參謀)ノ下(部)ノ字
 ヲ加フ
 第三十三條中 (陸軍本病院)ヲ(東京陸軍病院)ニ改ム
 第三十四條中 (近衛領臺ノ病院)ヲ(各地陸軍病院)ニ改ム(科ノ)ノ二字ヲ刪ル
 第三十五條及ロ第三十七條中(科ノ)ノ二字ヲ刪ル
 第四十條中 (將校)ヲ(士官)ニ改ム
 第四十一條中 (等)ノ字ヲ刪ル
 第四十二條中 (戶山學校及ロ教導團ハ少將各一人)ヲ(戶山學校ハ少將一人教導團ハ大佐一人)ニ
 改ム
 第四十三條中 (編製)ヲ(編制)ニ改ム
 第四十四條中 (各科)ノ二字ヲ刪ル

第九十四號勅ニ依
ル事務章程相違

十八年大政官第二
十二號達ニ依リ消
滅

第四十五條中 (之ヲ砲工)ノ下(兵)ノ字ヲ加フ
 第四十六條及ロ第四十七條中 (科)ノ字ヲ刪ル
 第四十八條中 (砲工)ノ下(兵)ノ字ヲ加フ
 第五十條 近衛各領臺ノ下ニ軍樂隊ヲ置キ音樂ノ事ニ從ハシム
 陸軍省職制事務章程中改正
 第一章
 第十六條中 (軍醫總監)ヲ(軍醫本部長)ニ(馬醫監)ヲ(病馬隊長)ニ改ム
 ○第四十號 (五月十三日 諭旨) 關 府 縣
 明治十二年九月第三十三號達領臺條例中別冊ノ通改正候條此旨相違候事
 (別冊)
 領臺條例中改正
 第六條以下各條中 (監軍中將)ヲ(監軍部長)ニ改ム
 第十三條中 (會同)ノ下(下士以下)ノ五字ヲ加フ
 第十四條 凡ソ毎年檢閱終ルノ後陸軍卿ハ參謀本部長各監軍部長近衛都督各軍管ノ司令官并ニ學
 校長ノ將官及ロ總務局長會計局長軍醫本部長ヲ陸軍省內ニ會同シ將校拔擢進級ノ名簿ヲ撰定シ
 以テ次年拔擢進級ノ序ヲ定ム
 第十六條中 (中將)ヲ(部長)ニ改メ(行下)共(ノ)下(哨所及ロ)ノ四字ヲ加フ
 第十八條 凡ソ憲兵ハ各軍管ニ布キ各府縣ニ配置シ巡按檢察ノ事ヲ掌リ軍人ノ非違ヲ觀察シ行政
 警察及ロ司法警察ノ事ヲ兼メ但其隸屬ノ法ハ軍管ノ司令官ニ屬セスシテ直チニ陸軍卿ニ隸ス
 第二十二條及ロ第二十三條中 (操縱)ヲ(演習)ニ改ム

第二十五條中 (閱兵)ヲ(觀兵式)ニ改ム
 第二十七條中 (府縣)ヲ(地方)ニ改ム
 第四十一條中 (野營操練)ヲ(野營演習)ニ改ム
 第四十三條中 (臺ヨリ)ノ下(憲兵部及ヒ)ノ五字ヲ加フ
 第四十四條中 (一木ヲ臺ニ留メ一木ハ)ノ十字ヲ刪ル
 第四十七條中 (監督部)ヲ(會計部)ニ改ム
 第五十條中
 第一 (祝砲)ノ下(五發)ノ二字ヲ加フ
 第二 (騎兵一大隊)ヲ(騎兵一中隊)ニ(鎮臺ノ在ル府縣郭外ヨリ)ヲ(鎮臺所在地ノ市街外)ニ改ム
 第三 (郭)ヲ(市街)ニ改ム
 第八 鎮臺下所在ノ上等并ニ地方裁判所長トハ到着ノ日ヨリ三日内五ニ存問スヘシ但同
 同條中左ノ一項ヲ加フ
 第九 管内所在ノ上等并ニ地方裁判所長トハ三十日内五ニ移文シテ存問スヘシ但同
 ○第四十一號 (五月十八日 諭旨) 官省院使廳府縣
 官幣大社熱田神宮出雲大社兩社ニ權宮司各一員ヲ從キ其官等ハ八等月俸貳拾圓ト相定候條此旨相
 達候事
 ○第四十二號 (五月十九日 諭旨) 官省院使廳府縣
 陸軍服制中別冊ノ通改正候條此旨相達候事
 (別冊)

十五年大政官第五
 十五號達ニ依リ消滅
 十九年勅令第四十
 八號内閣第十四號
 達ニ依リ消滅

軍服ノ部
 第二項中(故ニ)以下三十二字ヲ刪リ左ノ但書ヲ加フ
 但軍服ニ正帽ヲ用フルモ亦妨ナシ
 軍帽
 地質 絨
 色 紺
 橫章 將官及相常官ハ大線幅一分七厘一條ヲ附シ佐官及相常官ハ大小線幅七分小一分色染煤科ハ
 科ハ地ヲ練會計部ハ三條各一分附シ尉官及相常官ハ大線幅八分色佐官及二條一分附シ
 藍軍醫馬醫部ハ明黃ニ各一分附シ
 前章 將校ハ金色會計軍醫馬醫部ノ將校相常官ハ銀色ノ星章トス
 眼庇 地質黑色革ニシテ同色ノ革ヲ以テ縁邊ヲ附ス
 形狀 如圖
 軍衣 總則
 縫製ノ前ニ左ノ二項ヲ加フ
 地質 絨
 但平常ノ出務練兵等ハ勿論衛戍勤務隊中廻番及野營行軍演習等ニハ綾小倉織ヲ用フルモ
 妨ナシ
 色 黒或ハ紺
 軍袴 黒或ハ紺

正袴ニ同シ

但綾小倉織ヲ用ヒ妨ナキハ軍衣ノ例ニ同シ
樂長及砲工兵上等監護諸兵下副官軍服ノ部

軍帽

地質

色

前章 大線幅一吋七分色近衛下一條及頂端ノ縫際ニ喰出シノ細線大線ノ色ヲ附ス

前章 金色星章

眼庇 士官ニ同シ但黒革ノ縁邊ヲ附セサルヲ異ナリトメ

形狀 如圖

軍袴

正袴ニ同シ

但綾小倉織ヲ用ヒ妨ナキハ軍衣ノ例ニ同シ

將校及相當官夏服ノ部

衣袴地質(白布)ノ下(或ハ白小倉織)ノ六字ヲ加フ

軍刀ノ部

歩兵科及參謀科ノ部中(曹長及無隊ノ下士)ヲ(歩兵下副官)ニ改メ但書中(以下及會計部下士)ノ八

字ヲ刪ル

騎砲工輜重兵科ノ部中(下士)ヲ(下副官)ニ改ム

諸兵下副官ノ部中(各兵ノ下士ニ同シ)ノ八字ヲ刪ル

軍刀帶ノ部

砲工兵上等監護ノ部中(地質色下士ニ同シ)ヲ(地質單革色表黒裝地色)ニ改ム

將校及相當官并樂長及砲工兵上等監護諸兵下副官略帽中

(略帽)ノ字ヲ(軍帽)ニ改ム

(鉢巻)ノ字ヲ(橫章)ニ改ム

(砲工兵上等監護)ノ次ニ(諸兵下副官)ヲ加フ

樂長以下軍刀圖并軍刀解割圖中

(歩兵科會計部馬醫部下士)ヲ(歩兵下副官)ニ改ム

(騎砲工輜下士兵卒)ヲ(騎砲工輜重兵下副官)ニ改ム

將校及相當官并樂長及砲工兵上等監護諸兵下副官略帽ノ部

渾テ廢止ス

下士及兵卒軍刀軍刀帶刀劍緒ノ部

渾テ刪除ス

○第四十三號 (五月二十一日)

陸前國仙臺肥前國長崎大藏省出納局出張所當五月限廢止候條此旨相達候事

○第四十四號 (五月二十三日 陸軍部)

農商務省事務章程第十四條ニ依リ農商工上等會議へ諮詢スヘキ事件并ニ會員選擇方法左ノ通相定

候條此旨相達候事

第一條 内外貿易ノ條約關稅商法就中職工徒弟ノ契約商標專賣免許會社商船海員ニ關スル諸法案

并ニ山林ノ法案及ヒ海陸ノ運漕道路ノ開闢川渠ノ疏通港灣ノ修築地方稅ヲ以テ支辨スヘキ土木

明治十四年五月 大政官 通 第四十三號 第四十四號

十五年大政官通
第四十四號
農商務省事務章程第十四條ニ依リ農商工上等會議へ諮詢スヘキ事件并ニ會員選擇方法左ノ通相定候條此旨相達候事

十六年勅令第十六號
省ニ依リ消滅

十九年勅令第三十
六號第三十八號

中國稅ヲ以テ補助セントスルモノ郵便電信線路ノ伸縮燈臺建設ノ得失農商工ニ關スル統計其他ノ現況調査農商工學校勸業博覽所其他農商工模範建造物ノ設立美術改進ノ方法ハ該管ノ官廳ヨリ一應農商工上等會議ニ諮詢スヘキモノトス其他太政官若クハ農商務卿ヨリ諮詢シタル事件ヲ審議シ若シハ示命シタル取調ヲ爲スヘキモノトス

第二條 農商工上等會議ハ官省院使ノ官吏中ヨリ之ヲ選任シ農商務卿ハ時トシテ各府縣農商工諸公會及ヒ聯合區町村農商工協會ヨリ委員ヲ招集シテ會員ヲラシムルコトヲ得但農商務省農商工務ノ三局長ハ當然會員タルモノトス

第三條 農商工上等會議ノ任期ハ三ヶ年トス但滿期再選スルコトアルヘシ

○第四十五號 (五月二十三日 勅諭附)
今般第貳拾九號布告ヲ以テ農商工諮問會規則制定候ニ付テハ將來府縣ニ於テ從事スヘキ勸業上ノ事業ハ成ルヘク該會ニ諮問シテ其得失ヲ計リ從前施行シ來リ候モノモ此際深ク將來ノ得失各地ノ適應ヲ按シ存廢ノ目的相立勸業ノ方法一層改進候機勉勵致スヘシ此旨相達候事

○第四十六號 (五月二十四日 勅諭附)
無等判任官以下席次左ノ通相定候條此旨相達候事
一 無等判任官ト有等判任官トノ席次ハ月俸ノ多寡ニ依リ其月俸同シキ者ハ右有等判任官ヲ以テ上席トス

一 無等判任官中ノ席次ハ月俸ノ多寡ニ依リ其月俸同シキ者ハ任官ノ前後ニ依ル
一 無等准判任官ハ月俸ノ多寡ニ拘ハラヌ判任官ノ次席トス其同官中ノ席次ハ前項ノ例ニ同シ
一 無等等外吏及准等等外吏ハ前二項ノ例ニ同シ
一 布告達ニ於テ特ニ席次ノ定制アル者ハ前四項ノ例ニ在ラス

內務省 農商務省 府縣
官省院使廳府縣

○第四十七號 (五月二十四日 勅諭附)

明治七年十月第百四拾號達第二項但書刪除候條此旨相達候事
但行方知レサル船舶ノ搜索ヲ要スル時ハ其管轄廳ヨリ最寄府縣ニ通牒搜索方依頼可致事

○第四十八號 (五月二十六日 勅諭附)
海軍省中ニ規程局設置候條此旨相達候事
官省院使廳府縣

○第四十九號 (五月三十日 勅諭附)
今般太政官中ニ統計院ヲ設置シ職制并事務章程別冊ノ通相定候條此旨相達候事
官省院使廳府縣

統計院職制

院長 參議之ニ兼任ス

- 一 事務章程ニ掲ル諸件ヲ施行スルノ責ニ任ス
 - 一 院中奏任以上ノ官員及ヒ統計委員ノ進退ヲ上請スルヲ得
 - 一 院中判任以下ノ官員ヲ任免スルヲ得
 - 一 院中ノ官員ヲ國內ニ派遣スルヲ得
 - 一 統計委員ノ全數或ハ其幾名ヲ招集シテ委員會ヲ開クヲ得
- 幹事 四等官
院長ヲ輔テ事務ヲ施行シ院長事故アルトキハ其代理者タルヲ得
大書記官
權大書記官
少書記官

十七年海軍省第二
八十六號達ヲ以テ
規程局廢止
十八年內閣第八十
三號達ニ依リ消滅

權少書記官

院長ノ命ヲ受ケ事務ノ一部ヲ幹理ス

統計委員 專ラ統計ニ關スル官職ノ委任官ニシテ之ヲ兼務セシム

院長ノ尋問ニ對シテ意見ヲ述ヘ統計法ノ改良ヲ助クル者トス

屬 上官ノ命ヲ受ケ庶務ニ従事ス

統計院事務章程

第一條 政治上其他諸般ノ事物ニ關スル統計表ヲ編製公布スル事

第二條 統計表ニ據テ政治上其他諸般事物ノ結果ヲ證明スル事

第三條 統計表ノ様式ヲ定ムル事

第四條 統計表ヲ編製スルノ材料ヲ各官廳其他ヨリ徵集スル事

第五條 各官廳其他ヨリ徵集スル報告書ノ様式ヲ定ムル事

第六條 報告書及口統計ノ材料ヲ徵集スルノ期限ヲ定ムル事

第七條 統計ニ關スル新古ノ書類ヲ集テ之ヲ保管スル事

第八條 各官廳ニ於テ編製スル統計ノ區域ヲ定メ其統計表若クハ統計ニ關スル書類ノ様式ヲ改良セシムル事

○第五十號 (六月二日 諭旨)

明治九年十月第九號 逕陸軍武官恩給令第二十八條中年齡制限左ノ通改正候補此旨相違候事

官省院使廳府縣

- 會計監督 軍醫監 藥劑監 會計副監督 軍醫正 藥劑正 馬醫監
- 參謀憲兵大中佐 會計副監督 軍醫正 藥劑正 馬醫監
- 六十
五十七

十六年太政官達第三十七號ニ依リ消滅

十九年勅令第三號
第十號第十五號
第十三號第十五號
第二十號二十五號
第二十五號ニ依リ消滅

十五年太政官第九號
第十七年同第九號
第十二號第十八年同
第五十一號達ヲ以テ
太政官制中道加
刪除

- 歩騎砲工輜重兵大中佐 參謀憲兵少佐 會計監督補 會計軍吏 軍醫 刑官 馬醫 五十四
- 歩騎砲工輜重兵少佐 參謀憲兵大尉 會計軍吏副 軍醫副 刑官副 五十一
- 馬醫副 砲工兵上等監護 砲兵監護 砲兵監守 砲兵監査 四十八
- 砲兵監守 砲兵監査 四十八
- 火工教頭 諸工長 諸工下長 砲兵監守 砲兵監査 四十五
- 砲兵監守 砲兵監査 四十五
- 砲兵監守 砲兵監査 四十五
- 砲兵監守 砲兵監査 四十五
- 砲兵監守 砲兵監査 四十五
- 砲兵監守 砲兵監査 四十五

○第五十一號 (六月十五日 諭旨)

明治十年八月第五十八號 逕相國ニ更ニ文部省所轄官立學校圖書館教育博物館職制及職員名稱等給左ノ通相定候補此旨相違候事

東京大學職制

總理
文部卿ノ命ヲ奉シ大學ノ事務ヲ總理ス
大學及大學豫備門職員ヲ監督ス
大學及大學豫備門職員委任以上及判任助教教授論ノ進退調陸及助教論ハ之ヲ文部卿ニ具狀シ
其他ノ判任以下ハ之ヲ專行ス

長 事故アルトキハ委任以上ノ職員ヲシテ共事務ヲ代理セシムルコトヲ得

總理ノ命ヲ受ケ一學部ノ事務ヲ幹理ス

教授

學生ノ教授ヲ掌ル

助教授

教授ノ職掌ヲ助ク

書記

各庶務ニ従事ス

東京大學豫備門

長

總理ノ命ヲ受ケ豫備門ノ事務ヲ幹理ス

教諭

生徒ノ教諭ヲ掌ル

助教諭

教諭ノ職掌ヲ助ク

書記

各庶務ニ従事ス

十八年大政官第二十三號第五十一號
文部省第四號
以下外國語學校以下
以下外國語學校以下

外國語學校師範學校中學校職工學校職制

長

文部卿ノ命ヲ奉シ本校ノ事務ヲ幹理シ其職員ヲ監督ス

判任以上ノ進退黜陟ハ文部卿ニ具狀シ等外以下ハ之ヲ專行ス

事故アルトキハ委任或ハ判任ノ職員ヲシテ共事務ヲ代理セシムルコトヲ得

教諭

生徒ノ教諭ヲ掌ル

助教諭

教諭ノ職掌ヲ助ク

副學

師範學校附屬小學校生徒ノ訓導ヲ掌ル

書記

各庶務ニ従事ス

圖書館教育博物館職制

長

文部卿ノ命ヲ奉シ本館ノ事務ヲ幹理シ其職員ヲ監督ス

判任ノ進退黜陟ハ文部卿ニ具狀シ等外以下ハ之ヲ專行ス

事故アルトキハ判任ノ職員ヲシテ共事務ヲ代理セシムルコトヲ得

書記

各庶務ニ従事ス

總理	勳任	年俸	四千八百圓	四千二百圓	三千六百圓	三千圓		
長	奏任	年俸	三千圓	四千四百圓	五千四百圓	五千四百圓	九百六十圓	
教授	勳任	年俸	四千八百圓	四千四百圓	三千六百圓	三千圓		
教授	奏任	年俸	三千六百圓	三千圓	二千四百圓	二千四百圓	一千五百圓	
助教授	奏任	年俸	千八百圓	千五百圓	千二百圓	千八百圓	千五百圓	
助教授	判任	年俸	千貳百圓	千九百六十圓	千七百六十圓	六百圓		
教授	奏任	年俸	三千圓	貳千四百圓	貳千四百圓	千八百圓	千五百圓	九百六十圓
助教授	判任	年俸	千貳百圓	千九百六十圓	八百四十圓	七百六十圓	六百圓	
助教授	判任	年俸	六百圓	五百四十圓	四百八十圓	四百六十圓	三百六十圓	三百圓
副學	判任	年俸	五百四十圓	四百八十圓	四百六十圓	三百六十圓	三百圓	二百四十圓
書記	判任	年俸	一等以下	二等以下	三等以下	四等以下	五等以下	六等以下

教授以下副學以上ハ其職務定時間ニ滿テサルハ適宜俸額ヲ減給スルコトアルヘシ

一 總理ハ大學ノ總長ニシテ長ハ大學各學部大學豫備門外國語學校師範學校中學校職工學校圖書館教育博物館ノ主長ナリ

一 教授助教授ハ大學各學部ノ教員ニシテ教授助教授ハ大學豫備門外國語學校師範學校中學校職工學校ノ教員ナリ副學ハ師範學校附屬小學校ノ教員ナリ

一 書記ハ校館ノ屬員ナリ

○第五十二號(六月十五日 附附)

官省院使府縣

十八年大政官第二十三號達第五十二號達ヲ以テ追加

府縣立町村立學校職員名稱并ニ准官等左ノ通相定候條此旨相違候事

准官	等	八等以下十等以上						
中師範學校	校長							
准官	等	八等	九等	十等	十一等	十二等	十三等	
中師範學校	校長							
師範學校	校長							
准官	等	十一等以下十三等以上						
小學校	校長							
准官	等	十一等	十二等	十三等	十四等	十五等	十六等	十七等
小學校	校長							
小學校	一等副學	二等副學	三等副學	四等副學	五等副學	六等副學	七等副學	

右ノ外專門學校農學校商業學校職工學校等職員名稱并ニ准官等ハ該學校ノ等位ニ據リ師範學校中學校若クハ小學校ニ準ス

○第五十三號(六月十六日 附附)

省院使府縣

各府縣豫備金ノ備當十二年度限り廢停條條右金額早々大藏省へ返納可致此旨相違候事

可相心得此旨相違候事

○第五十四號(六月二十二日)

各府縣豫備金ノ備當十二年度限り廢停條條右金額早々大藏省へ返納可致此旨相違候事

○第五十五號(六月二十二日 附附)

官省院使

今般第五拾四號ヲ以テ府縣豫備金相廢止候條各府縣所管ノ費用是迄府縣ニ於テ練替置候分ハ早々拂戻シ十四年度以降ハ共支拂ニ先チ交付スヘシ此旨相違候事

明治十四年六月 大政官 達 第五十三號 第五十四號 第五十五號

機關令第三十五號

十五年大政官第八號達十八年同第二號達

○第五十六號 (六月二十四日 輪附) 府 縣
明治八年八月百三拾五號逕度量衡取締條例第十二條左ノ通改正候條本年七月一日ヨリ施行スヘシ
此旨相達候事

第十二條 度量衡稅額ハ第十條揭示ノ通ニ付各器検査ノ都度検査印章打込濟ノ員數並原價増價通
價等ノ調査製作請負人ヨリ爲差出置キ左ノ區分ニ據リ税金取立ヘキ事
一月ヨリ分 其年七月十日限
六月ヨリ分 翌年一月十日限
七月ヨリ分 翌年一月十日限
十二月ヨリ分 翌年一月十日限

○第五十七號 (六月二十七日 輪附) 官省院使廳府縣
大藏省中ニ會計局設置候條此旨相達候事

○第五十八號 (六月二十八日) 官省院使廳府縣
明治十三年二月第拾壹號逕外國品購求規則及追加共十三年度限廢止候條此旨相達候事

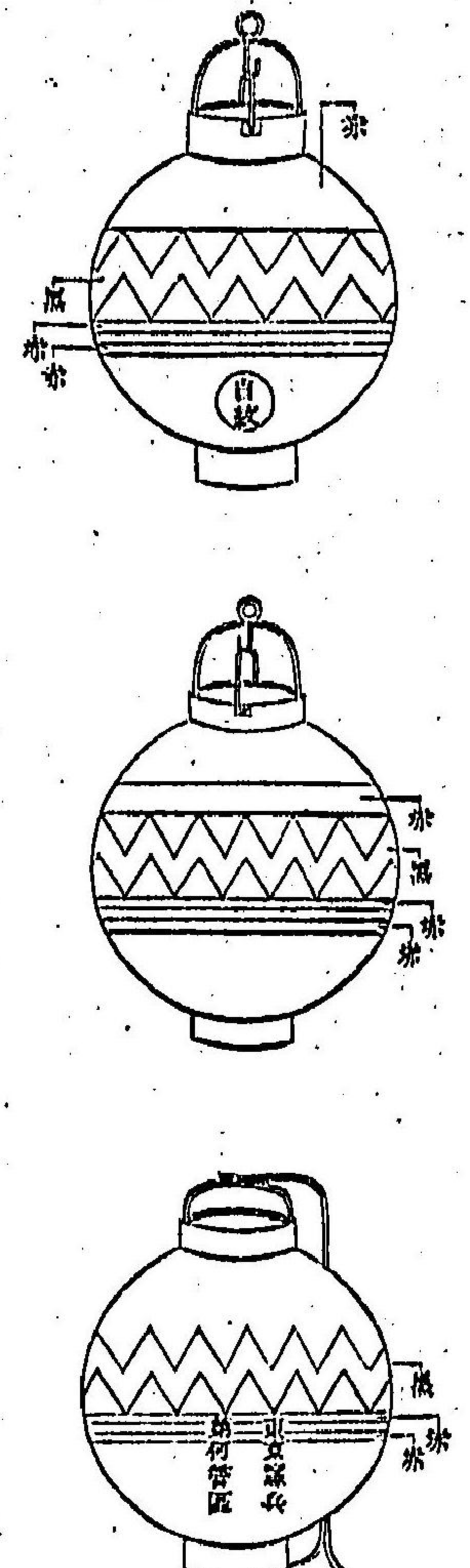
○第五十九號 (六月三十日) 官省院使廳府縣
地租改正事務局本月三十日限相廢シ現務ノ備ハ大藏省ニ於テ取扱候條此旨相達候事

○第六十號 (七月二日 輪附) 官省院使廳府縣
警視廳警察副使月給左ノ通改正候條此旨相達候事

○第六十一號 (七月八日 輪附) 府 縣
官國幣社經費ノ備十三年度定額ヲ以テ十四年度以降据置候條右金額ヲ以テ一切ノ費用支辨可致尤
剩餘ノ金員ハ返納ニ及ハス据置拂ニ取計翌年度以降經費不足ノ節補充シ其他左ノ通可相心得此旨
相達候事

○第六十二號 (七月九日 輪附) 官省院使廳府縣
憲兵上長官以下提燈徽章左ノ通相定候條此旨相達候事

一 歳費定額相定ムルニ付テハ遷宮諸費ヲ除クノ外増額スルヲ許サス
但遷宮諸費ハ要領ノ節事由ヲ具シ内務大藏兩省ヘ伺出ヘシ
一 小科目流用ハ申出ニ及ハス
一 豫算帳ハ爾後申牒スルニ及ハス尤小科目ヲ區分シテ仕賬書ヲ調製年々本廳豫算帳ト共ニ大藏
省ヘ差出スヘシ



○第六十三號 (七月十九日 輪附) 府 縣
各府縣經費ノ内屬官俸給、廳費、史誌編輯費、招魂社費、地籍編纂費、警察費、國庫下流ノ六項
ハ會計法第三十二條ニ拘ハンズ殘餘マラハ据置翌年度ノ該費ニ充用スヘシ此旨相達候事

十九年勅令第三號
ニ依リ消滅

十八年大政官第十
十四號ニ依リ消滅

十八年大政官第十
十四號ニ依リ消滅

二十二年陸軍省令
第九號ニ依リ憲兵
本提燈消滅

十五年內務省乙第
二十三號逕度量
八年大政官第四十
一號連リ以テ廢止

○第六十四號 (七月二十二日 檢附)

内務省 開拓使 警視廳
府 縣 東京府

在監人備工錢規則別紙ノ通相定候條來ル八月一日ヨリ施行致スヘシ此旨相達候事

(別紙)

在監人備工錢規則

- 第一條 定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始テ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ其一分ヲ與ヘ餘分ハ之ヲ監署ニ收ム
- 定役ニ服セサル囚徒及ロ未決者ニシテ作業スル者ノ工錢ハ十分シテ其三分ヲ監署ニ收メ其七分ヲ與フ定役ニ服スル囚徒ニシテ當日ノ料程ヲ罪テ仍ホ作業スル者料程外ノ工錢ハ之ニ準ム
- 第二條 尊屬親ノ情願ニ由テ懲治場ニ入タル者其尊屬親ヨリ衣食費ヲ自辨スル者ノ工錢ハ其全分ヲ與ヘ衣食費ヲ自辨スルコト能ハサル者及ロ刑期滿限ノ後願ルヘキ所ナクシテ監署傍ノ別房ニ留置シタル者ハ其工錢ノ内ヨリ衣食費ヲ扣除シ餘分ハ之ヲ與フ
- 第三條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ監署ニ領置シ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシムヘシ
- 第四條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ備工錢ヲ準トシ各自ノ技能ニ應ジ一日若干錢ト定ムヘシ
- 第五條 監署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ニ由リ親屬ニ贈與スルヲ許シ又ハ書籍其他必要ノ物品及ロ在監人給與規則第七條ニ從ヒ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得
- 第六條 在監人死亡シ監署ニ領置ノ工錢アルトキハ親屬ニ下付ス親屬ナキトキハ遺骸ヲ領取シタル故借ニ下付ス若シ下付ヲ受ヘキモノナキトキハ之ヲ沒收ス
- 第七條 在監人若シ逃走シタルトキハ已決囚ノ工錢ハ之ヲ沒收ス未決者及ロ懲治人ノ工錢ハ其親屬ニ下付ス親屬ナケレハ之ヲ沒收ス

○第六十五號 (七月二十五日)

府 縣

十三年度警察土木並ニ府縣立師範學校小學校補助國庫下渡金ノ備別紙書式ニ由リ決算帳編製來ル十二月一日限リ會計檢査院ヘ差出スヘシ此旨相達候事

(別紙)

十三年度國庫下渡金決算帳		
紙	表	名
一金	但檢証何號何號	元 受 高
一金	此譯	年號自何月至何月 大藏省ヨリ領收
金	内譯	算 高
金	内	警察費(内譯ス)
金	内	土木費
金	内	皆官費
金	内	何々(埋樋等)
金	内	何々
金	内	何々

金	何々
金	地方費江
金	某町村江
金	學校補助費
内譯	府縣立師範學校 補助費
金	小學校補助費
金	某町村江
一元拂差引	
一金 ナシ	

右者十三年度國庫下渡金決算相違無之候也

年號何年何月何日

會計検査院長宛

長官名印

官省院使廳府縣

○第六十六號 (七月二十八日 檢附)

官省院使廳府縣

海軍部内ニ海軍機關學校設置候條此旨相違候事

○第六十七號 (七月二十九日)
明治十四年度歳入出豫算表ノ備會計法第七條ニ據リ大藏省ニ於テ調理統計シ會計検査院ノ審査ヲ經別册ノ通決定候條此旨相違候事

(別册)
明治十四年度歳入出豫算表

明治十四年度豫算表例言

本表ニ掲出セン歳入出ヲ以テ前年ニ比シテ各項増減ノ事由ヲ下文ニ陳敘スルニ當リ先ツ歳計ニ關スル一二ノ要件ヲ左ニ提記ス

一 本年度ノ歳計タルヤ歳入ノ豫算額經常臨時ヲ合シ六千八百五拾七萬三千九百九拾五圓ニシテ之ヲ前年度ノ歳入五千九百九拾三萬三千五百七圓ニ比スレハ實ニ八百六拾四萬四百八拾八圓ノ増額ヲ見ルニ至レリ其增加ノ重要ナルモノハ客歲第四十號ヲ以テ酒造稅則ヲ改正シ及ヒ第四十一號ヲ以テ醬油稅則ノ發行、開拓使兌換證券引換金ノ返納アルニ由ル而シテ歳出ニ於テハ本年二月ノ令違ヲ以テ各省ノ經費ヲ節減スルモノ百萬圓餘及ヒ客歲第四十八號ヲ以テ從前國庫ノ支出タリシ地方費ヲ改メ地方ノ支辨ニ歸センヲ以テ貳百五拾萬圓餘ヲ減額セリ右等ノ減額ヲ以テ前記ノ増加額ニ合シ壹千貳百拾四萬圓餘ヲ得タリ因テ茲ニ本年度ノ豫算表ヲ制定スルニ當リ昨年來財政更革ノ旨ニ基キ勉メテ平常ノ費途ヲ減省シ及ヒ方今最緊要ナル事項ヲ認メ前記壹千貳百拾四萬圓餘ヲ以テ其費ニ充テ本年度ノ豫算ヲ確定ス今其重要ナルモノヲ舉レハ紙幣支消ニ七百萬圓(内三百五拾萬圓ハ減價)準備金ヲ充實ナラシメンカ爲メ昔テ作業費條例ニ據リ各關營業資本トシテ準備金ノ内ヨリ繰換附セシ金額四百五拾萬圓餘ヲ更ニ常用ノ支出トナシ其他陸軍ノ砲臺、海軍ノ船渠、火藥製造所、工部ノ鐵道、電信等ニ若干圓ヲ充行シタリ

一 起業金ノ收支全額ハ之ヲ十一年度豫算表歳入出ノ款外ニ掲載シ其實際出納ノ景況ハ大藏省ヨリ別段ノ手續ヲ以テ報告セリ然ルニ該金ヲ支用セシ興業即チ京都大津間ノ鐵道、釜石油戸兩坑山等ニ於テ已ニ若干ノ收益ヲ見ルト雖モ是等ハ通常ノ作業益金ト相聯絡スルモノニシテ之ヲ各自ニ分離スルヲ得ス且ツ米原穀費間ノ鐵道建築費、岩内炭坑及石狩川口ノ改良費トシテ獨ニ募集金ノ内ヨリ若干ノ交付アリト雖モ未ダ其工事ヲ竣ルニ足ラス因テ本年更ニ常用ヨリ支出シテ

之レニ補足スルモノ各若干圓ナリ是ヲ以テ前記歳入ノ如キモ亦本年度ヨリ改メテ之ヲ此豫算表ニ編入セリ

一前年度ノ準備金有萬八千五百三拾貳萬五千五百拾五圓拾四錢四厘ニシテ本年度ノ有萬五千五百三拾九萬九千九百九拾貳圓拾貳錢壹厘ナルカ故ニ其増差ハ四百六萬四千圓餘ナリ今此増加アリテ所以ヲ略陳スレハ十三年度間該金ヨリ國債償還等ノ爲メ若干ノ支出アリ又減債基金ヨリ生スル利子等若干ノ收入アリテ差引七拾六萬貳千圓餘ノ増差ヲ得而シテ又十一十二兩年度ノ決算剰金三百三拾萬貳千圓餘ノ多額ヲ挿入シテナリ

一前年度間内外國債ノ減スル五百六拾壹萬八千三百貳拾貳圓七拾錢ナリ乃チ高知鹿兒島二縣ノ家祿復舊者ニ金祿公債證書ヲ下付シ又追加處分ノ爲メ新公債證書ヲ下付スルニ付貳拾萬三千貳百七拾圓ノ増加アリト雖モ減債法ニ據リ内債四百九拾八萬貳千圓餘外債八拾三萬九千圓餘ヲ償還セシ等ニ由ル而シテ又紙幣ノ一部ニ就キ其流通額ノ減少ヲ視レハ其金員ハ貳百六拾貳萬七千七百圓餘ニシテ其内支消ニ屬スルモノ貳百圓餘引換等ノ引揚ニ歸スルモノ六拾四圓餘公債證書ニ引換シテ六拾貳萬七千七百圓ナリ蓋シ公債證書ニ引換高ノ前年度歳首ニ豫期セシ如クナラスンテ此ノ少數ニ止ルモノハ爾來該引換額ノ取消ヲ乞フ者頗ル多カリシヲ以テナリ

一義二十二年豫算表中救荒儲蓄トシテ金百貳拾萬圓ヲ掲上セシニ該法ノ實施ハ十四年一月已後ニ在ルヲ以テ十三年度ノ例言ニ陳敘セシ如ク十二年度分ノ内救助貸トシテ實際支出セシ金三拾五萬四千圓餘ヲ扣除シ其餘即チ册尾ニ記スル所ノ金員八拾四萬五千圓餘ハ已ニ中央儲蓄ト爲シテ之ヲ大藏省ニ保管セリ但シ十三年度分百貳拾萬圓ノ内上半年ニ於テ前記ト同シク救助貸ニ供セシ剰餘ト下半年ニ於テ該方法ニ據リ各府縣ニ配付セシ剰餘ト併セ少クモ五拾萬圓ニ下ラサルヘシト雖モ精算ノ順序終了セサルカ故未ダ之ヲ中央儲蓄金ニ併算スルニ至ラス

一本會計年度豫算ノ歳入各科目中増加セシ者ノ事由ヲ左ニ列載ス但シ事由ノ指示ヲ要セサル者及金額ノ大差ナキ者ハ之ヲ略ス

(地稅)ハ地租組換ニ因リ市街地稅壹萬九千圓餘ヲ減スト雖モ其他増加スルモノ四萬三千圓餘延納金ハ前年度ニ七萬圓餘ナリシニ本年度ハ改租ノ際延納ヲ許セシ年賦金ノ徵收初年ニ當ルヲ以テ其額五拾萬九千圓ヲ收入シ又沖繩縣ハ概ネ物品收入ナルヲ以テ其價格ノ騰貴ニ隨ヒ拾貳萬七千圓餘ヲ増加スルニ由ル

(酒造稅)ハ客歲第四十號公布ヲ以テ酒類稅ヲ廢シテ更ニ酒造稅則ヲ定メツレニ由ル

(營繕營業稅)ハ客歲第四十一號公布ヲ以テ該稅則ヲ定メツレニ由ル

(郵便稅)ハ線路ヲ延ヘ支局ヲ増シ隨テ爲換取扱及郵書ノ數多キヲ加フル等ニ由ル

(農商務省製作益金)ハ前年内務省ノ所管ナリシ牛住製絨所内工毛所及愛知、廣島紡績所益金ハ前年度ト同員額ニシテ本年更ニ紋籠製糖所益金六千圓餘ヲ増加スルニ由ル

(工部省鐵道益金)ハ阿仁院内ノ二坑ニ於テ工事改良ノ爲メ暫ク採鐵ヲ中止シ三萬圓餘ヲ減少スト雖モ前年度收益ナキ中小坂、釜石ノ坑事漸ク整頓シ殊ニ釜石ハ新メニ鐵鑛ノ業ニ着手シ生野、八鏡、麻布、善長ニ赴キ其他各坑鐵物ノ價ヲ益シ或ハ採鐵ノ域ヲ擴メ爲メニ貳拾萬七千圓餘ヲ増シ之レニ加フルニ起業金ヲ以テ既ニ着手セシ阿仁、油戸ノ鐵山益金四萬貳千圓餘ヲ併セ茲ニ編入スル等ニ由ル

(工部省鐵道益金)ハ行旅及物品運送等ノ數漸ク多ク且ツ米原教習間鐵道モ本年度中ニハ其幾分ヲ竣成シ隨テ西京神戸間鐵道ノ收益モ亦多キヲ加フル等ニ由リ貳拾九萬四千圓餘ヲ増加シ又前項ト同シク起業金ヲ以テ起工セシ西京大津間ノ鐵道益金拾七萬貳千圓餘ヲ併算スルニ由ル

(工部省電信益金)ハ分局ヲ増設シ線路ヲ延長スルト信數ノ逐年増加スルトニ由ル

(廣島鑛山益金)ハ鐵品ノ價ヲ増スニ由ル
 (官有物貸下料)ハ十一年內務省乙第四拾一號達ニ據リ社寺境内ノ無代下渡ニ歸シ及貸地ノ拂下
 ニテ民有ニ屬スルモノアル等ニヨリ壹萬七千圓餘ヲ減スト雖モ官地借用者ノ多キカ爲メ貳萬六
 千圓餘ノ増加アル等ニ由ル
 (雜入)ハ皇城建築費賦納金ノ編入額拾三萬六千圓餘ヲ減少スト雖モ國債償還額ノ増スニ隨ヒ減
 債金繰入高ノ増加貳萬貳千圓餘開拓使ノ返納金貳百五拾萬圓贖金徵兵代人料等ノ増加貳拾貳
 萬五千圓餘其他雜收ニ於テ起業貸付金ノ利子等拾壹萬圓餘ノ增收アルニ由ル
 以上十一件ノ外十五件ヲ併セ共増加ノ總額ハ九百三拾五萬百四拾六圓七拾八錢三厘ナリ
 又歳入科目中減少セシ者ノ事由ヲ左ニ列載ス
 (賣藥稅)ハ營業稅ニ貳千圓餘ヲ増スト雖モ本年第貳拾六號公布ヲ以テ請買及行商鑑札料ヲ廢シ
 爲メニ三千圓餘ヲ減少スルニ由ル
 (大藏省印刷益金)ハ本年度ヨリ本局ノ經費モ營業費ノ支辨ニ屬セシニ由ル
 (森林收入)ハ開墾牧畜等ニ要スル地所ノ貸下アルト官民有地所區別ノ査定ニ隨ヒ反別増加ノ見
 込アルトニヨリ三萬四千圓餘ヲ増スト雖モ森林保存ノ爲メ伐木ヲ節制スルニヨリ該拂下代金等
 貳拾三萬四千圓餘ヲ減少スルニ由ル
 (諸貸出金返納)ハ起業ニ屬スル貸下金ノ返納三萬五千圓餘ヲ茲ニ加算シ又前年新メニ貸與セシ
 モノアルヲ以テ三萬圓餘ノ増加アリト雖モ抑モ本項ノ返納金タルヤ種々ノ事故アリテ其實收常
 ニ約束額ニ及ハヌ故ニ本年度ハ既往數年ノ實收ヲ參酌シ拾七萬圓餘ヲ減少セシ等ニ由ル
 (宮方及舊藩々貸金返納)ハ完納年延及棄捐ニ屬スルモノアルト前項ノ例ニ倣ヒ約束額ヨリ其幾
 分ヲ低減セシトニ由ル

(石高貸下返納)ハ前年度迄ニ完納セシモノアルト諸貸出金返納ノ例ニ倣ヒ之ヲ低減セシトニ
 由ル
 (官有物拂下代)ハ主トシテ米國博覽會殘品拂下代及廣島縣ノ殘銚拂下代等ノ如キ前年度ニ有リ
 テ本年度ニ無ク又陸軍ノ被服拂下代ノ前年度ノ如ク保存滿期ニ際セサル等ニ由ル
 以上七件ノ外三件ヲ併セ共減少ノ總額ハ七拾萬九千六百五拾八圓七拾八錢三厘ナリ
 右減少ノ員額ヲ増加ノ員額ヨリ扣除スレハ本年度歳入増加ノ實額ハ八百六拾四萬四百八拾八圓ナリ
 一 本會計年度豫算ノ歳出各科目中増加セシモノ、事由ヲ左ニ列載ス
 (内國債)ハ秩祿公債ノ完債期限明治十六年ニ在ルヲ以テ其未償額ヲ本年以降三ヶ年ニ分賦スル
 ト起業公債ハ逐年償還額ヲ増スノ方法ナルトニ由ル
 (外國債)ハ舊公債ノ償還額前期ニ異ラスト雖モ新公債ハ利拂遞減ノ度ニ從ヒ年々其額ヲ増加ス
 ルノ方法ナルニ由ル
 (紙幣消却)ハ開拓使ヨリ兌換證券引換金ノ返納アルニ由リ之ヲ該消却ニ充ルト貸制ノ改良ヲ企
 圖シ更ニ其額ヲ増加スルニ由ル
 (内國債雜費)ハ起業公債ニ屬スル元利拂手数料ヲ本年度ヨリ常用ノ支出ニ屬スルニ由ル
 (帝室及皇族費)ハ主トシテ有栖川伏見北白川三皇族ノ邸宅建築費及東伏見宮賄料ノ増加等ヲ編
 算セシニ由ル
 (大政官)ハ會計檢査官ノ増員アルト新メニ統計院ノ設置アリントニ由ル
 (陸軍省)ハ本年二月ノ令達ヲ以テ經費額ヲ節減シ又徵兵費ヲ府縣費へ移算スル等ニ由リ三拾貳
 萬千圓餘ヲ減スト雖本年第四號公達ヲ以テ陸軍部内ニ置カレタル憲兵ノ費用及日將校馬飼料下
 士以下ノ正服換給ノ増費等併セテ三拾五萬九千圓餘ノ支出アルニ由ル

(宮内省)ハ門監長以下ノ増員アルニ由ル
 (元老院)ハ職官ノ増員アルニ由ル
 (驛遞局)ハ本年二月節減ノ令達ヲ以テ三萬八千圓餘ノ減少アリト雖モ支局及取扱人ノ數ヲ増ス等事業ノ擴張ニ係ル増費貳拾五萬圓ヲ要スルニ由ル
 (三府各縣警察費)ハ往年准木大分山口鹿兒島高知福岡ノ六縣ニ允許セシ増費ノ遞減スヘキ者等アリテ七萬圓餘ヲ減少スト雖モ前年警視局ノ經費ニ編入セシ東京府下ノ警察費ヲ玆ニ移算シ而シテ本年第拾六號公布ヲ以テ地方一般ニ該費ノ割合ヲ定メラレ共計六拾萬貳千圓餘ノ増加アルニ由ル
 (神社費)ハ靖國神社寄附金ヲ陸軍省ヨリ扣除シテ玆ニ編算セシニ由ル
 (大藏省印刷興業費)ハ抄紙器械ヲ増設スルニ由ル
 (海軍省火藥興業費)ハ工場具備擴張等ノ爲メ從來著手ノ工事未タ竣成ニ至ラサルヲ以テ本年已降更ニ年割増費ヲ要スルニ由ル
 (工部省鐵道興業費)ハ起業金ヲ以テ已ニ著手セシ米原敦賀間鐵道建築費ノ補足トシテ別途ノ支出アルニ由ル
 (工部省電信興業費)ハ前年著手セシ工業ヲ繼續シ又東北地方ニ於テ新メニ架線ヲ要スルモノアル等ニ由ル
 (北海道炭山興業費)ハ起業金ヲ以テ著手セシ幌內及岩内ノ炭坑改良費ノ繼續トシテ更ニ木費ヲ要スルニ由ル
 (北海道石狩川改良興業費)ハ前項ニ同シク石狩川口開鑿ノ爲メ木費ヲ要スルニ由ル
 (北海道監獄建築費)ハ客歲十月准可ヲ得テ該建築ニ從事セシニ本年更ニ裁定ヲ經テ其構造ヲ擴

ムル等ニ由ル
 (砲臺建築費)ハ陸軍省經費中ヲ以テ既ニ起工セル神奈川縣下觀音崎砲臺ノ築設ヲ繼承シ又猿島其他六ヶ所ニ増築スル費用ノ物額ヲ十ヶ年ニ分割シテ本年度ヨリ支出スルニ由ル
 (金澤兵營建築費)ハ本年一月火災ニ罹リ之ヲ再築スルカ爲メ木費ヲ要スルニ由ル
 (雜田)ハ太政官ノ廳舍建築及刑法治罪法審査局等ノ費用ヲ本年度ニ要セサルモノアルカ爲メ三萬五千圓餘ヲ減スト雖モ地租改正事務ノ竣成ニ難シタルヲ以テ一時ニ該補助費百拾萬三千圓餘ノ増額ヲ要シ又往年ヨリ豫約アル物業年割貸司法省廳舍建築費及朝鮮國警泊軍艦費等八萬八千圓餘ノ支出アルニ由ル
 (各廳營業資本)ハ從來準備支出ニ係ル各項ヲ本年度以降改メテ常用ノ支出ト爲スニ由ル
 以上二十三件ノ外三件ヲ併セ共増加ノ總額ハ千五百六拾八萬千九百九拾圓ナリ
 又歲出科目中減少セシ者ノ事由ヲ左ニ列載ス
 (内國債利子)ハ前年新メニ發行セシ金札引換公債等ノ利子五萬八千圓餘ヲ増スト雖モ全年度ニ於テ既ニ償還セシ債額ノ多キカ爲メ拾八萬圓餘ヲ減少セシニ由ル
 (外國債利子)ハ其償還ニ隨ヒ逐年元金ノ減スルニ由ル
 (外國債雜費)ハ元利拂ノ金額減少セシニ由ル
 (内務省)ハ警保局ノ經費及從軍警吏費補助ノ事務ニ係ル費途ヲ舊警視局ヨリ玆ニ移算スルモノ壹萬六千圓餘本年第十七號ノ公布ニ據リ集治監ニ入ルヘキ囚徒費拾萬三千圓餘又該省乙第十六號達ヲ以テ司獄吏ノ程度ヲ定ムル等ニ由リ集治監經費壹萬貳千圓餘ヲ増スト雖モ勸農山林等ノ事務ヲ農商務省ニ歸シ及客歲第四十四號ノ公布ニ據リ小笠原島出張所ヲ東京府ニ隸セシカ爲メニ九拾七萬四千圓餘又本年二月ノ令達ニ係ル節減額及從前交付ノ正貨差額八萬六千圓餘ヲ減

少スルニ由ル

(大藏省)ハ地租改正局ノ事務ヲ繼續スルカ爲メ其經費七萬貳千圓餘ヲ増スト雖モ商務局ヲ農商務省ニ轉屬シ酒造検査補助費ヲ府縣經費ニ移算シ爲メニ拾五萬千圓餘又本年二月ノ令違ニ係ル節減額及從前交付ノ正貨差額拾三萬六千圓餘ヲ減少スル等ニ由ル

(文部省)ハ本年二月ノ令違ニ係ル節減額貳拾萬圓ト從前交付ノ正貨差額六萬六千圓餘トヲ減除スルニ由ル

(工部省)ハ本年二月ノ令違ニ係ル節減額及口從前交付ノ正貨差額七萬六千圓餘其他省內ニ配置セル巡查ノ俸給ヲ警視廳ノ經費ニ移算シ壹千圓餘ヲ減少スルニ由ル

(開拓使)ハ物産稅其他收入ノ多キニ隨ヒ交付ノ金員六萬五千圓餘ヲ増スト雖モ本年二月ノ令違ヲ以テ經費ヲ節減シ定額支給ノ期限ハ十五年一月ナルヲ以テ二月以降ニ係ル金員ヲ減除シ又從前交付ノ正貨差額ヲ削リ通計四拾九萬千圓餘ヲ減少スル等ニ由ル

(外國公館)ハ朝鮮京城公使館ノ新設アルニ因リ貳萬七千圓餘ヲ増スト雖モ英國倫敦、印度新嘉坡及清國牛莊ノ三領事館ヲ停メ其他各種ノ費途三拾九萬千圓餘ヲ減省セシニ由ル

(警備費)ハ客歲第四十八號公布ヲ以テ各府縣廳會 監獄ノ警備費及其補充等番皆地方費ノ支辨ニ關シ僅ニ沖繩縣ノ廳會、監獄、警察署及神奈川縣ノ揮發物貯藏庫等ノ修築費ヲ要スルニ止ルニ由ル

(土木費)ハ開港場并外國人居留地ノ修繕及澁川外四川ノ改築等ニ於テ尙ホ木項ノ費額ヲ要スト雖モ主トシテ客歲第四十八號公布ニヨリ府縣下渡金及其補充金ヲ地方費ノ支辨ニ屬スルニ由ル

(府縣費)ハ客歲十一月ノ令違ヲ以テ廳費拾八萬九千圓餘ヲ増シ徵兵費六萬圓ヲ陸軍省ヨリ移シ小笠原島管理費壹萬三千圓餘ヲ內務省ヨリ移シ其他前年度ニ豫算セザリシ沖繩縣ノ貢租運搬

費 島島人民救助費及其地方費ノ編入等拾六萬三千圓餘ノ増加アリト雖モ客歲第四十八號ノ公布ニ據リ監獄費ヲ地方稅ノ支辨ニ歸シ百五拾九萬貳千圓餘ヲ減少セシニ由ル

(警視廳)ハ東京府下ノ警察ニ係ル費途ヲ府縣警察ノ項ニ移スモノアリ又監獄費ヲ地方ノ支辨ニ歸スルモノアリ其他從軍警備費扶助ノ事務ヲ內務省ニ屬スル等ニ由ル

(海軍省船渠興業費)ハ所要ノ鐵石其他物價騰貴等ノ爲メ從來ノ工事未タ竣成ニ至ラサルカ故ニ本年已後更ニ年割ヲ以テ木項ノ金員ヲ支給スルニ由ル

(工部省鐵山興業費)ハ釜石三池ノ兩分局ニ於テ屋舎ノ建築機械ノ設置等未タ完備セサルカ故ニ本年度モ尙ホ該費ヲ要スト雖モ而モ之ヲ前年度ニ比スレハ五萬千圓餘ヲ減少シ又佐渡、生野、小坂中小坂ノ諸分局ハ工事已ニ畢リ該費拾四萬六千圓餘ヲ要セサル等ニ由ル

(內國勸業博覽會費)ハ閉鎖後殘務ヲ整理スル費途ニ止ルニ由ル

(舊近衛兵營典藏)ハ前年滿期アリシニ由ル

以上十七件ノ外十六件ヲ併セ共減少ノ總額ハ七百四萬七百貳圓ナリ

右減少ノ員額ヲ増加ノ員額ヨリ扣除スレハ本年度歳出増加ノ實額ハ八百六拾四萬四百八拾八圓ナリ

明治十四年度歳入出豫算表

歳入之部

經常歳入

第一款 租 稅 金六千貳拾四萬千四百五圓

內 關 稅 金貳百六拾萬三百三拾圓

海 關 稅 金四千貳百五拾六萬九千九百四拾四圓

地 稅 金四千貳百五拾六萬九千九百四拾四圓

鐵山 稅	金壹萬四千百六拾五圓
北海道物產稅	金七拾五萬七千三百九拾八圓
酒 造 稅	金千四拾四萬千七百六拾六圓
醬麴營業稅	金五萬八千八百圓
煙 草 稅	金三拾四萬八千六百七拾四圓
證券印紙諸稅	金六拾九萬五千八百七拾六圓
郵 便 稅	金百六拾六萬貳百拾圓
訴訟紙諸稅	金九萬七百七拾六圓
代官免所料	金壹萬千圓
船 稅	金拾四萬六千貳百七拾圓
車 稅	金三拾三萬七千三百貳拾九圓
會 社 稅	金三拾萬圓
鈾 鐵 稅	金六萬三千九百五拾七圓
牛馬買賣免許稅	金七萬五千八百五拾五圓
賣 藥 稅	金六萬四千九百四拾七圓
度量衡 稅	金三千三百圓
版權免許料	金三千六百九拾壹圓
海外旅券其他 免許料	金五千百拾七圓
第二款 作業益金	金貳百拾六萬八千四百四圓
內 譯	
內務省製藥	金千四百拾壹圓

大藏省造幣	金四拾貳萬七千五百圓
海軍省造船	金三萬五千五百三拾貳圓
海軍省石炭	金三千九百六拾八圓
農商務省製作	金八千九百七拾四圓
工部省鐵山	金四拾五萬九千八百七拾八圓
工部省鐵道	金百八萬四千七拾三圓
工部省電信	金三萬五千五百三拾五圓
工部省工作	金六萬貳千六百九拾貳圓
開拓使諸作業	金三萬三千四百四拾壹圓
廣島縣鐵山	金壹萬九千七百圓
第三款 雜 收 入	金四拾五萬五千九百五圓
內 譯	
森林收入	金貳拾五萬千貳百五拾五圓
官有物貸下料	金拾貳萬六千貳百七圓
開墾管地貸下料	金七萬八千四百四拾三圓
臨時歲入	金六拾六萬五千七百拾四圓
第四款 諸 返 納	金六拾三萬五千六百四拾六圓
內 譯	
諸貸出金返納	金四拾五萬七千四百四拾六圓

第五款 雜

收 入 金五百七萬貳千六百三拾五圓

內 譯

官有物拂下代 金三拾五萬千貳百三拾五圓

雜 入 金四百七拾貳萬千四百圓

歲入總計金六千八百五拾七萬三千九百九拾五圓

歲出之部

第一款 國債償還

金千貳百貳萬貳千六百八拾壹圓

內 譯

內 國 債 金四百拾五萬八千四百三拾三圓

外 國 債 金八拾六萬四千貳百四拾八圓

紙幣消却 金七百萬圓

第二款 國債利子

金千五百四拾四萬九千六百六拾八圓

內 譯

內國債利子 金千四百七拾壹萬七拾七圓

內國債雜費 金八千六百三拾壹圓

外國債利子 金七拾貳萬千八百九拾四圓

外國債雜費 金八千五百六拾六圓

第三款 帝室及皇族費

金百拾五萬六千七百八拾五圓

第四款 年金恩給諸款

金五拾壹萬八百拾貳圓

內 譯

賞勳年金 金拾五萬千四百八拾圓

軍人恩給 金拾五萬六百七拾八圓

社 寺 祿 金四萬七千四拾四圓

神 佛 土 金拾六萬千六百拾圓

第五款 官省院使局費

金貳千貳百三萬貳千九拾九圓

內 譯

太 政 官 金五拾八萬圓

外 務 省 金拾九萬五千貳百拾圓

內 務 省 金七拾壹萬八千貳百拾九圓

大 藏 省 金百貳拾七萬貳千五百四拾壹圓

陸 軍 省 金八百拾八萬九千四百圓

海 軍 省 金貳百九拾八萬三千八百五拾圓

文 部 省 金九拾壹萬四千六百壹圓

農 商 務 省 金百三萬九千八百拾四圓

工 部 省 金四拾六萬八千貳百九拾四圓

司法省	金百七拾八萬五千圓
宮內省	金三拾五萬四千圓
元老院	金拾九萬六千圓
開拓使	金百四拾萬七千五百五拾九圓
外國公館	金四拾五萬七千圓
驛遞局	金百四拾七萬七千圓
第六款 營繕土木費	金四拾九萬五千拾壹圓
內譯	
營繕	金拾三萬貳千四百貳拾四圓
土木	金三拾六萬貳千五百八拾七圓
第七款 府縣費	金三百三拾七萬貳千七百九拾六圓
第八款 警察費	金貳百貳拾壹萬七千九百四拾六圓
內譯	
警視廳	金三拾七萬貳千五拾八圓
三府各縣	金百八拾四萬五千八百八拾八圓
第九款 神社費	金拾四萬貳千五百五拾圓
第十款 備荒儲蓄	金百貳拾萬圓
臨時歲出	
總計	金五千八百五拾九萬九千九百四拾八圓
第十一款 興業費	金百貳拾四萬三千七百貳圓

內譯	
大藏省印刷	金貳萬九千三百四拾八圓
海軍省船渠	金九萬三千五百圓
海軍省火藥	金拾五萬四千八百貳拾九圓
工部省鐵山	金貳拾四萬六千圓
工部省鐵道	金貳拾五萬千貳拾五圓
工部省電信	金拾四萬四千圓
工部省採油	金壹萬圓
北海道炭山	金貳萬圓
北海道石炭	金貳拾九萬五千圓
雜支	金貳百六拾五萬五千三百四拾五圓
內譯	
御巡幸費	金三拾五萬圓
宮殿造營費	金五拾萬圓
內國勸業	金九千貳百貳拾圓
博覽會費	金拾萬圓
北海道建設費	金貳拾四萬圓
砲臺建設費	金九萬四千五百圓
海軍建設費	金百三拾六萬千六百貳拾五圓
雜出	金四百五拾七萬五千圓
第十三款 各廳營業資本	金四百五拾七萬五千圓

第十四款 豫

備 金百五拾萬圓

歲出總計金六千八百五拾七萬三千九百九拾五圓

內 國債之部

有利息債 金貳億貳千七百貳拾萬千九百七拾圓

內

金千五百五萬三千四百貳拾五圓

金五百拾七萬四千貳百圓

金九百五拾壹萬千貳百七拾五圓

金壹億七千三百八拾三萬八千七百九拾五圓

內 金三千四百拾壹萬貳千五百五拾五圓

金貳千五百萬貳千三百拾五圓

金壹億八百貳拾三萬八千八百拾五圓

金九百拾八萬五千百拾圓

金三拾九萬貳百貳拾五圓

金千貳百貳拾三萬四千五拾圓

金千五百萬圓

無利息債 金八百九拾九萬貳千貳百貳拾貳圓五拾錢

新公債

四分利付

金札引換公債

六分利付

秩祿公債

八分利付

金祿公債

五分利付

六分利付

七分利付

舊神官配當祿公債

舊公債

紙幣流通高

金壹億六百萬六千四百三拾九圓四拾錢

合金三億四千貳百貳拾五萬五千六百三拾壹圓九拾錢

內 金八拾貳萬四千九百七拾圓

金六拾貳萬千七百圓

金貳拾萬三千貳百七拾圓

內 金千五百貳拾五圓

外金五百六拾萬三千九百三拾貳圓七拾錢

內

金貳百九拾八萬貳百九拾七圓五拾錢

金拾萬四百五拾圓

金五萬八千圓

內 金貳百三拾壹萬六千七百七拾五圓

金三萬三千百圓

金貳拾六萬五千九百五拾圓

金貳拾壹萬九千三百貳拾貳圓五拾錢

金千八百七拾壹圓

金三百圓

內 金千三百四拾圓

明治十三年度豫算表出高ヨリ増

發行増

但金札引換公債

整理増

新公債

金祿公債

明治十三年度豫算表出高ヨリ減

諸公債消却減

新公債

金札引換公債

秩祿公債

舊神官配當祿公債

起業公債

舊公債

諸公債整理減

新公債

金祿公債

金貳百三拾壹圓	舊公債
金貳百六拾貳萬千七百六拾四圓貳拾錢	紙幣消却減
內 金貳百六拾貳萬千七百圓	支消
金六拾四圓貳拾錢	損改札引上
外國債	
金四拾八萬八千圓	舊公債
金九百六拾八萬五千三百三拾六圓	九分利付
合金千拾七萬三千三百三拾六圓	新公債
外金八拾三萬九千三百六拾圓	七分利付
內	明治十三年度豫算
金四拾八萬八千圓	支出高ノ内消却減
金三拾五萬千三百六拾圓	
內外國債合計金三億五千貳百四拾貳萬八千九百六拾七圓九拾錢	
準備之部	
金五千五百三拾九萬九拾六圓貳拾貳錢壹厘	
貸付之部	
金六百七拾七萬千三百九拾壹圓七拾九錢四厘	
中央儲蓄金之部	
金八拾四萬五千九百五拾六圓六拾四錢五厘	

歲 出 之 部

Table with columns for fiscal years (四年度豫算, 十三年度豫算, etc.) and numerical values. Includes a header for '比 較' (Comparison) and '差' (Difference).

國債準備其他累年比較表

科目	十四年度	十三年度	十二年度	十一年度	十年度	比較	
						十三年	十二年
內國有利息債	1,113,410,150.00	1,113,410,150.00	1,113,410,150.00	1,113,410,150.00	1,113,410,150.00	△1,113,410,150.00	△1,113,410,150.00
新公債	1,103,410,150.00	1,103,410,150.00	1,103,410,150.00	1,103,410,150.00	1,103,410,150.00	△1,103,410,150.00	△1,103,410,150.00
金孔引換公債	1,093,410,150.00	1,093,410,150.00	1,093,410,150.00	1,093,410,150.00	1,093,410,150.00	△1,093,410,150.00	△1,093,410,150.00
秩祿公債	1,083,410,150.00	1,083,410,150.00	1,083,410,150.00	1,083,410,150.00	1,083,410,150.00	△1,083,410,150.00	△1,083,410,150.00
金祿公債	1,073,410,150.00	1,073,410,150.00	1,073,410,150.00	1,073,410,150.00	1,073,410,150.00	△1,073,410,150.00	△1,073,410,150.00
勸業公債	1,063,410,150.00	1,063,410,150.00	1,063,410,150.00	1,063,410,150.00	1,063,410,150.00	△1,063,410,150.00	△1,063,410,150.00
起業公債	1,053,410,150.00	1,053,410,150.00	1,053,410,150.00	1,053,410,150.00	1,053,410,150.00	△1,053,410,150.00	△1,053,410,150.00
征討費借入	1,043,410,150.00	1,043,410,150.00	1,043,410,150.00	1,043,410,150.00	1,043,410,150.00	△1,043,410,150.00	△1,043,410,150.00
內國無利息債	1,033,410,150.00	1,033,410,150.00	1,033,410,150.00	1,033,410,150.00	1,033,410,150.00	△1,033,410,150.00	△1,033,410,150.00
紙幣流通高	1,023,410,150.00	1,023,410,150.00	1,023,410,150.00	1,023,410,150.00	1,023,410,150.00	△1,023,410,150.00	△1,023,410,150.00
內國合計	1,013,410,150.00	1,013,410,150.00	1,013,410,150.00	1,013,410,150.00	1,013,410,150.00	△1,013,410,150.00	△1,013,410,150.00
外國舊公債	1,003,410,150.00	1,003,410,150.00	1,003,410,150.00	1,003,410,150.00	1,003,410,150.00	△1,003,410,150.00	△1,003,410,150.00
外國新公債	1,093,410,150.00	1,093,410,150.00	1,093,410,150.00	1,093,410,150.00	1,093,410,150.00	△1,093,410,150.00	△1,093,410,150.00
外國合計	1,083,410,150.00	1,083,410,150.00	1,083,410,150.00	1,083,410,150.00	1,083,410,150.00	△1,083,410,150.00	△1,083,410,150.00
國債總計	1,113,410,150.00	1,113,410,150.00	1,113,410,150.00	1,113,410,150.00	1,113,410,150.00	△1,113,410,150.00	△1,113,410,150.00
準備	1,103,410,150.00	1,103,410,150.00	1,103,410,150.00	1,103,410,150.00	1,103,410,150.00	△1,103,410,150.00	△1,103,410,150.00
附	1,093,410,150.00	1,093,410,150.00	1,093,410,150.00	1,093,410,150.00	1,093,410,150.00	△1,093,410,150.00	△1,093,410,150.00
中央儲蓄	1,083,410,150.00	1,083,410,150.00	1,083,410,150.00	1,083,410,150.00	1,083,410,150.00	△1,083,410,150.00	△1,083,410,150.00

十四年度歲入出明細表

經常歲入

海關		地稅										鑛山		北海道物產稅		酒造		醬麴營業稅		烟草	
海關	海關	海關	海關	海關	海關	海關	海關	海關	海關	海關	海關	海關	海關	海關	海關	海關	海關	海關	海關	海關	
關稅	關稅	關稅	關稅	關稅	關稅	關稅	關稅	關稅	關稅	關稅	關稅	關稅	關稅	關稅	關稅	關稅	關稅	關稅	關稅	關稅	
1,511,556	45,557	3,088,112	7,013,534	2,588,035	5,308,022	8,854,333	1,234,400	1,297,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	
11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	

明治十四年七月 大藏省 第六十七號 (明治十四年度歲入出明細表)

明治十四年七月 太政官 通 第六十七號 (明治十四年度歲入出豫算表)

稅目	稅額	免稅額	合計
證券印紙諸稅	2,370,949.00		2,370,949.00
印紙	2,370,949.00		2,370,949.00
押印紙	3,333.00		3,333.00
切手	1,421,461.00		1,421,461.00
私書	3,333.00		3,333.00
換手紙	3,333.00		3,333.00
通紙	1,421,461.00		1,421,461.00
代稅	1,421,461.00		1,421,461.00
郵便稅	1,421,461.00		1,421,461.00
代官免許料			
汽船	1,421,461.00		1,421,461.00
帆船	3,333.00		3,333.00
汽船	3,333.00		3,333.00
帆船	3,333.00		3,333.00
馬車	1,421,461.00		1,421,461.00
人力車	3,333.00		3,333.00
牛車	3,333.00		3,333.00
獨輪車	3,333.00		3,333.00
國稅	3,333.00		3,333.00
米稅	3,333.00		3,333.00
社稅	3,333.00		3,333.00
會社	3,333.00		3,333.00
獵稅	3,333.00		3,333.00
牛馬買賣免許稅			

稅目	稅額	免稅額	合計
賣藥稅	1,421,461.00		1,421,461.00
度量衡稅	3,333.00		3,333.00
版權免許料			
海外旅券其他免許料			
內務省製藥益金	1,421,461.00		1,421,461.00
大藏省造幣益金	3,333.00		3,333.00
海軍省造船益金	3,333.00		3,333.00
海軍省石炭益金	3,333.00		3,333.00
農商務省製作益金	3,333.00		3,333.00
工部省鐵山益金	3,333.00		3,333.00

明治十四年七月 太政官 通 第六十七號 (明治十四年度歲入出豫算表)

歲出明細表
經常歲出

紙幣 外國 債 新債 公債	內 國 債 公債 公債 公債 公債 公債 公債 公債	雜 入	
		臨時歲入合計	臨時歲入合計
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

紙幣 外國 債 新債 公債	內 國 債 公債 公債 公債 公債 公債 公債	雜 入	
		臨時歲入合計	臨時歲入合計
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

內務省	本省		外務省		官署	會計院		統計院		修史館	
	省	國	省	國		省	院	院	館	館	館
救國助行諸費	112,000	000	112,000	000	1,000	000	000	000	000	000	000
外務省	1,000	000	1,000	000	1,000	000	1,000	000	1,000	000	000
本省	100,000	000	100,000	000	1,000	000	1,000	000	1,000	000	000
合計	213,000	000	213,000	000	3,000	000	3,000	000	3,000	000	000

土木局	地運局		中央衛生會		古社寺保存費		本省
	局	局	會	會	費	費	
特別費	1,000	000	1,000	000	1,000	000	1,000
雜費	1,000	000	1,000	000	1,000	000	1,000
修繕費	1,000	000	1,000	000	1,000	000	1,000
測量費	1,000	000	1,000	000	1,000	000	1,000
衛生費	1,000	000	1,000	000	1,000	000	1,000
古社寺保存費	1,000	000	1,000	000	1,000	000	1,000
本省	100,000	000	100,000	000	100,000	000	100,000
合計	105,000	000	105,000	000	105,000	000	105,000

本	大	宮	東	衛	局															
					外	務	入	務	務	務	務	務	務	務						
省	省	監	監	局	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省
國	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務
給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給
10,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000
33,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000
78,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000

出	國	各	關	租	租	局															
						外	務	入	務	務	務	務	務	務	務	務					
省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省
國	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務	務
給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給
10,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000
33,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000
78,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000

本省

近衛局		監軍本部		參謀本部				本省			
武備	防務	檢閱	按察	電報	測候	外務	外務	陸軍	陸軍	陸軍	陸軍
雜費	雜費	雜費	雜費	雜費	雜費	雜費	雜費	雜費	雜費	雜費	雜費
1,150.00	2,100.00	7,350.00	2,085.00	2,148.00	1,615.00	1,592.00	1,592.00	3,240.00	2,040.00	2,100.00	2,100.00
								324,000.00			
								324,000.00			
								324,000.00			

1153

明治十四年七月 大政官 通 第六十七號 (明治十四年度收入山豫表)

陸軍省

外學	行生	陸軍	常平				出納局大阪出張所	
			雜費	雜費	雜費	雜費	雜費	雜費
1,150.00	2,100.00	7,350.00	2,085.00	2,148.00	1,615.00	1,592.00	1,592.00	
							3,240.00	
							324,000.00	
							324,000.00	
							324,000.00	

1151

明治十四年七月 大政官 通 第六十七號 (明治十四年度收入山豫表)

各軍管糧重兵隊	戶山學校	教導團官廳	教導團步兵隊	教導團騎兵隊
馬 飼 糧 雜 俸	糧 食	武 器 雜 俸	糧 食	馬 飼 糧 雜 俸
馬 飼 糧 雜 俸	食	食	食	食
給 費	給 費	給 費	給 費	給 費
128,155.000	18,117.000	27,015.000	336,695.000	127,181.000
128,155.000	18,117.000	27,015.000	336,695.000	127,181.000
7,895.000				
136,050.000				

教導團砲兵隊	教導團工兵隊	教導團軍樂隊	軍醫本部官廳	東京陸軍病院	裁判所
馬 飼 糧 雜 俸	馬 飼 糧 雜 俸	馬 飼 糧 雜 俸	藥 劑 雜 俸	患 者 雜 俸	患 者 雜 俸
食	食	食	食	食	食
給 費	給 費	給 費	給 費	給 費	給 費
11,804.000	11,025.000	15,104.000	10,121.000	55,310.000	21,561.000
11,804.000	11,025.000	15,104.000	10,121.000	55,310.000	21,561.000

明治十四年七月 大政官 達 第六十七號 (明治十四年度出入出納表)

二六八

各砲兵方面		各工兵方面		軍馬		痲馬		總兵隊	
雜	隊	雜	隊	雜	隊	雜	隊	雜	隊
給	費	給	費	給	費	給	費	給	費
1,273,234	000	1,611,900	000	3,561,000	000	1,020,000	000	1,606,000	000
2,310,000	000	2,600,000	000	7,122,000	000	1,040,000	000	1,496,000	000
1,036,766	000	1,011,100	000	3,561,000	000	1,020,000	000	1,606,000	000
1,273,234	000	1,611,900	000	3,561,000	000	1,020,000	000	1,606,000	000

海軍		本省		外國		同島		本島		船務		造船		其他	
給	費	給	費	給	費	給	費	給	費	給	費	給	費	給	費
3,300,000	000	1,400,000	000	1,000,000	000	1,000,000	000	1,000,000	000	1,000,000	000	1,000,000	000	1,000,000	000
8,199,000	000	3,300,000	000	2,400,000	000	2,400,000	000	2,400,000	000	2,400,000	000	2,400,000	000	2,400,000	000
3,300,000	000	1,400,000	000	1,000,000	000	1,000,000	000	1,000,000	000	1,000,000	000	1,000,000	000	1,000,000	000

明治十四年七月 大政官 達 第六十七號 (明治十四年度出入出納表)

二六九

明治十四年七月 大政官 通 第六十七號 (明治十四年度歳入出算書表)

水 路 局			醫 務 局			兵 器 局			裁 判 所			兵 學 校		
船務 監 雜 俸			庶務 監 雜 俸			兵務 監 雜 俸			因替 監 雜 俸			學教 雜 俸		
給 費			給 費			給 費			給 費			給 費		
51,921 000	1,312 000	11,744 000	8,746 000	1,125 000	1,328 000	5,931 000	2,456 000	1,511 000	2,877 000	1,733 000	1,564 000	1,881 000	1,916 000	
51,921 000			8,746 000			11,154 000			2,877 000			11,744 000		
51,921 000			8,746 000			11,154 000			2,877 000			11,744 000		

東 海 鎮 守 府			各 艦 諸 營			文 部			東 京 大 學					
監 雜 俸			監 雜 俸			省			文 理 法 學 部					
給 費			給 費			給 費			給 費					
31,157 000	1,901 000	1,901 000	2,086 000	1,111 000	1,111 000	1,111 000	1,111 000	1,111 000	1,111 000	1,111 000	1,111 000	1,111 000	1,111 000	
31,157 000			2,086 000			3,333 000			3,333 000			3,333 000		
31,157 000			2,086 000			3,333 000			3,333 000			3,333 000		

明治十四年七月 大政官 通 第六十七號 (明治十四年度歳入出算書表)

東京大學醫學部		東京外國語學校		東京師範學校		東京女子師範學校		大坂中學校			
學	費	教	雜	學	費	教	雜	學	費	教	雜
給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給
2,775.00	000	1,200.00	000	800.00	000	1,500.00	000	1,000.00	000	1,100.00	000
1,575.00	000	800.00	000	400.00	000	1,500.00	000	500.00	000	500.00	000
4,350.00	000	2,000.00	000	1,200.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	1,600.00	000
1,575.00	000	800.00	000	400.00	000	1,500.00	000	500.00	000	500.00	000
3,150.00	000	1,600.00	000	800.00	000	3,000.00	000	1,000.00	000	1,100.00	000
1,575.00	000	800.00	000	400.00	000	1,500.00	000	500.00	000	500.00	000
4,725.00	000	2,400.00	000	1,200.00	000	4,500.00	000	1,500.00	000	1,600.00	000
1,575.00	000	800.00	000	400.00	000	1,500.00	000	500.00	000	500.00	000
6,300.00	000	3,200.00	000	1,600.00	000	6,000.00	000	2,000.00	000	2,100.00	000
1,575.00	000	800.00	000	400.00	000	1,500.00	000	500.00	000	500.00	000
7,875.00	000	4,000.00	000	2,000.00	000	7,500.00	000	2,500.00	000	2,600.00	000
2,775.00	000	1,200.00	000	800.00	000	1,500.00	000	1,000.00	000	1,100.00	000
10,650.00	000	5,200.00	000	3,600.00	000	9,000.00	000	3,500.00	000	3,700.00	000

東京職工學校		東京圖書館		教育博物館		東京學士會院		体操傳習所		農商務省	
學	費	教	雜	學	費	教	雜	學	費	教	雜
給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給	給
8,000.00	000	9,000.00	000	1,000.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	50,000.00	000
8,000.00	000	9,000.00	000	1,000.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	50,000.00	000
8,000.00	000	9,000.00	000	1,000.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	50,000.00	000
8,000.00	000	9,000.00	000	1,000.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	50,000.00	000
8,000.00	000	9,000.00	000	1,000.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	50,000.00	000
8,000.00	000	9,000.00	000	1,000.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	50,000.00	000
8,000.00	000	9,000.00	000	1,000.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	50,000.00	000
8,000.00	000	9,000.00	000	1,000.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	50,000.00	000
8,000.00	000	9,000.00	000	1,000.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	50,000.00	000
8,000.00	000	9,000.00	000	1,000.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	50,000.00	000
8,000.00	000	9,000.00	000	1,000.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	50,000.00	000
8,000.00	000	9,000.00	000	1,000.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	50,000.00	000
8,000.00	000	9,000.00	000	1,000.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	50,000.00	000
8,000.00	000	9,000.00	000	1,000.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	50,000.00	000
8,000.00	000	9,000.00	000	1,000.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	50,000.00	000
8,000.00	000	9,000.00	000	1,000.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	50,000.00	000
8,000.00	000	9,000.00	000	1,000.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	50,000.00	000
8,000.00	000	9,000.00	000	1,000.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	50,000.00	000
8,000.00	000	9,000.00	000	1,000.00	000	3,000.00	000	1,500.00	000	50,000.00	000

明治十四年七月 太政官 達 第六十七號 (明治十四年度歲入山權表)

明治十四年七月 大政官 達 第六十七號 (明治十四年度歲入出預算表)

二七四

本省															
農務局		農務局		農務局		農務局		農務局		農務局		農務局		農務局	
總	監	總	監	總	監	總	監	總	監	總	監	總	監	總	監
費	給	費	給	費	給	費	給	費	給	費	給	費	給	費	給
100	000	75,000	000	15,000	000	15,000	000	15,000	000	15,000	000	15,000	000	15,000	000
合計															
21,000,000															

本省															
農務局		農務局		農務局		農務局		農務局		農務局		農務局		農務局	
總	監	總	監	總	監	總	監	總	監	總	監	總	監	總	監
費	給	費	給	費	給	費	給	費	給	費	給	費	給	費	給
21,000	000	1,000,000	000	1,000,000	000	1,000,000	000	1,000,000	000	1,000,000	000	1,000,000	000	1,000,000	000
合計															
10,000,000															

明治十四年七月 大政官 達 第六十七號 (明治十四年度歲入出預算表)

二七五

鐵道局	總務課	給	八,二五三	〇〇〇	10,710	〇〇〇
	總務課	給	九,五三	〇〇〇		
燈臺局	總務課	給	二,二二〇	〇〇〇	1,210,000	〇〇〇
	總務課	給	四,四三〇	〇〇〇		
工部省會計	燈臺及諸標建築修繕費	費	三,七,七,七六	〇〇〇	1,210,000	〇〇〇
	燈臺及諸標	費	三,七,七,七六	〇〇〇		
司法省	總務課	給	四,五,四〇〇	〇〇〇	4,682,500	〇〇〇
	總務課	給	四,五,四〇〇	〇〇〇		
大本	總務課	給	110,648	〇〇〇	110,648	〇〇〇
	總務課	給	110,648	〇〇〇		
大審院	總務課	給	5,000	〇〇〇	5,000	〇〇〇
	總務課	給	5,000	〇〇〇		

各上等裁判所	總務課	給	1,964,918	〇〇〇	1,964,918	〇〇〇
	總務課	給	1,964,918	〇〇〇		
各地方裁判所	總務課	給	1,111,111	〇〇〇	1,111,111	〇〇〇
	總務課	給	1,111,111	〇〇〇		
宮內省	總務課	給	1,111,111	〇〇〇	1,111,111	〇〇〇
	總務課	給	1,111,111	〇〇〇		
式部省	總務課	給	1,111,111	〇〇〇	1,111,111	〇〇〇
	總務課	給	1,111,111	〇〇〇		
元老院	總務課	給	1,111,111	〇〇〇	1,111,111	〇〇〇
	總務課	給	1,111,111	〇〇〇		
本	總務課	給	1,111,111	〇〇〇	1,111,111	〇〇〇
	總務課	給	1,111,111	〇〇〇		

開拓使

木		支		開拓使	
神戶	15,450.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00
招入	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00
恩賜	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00
救濟	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00
學務	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00
印刷	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00
紙類	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00
外國	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00
學費	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00
雜費	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00
給與	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00
總計	15,450.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00	1,200.00

殘餘

外國公館

外國公館	開拓使合計	1,200.00	1,200.00
英國倫敦公使館	1,200.00	1,200.00	1,200.00
魯國比時堡公使館	1,200.00	1,200.00	1,200.00
佛國巴里府公使館	1,200.00	1,200.00	1,200.00
米國華盛頓公使館	1,200.00	1,200.00	1,200.00
獨國伯靈公使館	1,200.00	1,200.00	1,200.00
伊國羅馬公使館	1,200.00	1,200.00	1,200.00
澳國維也納公使館	1,200.00	1,200.00	1,200.00
總計	7,200.00	7,200.00	7,200.00

土水										
府縣費	開港場修繕費	改築工費	改築工費	改築工費	改築工費	改築工費	改築工費	改築工費	改築工費	改築工費
1,135,142	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
1,135,142	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
2,814										

各木										
府縣費	陸產	雜貨	招租	救助	恩賜	地籍	印刷	貨幣	紙幣	印紙
1,135,142	3,000	2,000	10,000	8,000	2,800	3,500	5,000	5,000	5,000	5,000
1,135,142	3,000	2,000	10,000	8,000	2,800	3,500	5,000	5,000	5,000	5,000
2,814										

沖繩縣地方費				徵兵費				警視廳				木				警部				備外國人給與											
監獄費	衛生及病院費	勤業費	學費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	警務費	
1,135,142	1,200,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000		
1,135,142	1,200,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
2,814																															

沖繩縣 島嶼	給	1,110,000		
府縣下渡金	給	5,000,000		
神社費	給	1,000,000		
神宮司廳及官國幣社	給	50,000		
靖國神社寄附金	給	1,500,000		
遷宮諸費	給	1,000,000		
備荒儲蓄	給	1,000,000		
神社費合計	給	3,500,000		
府縣等諸費合計	給	18,488,888		

東京府	給	1,100,000		
大阪府	給	1,000,000		
京都府	給	1,000,000		
神戶府	給	1,000,000		
長崎縣	給	1,000,000		
新潟縣	給	1,000,000		
青森縣	給	1,000,000		
岩手縣	給	1,000,000		
秋田縣	給	1,000,000		
山形縣	給	1,000,000		
石川縣	給	1,000,000		
富山縣	給	1,000,000		
島根縣	給	1,000,000		
山口縣	給	1,000,000		
德島縣	給	1,000,000		
香川縣	給	1,000,000		
高松縣	給	1,000,000		
廣島縣	給	1,000,000		
岡山縣	給	1,000,000		
備前縣	給	1,000,000		
備中縣	給	1,000,000		
備後縣	給	1,000,000		
美濃縣	給	1,000,000		
信濃縣	給	1,000,000		
越前縣	給	1,000,000		
福井縣	給	1,000,000		
滋賀縣	給	1,000,000		
京都府	給	1,000,000		
大阪府	給	1,000,000		
神戶府	給	1,000,000		
長崎縣	給	1,000,000		
新潟縣	給	1,000,000		
青森縣	給	1,000,000		
岩手縣	給	1,000,000		
秋田縣	給	1,000,000		
山形縣	給	1,000,000		
石川縣	給	1,000,000		
富山縣	給	1,000,000		
島根縣	給	1,000,000		
山口縣	給	1,000,000		
德島縣	給	1,000,000		
香川縣	給	1,000,000		
高松縣	給	1,000,000		
廣島縣	給	1,000,000		
岡山縣	給	1,000,000		
備前縣	給	1,000,000		
備中縣	給	1,000,000		
備後縣	給	1,000,000		
美濃縣	給	1,000,000		
信濃縣	給	1,000,000		
越前縣	給	1,000,000		
福井縣	給	1,000,000		
滋賀縣	給	1,000,000		
總計	給	18,488,888		

府縣下渡金

千代田縣	給	11,250,000		
茨城縣	給	11,250,000		
群馬縣	給	11,250,000		
栃木縣	給	11,250,000		
群馬縣	給	11,250,000		
山梨縣	給	11,250,000		
長野縣	給	11,250,000		
靜岡縣	給	11,250,000		
愛知縣	給	11,250,000		
岐阜縣	給	11,250,000		
長崎縣	給	11,250,000		
宮崎縣	給	11,250,000		
福岡縣	給	11,250,000		
山口縣	給	11,250,000		
島根縣	給	11,250,000		
岡山縣	給	11,250,000		
備前縣	給	11,250,000		
備中縣	給	11,250,000		
備後縣	給	11,250,000		
美濃縣	給	11,250,000		
信濃縣	給	11,250,000		
越前縣	給	11,250,000		
福井縣	給	11,250,000		
滋賀縣	給	11,250,000		
總計	給	800,000,000		

同外査雨覆頭巾ノ部

(唯近衛ハ袖章ヲ緋色トス)ヲ(但地質大絨單製ニシテ裏ヲ附セス近衛ハ袖章ヲ緋色トスルヲ異ナ
リトス)ニ改ム

下士及兵卒夏服ノ部

下士兵卒及諸生徒

衣袴

地質 雲齋

色 白

縫製形状 略衣袴ニ同シ

但其臂章ヲ附スルモノモ略衣ニ異ナルコトナシ

同雨覆ノ部

同頭巾

地質色 外套ニ同シ

釦 頤部一箇ヲ附ス

縫製形状 如圖

輻重下士以下外査圖中

(輻重下士以下)ヲ(騎兵輻重兵下士以下)ニ改ム

下士兵卒及諸生徒夏服ノ部

袖章ヲ廢止ス

騎兵下士以下外査雨覆ノ部

渾テ廢止ス

十五年大政官第五

○第七十二號 (八月十五日 施行)

官省院使賜府縣

本年四月第三拾三號達會計法第三十七條ニ基キ出納勘定帳書式別冊ノ通相定候條本年七月ヨリ施行
可致此旨相達候事

(別冊)

出納勘定帳書式凡例

一出納勘定帳ハ國庫ノ歳出入ニ係ル現出納ノ國庫ニ對シ直チニ納受スルモノ及ヒ他種ニ對シ納受ス
付シ府縣警察官林保課費ノ内務ヲ此書式ニ依リ類別區畫シ其科目金員ヲ遺漏ナク掲載スルモ
省農商務省ヲ經テ受領スルノ類

一出納勘定帳ハ各年度ヲ區別シテ調理スヘシ故ニ該年度ヲ經過スルモ猶其年度所屬ノ收支ヲ了セ
サル間ハ其年度ノ勘定帳トシテ調理スルモノトス例ハ十三年度ノ收支ヲ十四年七月後ニ於テ
何月ト書シ尙十三年度勘定帳トシテ尤國庫ニ對シ直チニ納受セス他種ヲ經テ納受スルモノハ年度ノ經過ニ
隨ヒ現出納セル年度ノ勘定帳ニ編入スヘシ

一府縣屬官俸給職費史職編輯費招魂社費等ノ殘額ニシテ據置拂ニ屬スルモノハ翌年度初期勘定帳
ノ元受金ニ加算スヘシ

一出納閉鎖ノ期ニ際シ經費ノ決算ニ至ラス打切拂ニ立ルモノハ書式中經費ノ部末項ニ掲記セシカ
如ク打切拂ニ立テ而シテ翌年度ノ出納勘定帳中ニ打切金ノ部ヲ設ケ調理スルモノトス

一海外旅券手数料代官免許料版權免許料等ノ如キ國稅ニ屬スルモノハ租稅ノ部ニ編入スヘ
シ

一 起業金トハ内務省農商務省工部省開拓使等ニ於テ擔理スル所ノ起業費ニシテ起業金貸付トハ府縣ニ於テ農商務省ヨリ借受タル授産資金等ヲ指稱ス

一 一時取扱金トハ宮内省ノ官國幣社幣儀料陸軍省ノ城番給海軍省ノ下士以下遺族扶助料等ノ如キ府縣屬ヲ經由スルモノヲ指稱ス

一 傳票番號トハ納入金ニアリテハ大藏省ヨリ受領シタル證書ニ記載セル傳票番號受取金ニアリテハ出納局及驛遞局ヨリ通報セルモノヲ指稱ス

一 差引殘高即チ對比ノ差額ハ渾テ朱ヲ以書記スヘシ

一 會計主務官吏ヲ置カサル支廳若シハ出張所及ヒ神社費等ノ勘定仕上ハ左ノ期節ニ應シ編入スヘシ

本廳ヲ距ル五十里以内ニ在ルモノハ本廳全期ヘ共五十里以外二百里未滿ナルモノハ本廳全期若シシハ乙期ヘ共二百里以外五百里未滿ナルモノハ同乙期若シハ丙期ヘ編入シ以下順次此例ニ循フ

一 營業資金田納ニ於テハ總計表及收支比較表等書式ニ據リ調製シ勘定帳ヘ添付スルコトス
(出納勘定帳并作業費正算表略ス)

○第七十三號 (八月二十日 給原附)
官省院使廳府縣

外務省中一 等書記官 二 等書記官 三 等書記官并 一 等書記生 二 等書記生 三 等書記生ヲ廢シ更ニ書記官任書記生任ヲ被置候補此旨相違候事

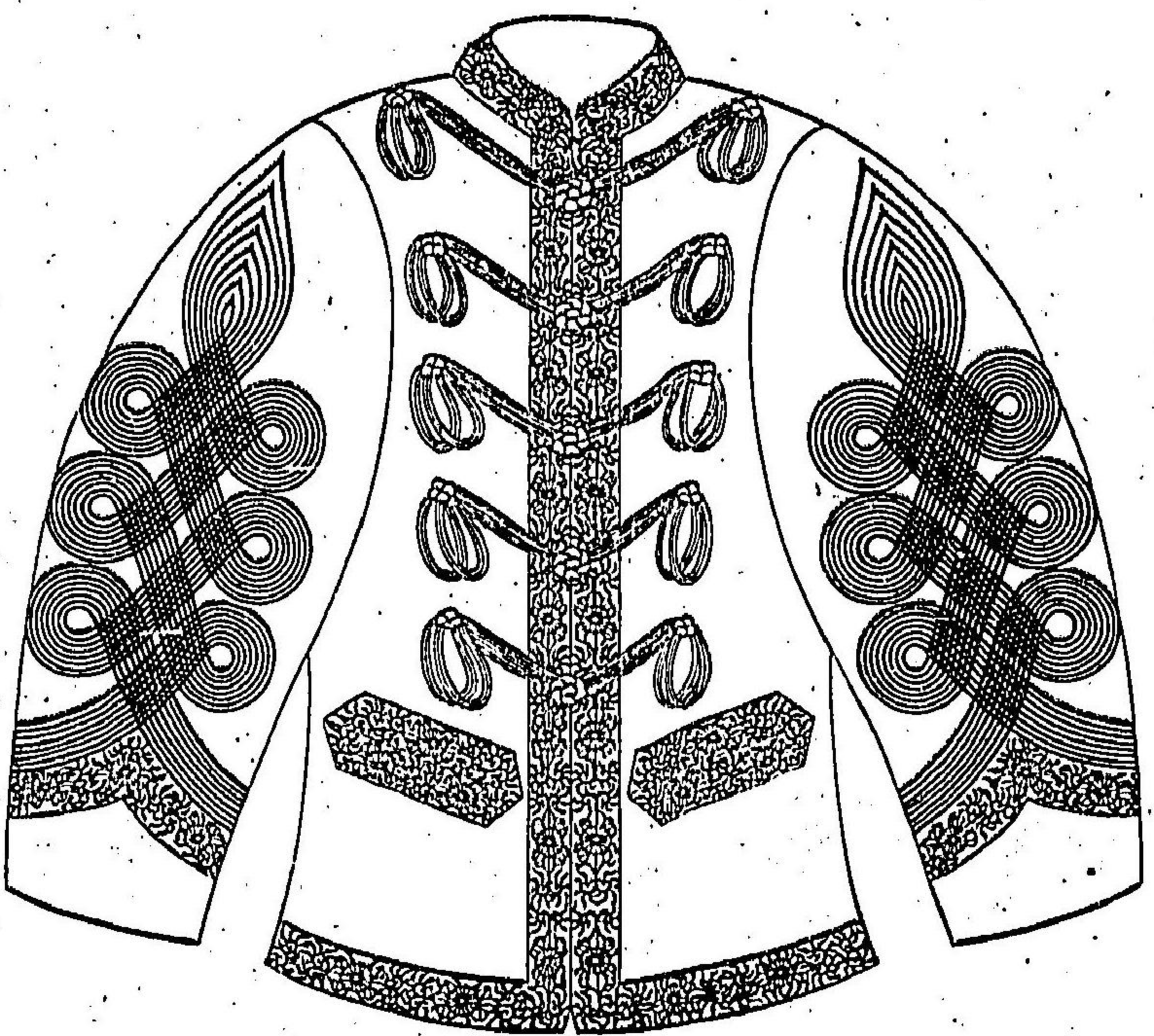
○第七十四號 (八月二十二日 給原附)
官省院使廳府縣

御夏服別紙ノ通御定相成候條此旨相違候事
(別紙)

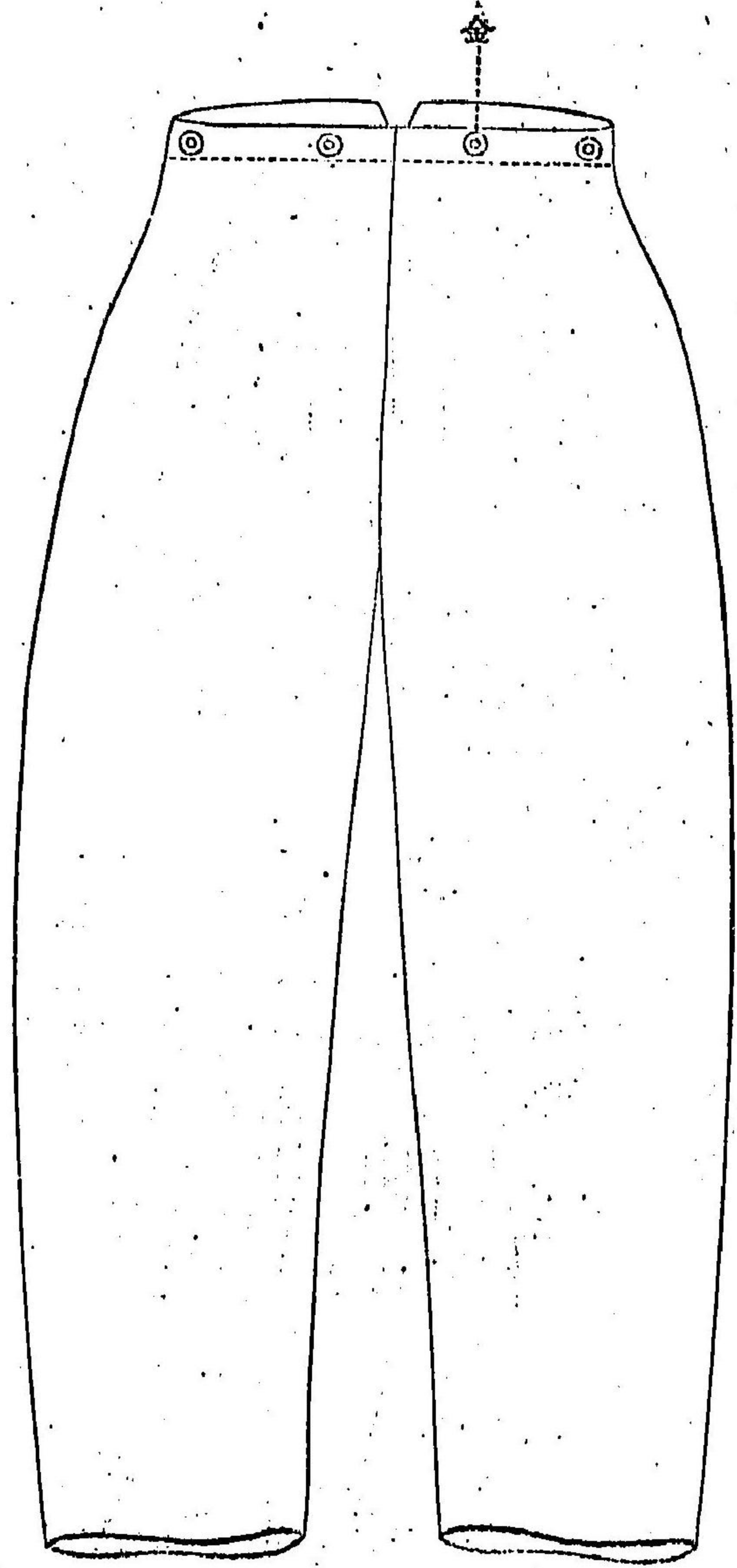
十九年勅令第五號

二條ノ消滅

總白



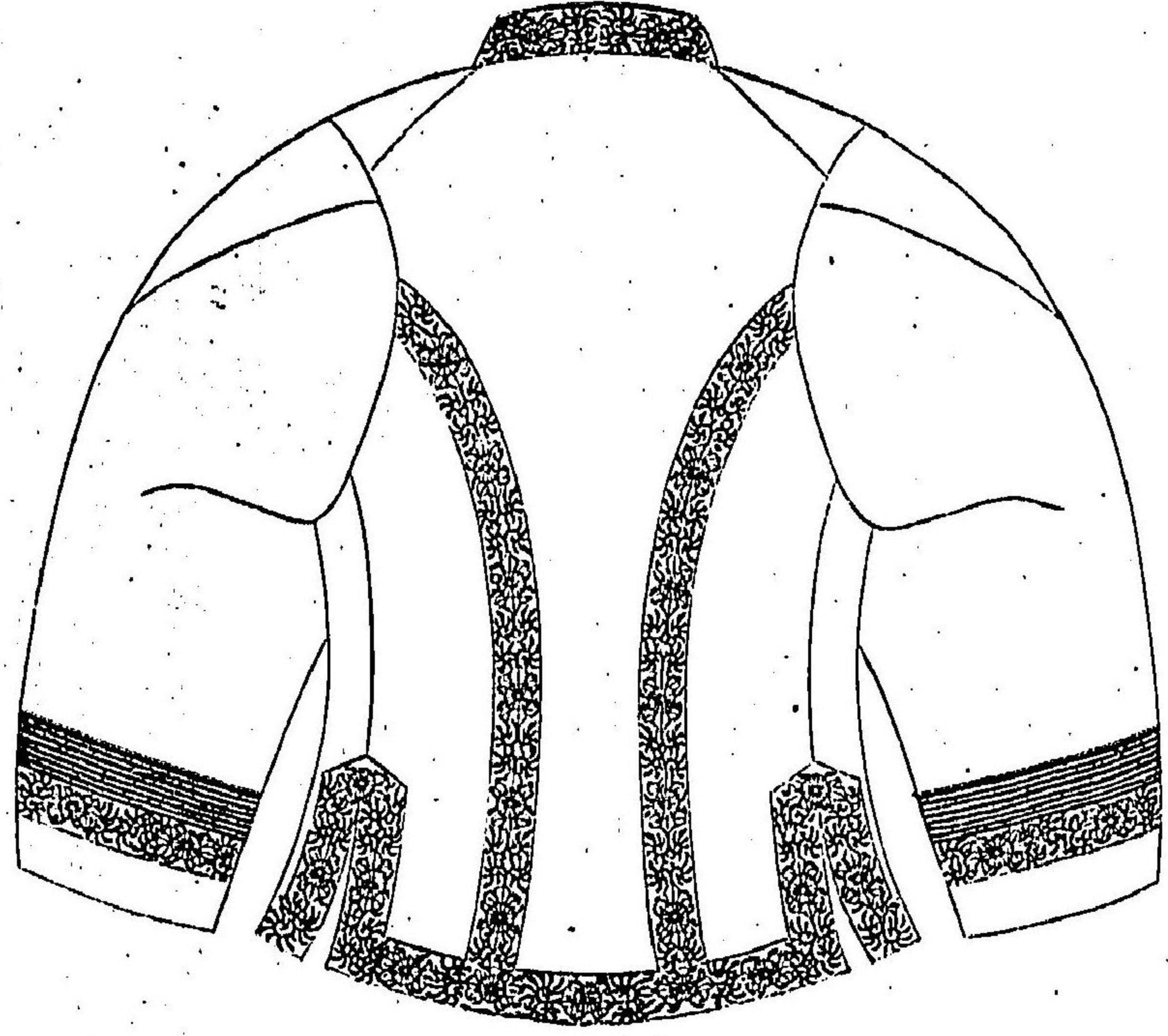
明治十四年八月 太政官 達 第七十四號 (御重服)



總白

三九七

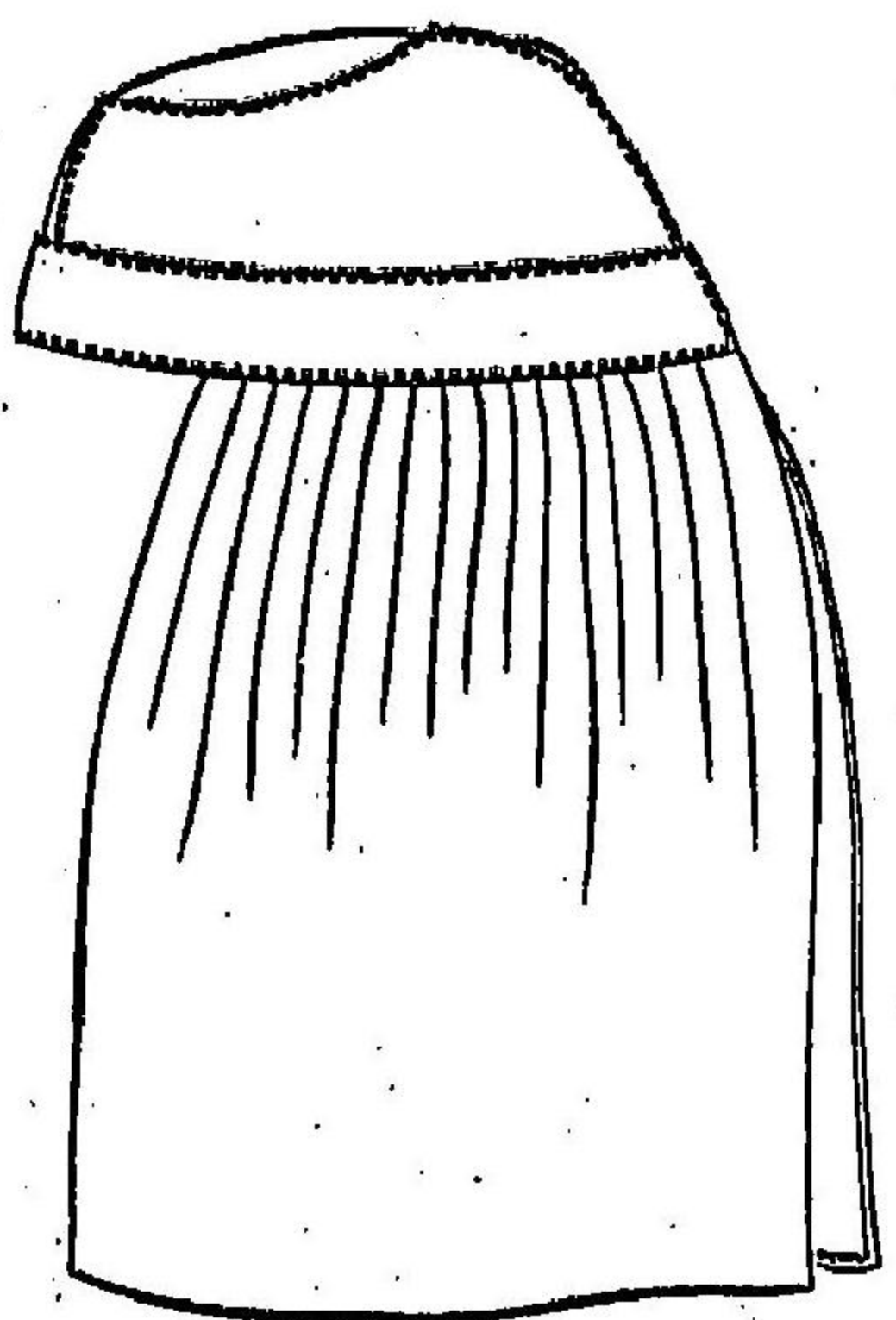
明治十四年八月 太政官 達 第七十四號 (御重服)



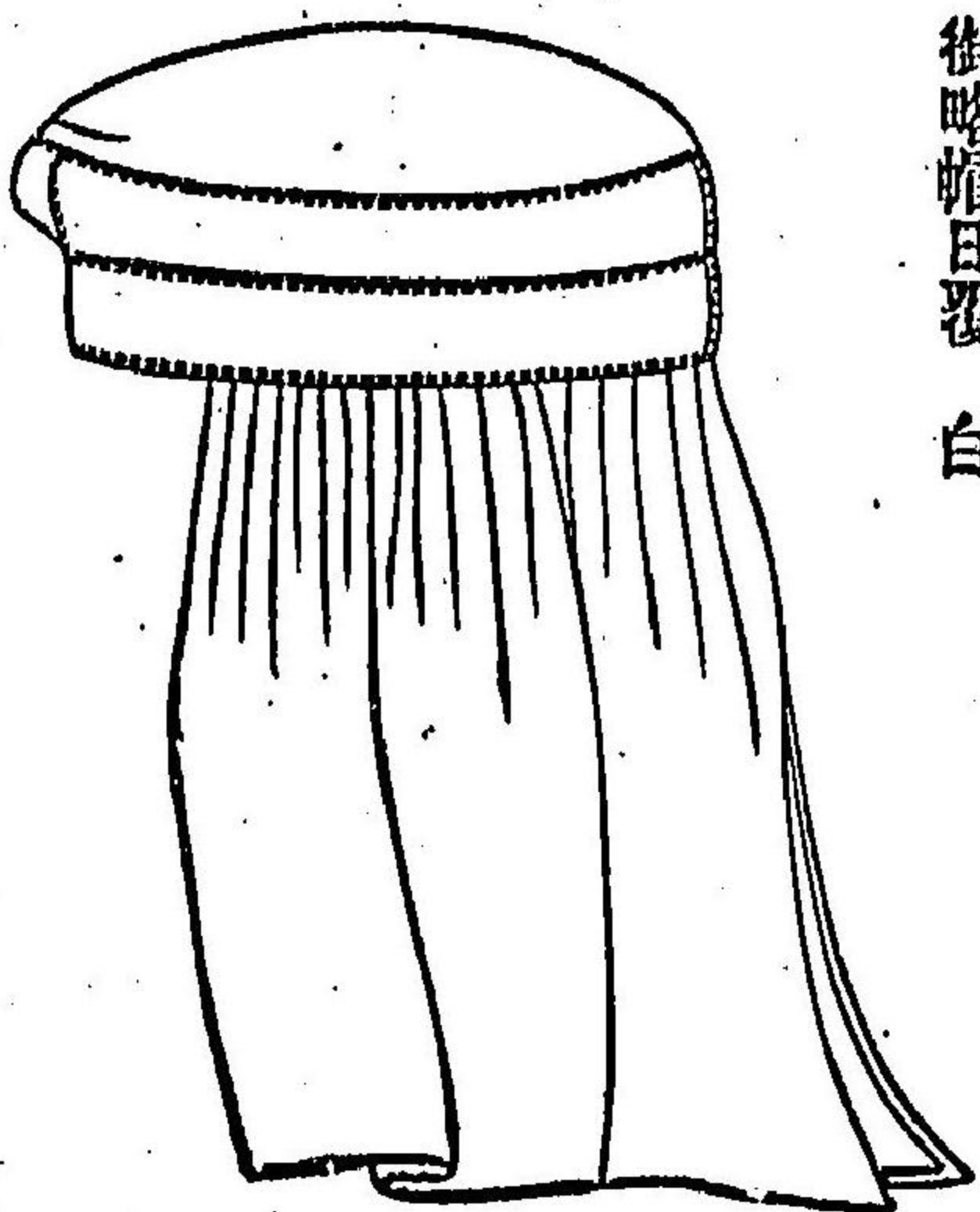
總白

三九六

御正帽日覆 白



御略帽日覆 白



十七年大藏省第三十二號達ヲ以テ廢止

第八十五號達十六年大藏省第十一號達第二十四號達ヲ以テ區畫申請加

○第七十五號 (八月二十四日 檢閱附)

大藏省稅局出張所ノ備東京大坂名古屋廣島熊本仙臺ノ外更ニ二十四ヶ所ヲ増設シ出張所位置別紙ノ通相定諸稅監査及領收方爲取扱候條此旨相達候事
但領收順序ハ大藏卿ノ達ニ據ルヘシ
(別紙)

府 縣

租稅局出張所位置	收稅區畫
東京出張所	東京府 神奈川縣 千葉縣 埼玉縣 栃木縣
大坂出張所	茨城縣 群馬縣 山梨縣 滋賀縣 和歌山縣
名古屋出張所	德島縣 京都府 兵庫縣
靜岡出張所	愛知縣 三重縣 岐阜縣
廣島出張所	廣島縣 山口縣
松山出張所	島根縣
高知出張所	高知縣
松山出張所	愛媛縣
長崎出張所	長崎縣 福岡縣
熊本出張所	熊本縣 大分縣

明治十四年八月 大藏省 達 第七十五號

鹿兒島出張所 鹿兒島縣
 福井出張所 福井縣 石川縣
 新潟出張所 新潟縣
 長野出張所 長野縣
 福島出張所 福島縣
 仙臺出張所 宮城縣 山形縣
 盛岡出張所 岩手縣
 秋田出張所 秋田縣
 青森出張所 青森縣

十九年内閣第十四號

○第七十六號 (八月二十七日 檢附)

本年三月第二十二號達陸軍憲兵服制中左ノ通改正候條此旨相達候事

兵卒衣及袴ノ部

地質 大絨或ハ綾小倉

十一月二十一日内

○第七十七號 (八月三十一日 檢附)

警視廳 府縣ヲ除ク

刑法第四百三十條ニ依リ各地方ノ便宜ニ從ヒ違警罪目ヲ定メ發行シタルトキハ之ヲ主務ノ省ヘ届

出ヘン此旨相達候事

十八年太政官第六十九號ニ依リ消滅

○第七十八號 (八月三十一日 檢附)

官省院使廳府縣

農商務省職制第一項中會社ノ割註銀行ノ下鐵山鐵道燈臺電信ヲ追加候條此旨相達候事

官省院使廳府縣

東京ヨリ各府縣ヘノ郵便線路里程表明治九年三月第二十四號ヲ以テ相達置候處爾後道路變換里程伸

縮相生ノ候ニ付別表ノ通改正候條此旨相達候事 (別表)

ノ里位及丁位ニ間位以下尺位

東京ヨリ各府縣ヘノ實測里程一覽表		沖繩縣	
府縣名	元標地名	府縣名	元標地名
東京	日本橋	福島	上野
京都	三條大橋	岩手	細屋
大阪	高麗橋	青森	米
神奈川	水	山形	七日
兵庫	市場	秋田	大
長崎	外浦	福井	照手上
新潟	水	石川	尾張
埼玉	中	島根	根

千葉	茨城	群馬	栃木	三重	愛知	靜岡	山梨	滋賀	岐阜	長野	宮城
水戸	七軒	前橋	水戸	掛示	鐵砲	長服	山梨	上京	白木	大門	大町
川口	水戸	前橋	水戸	掛示	鐵砲	長服	山梨	上京	白木	大門	大町
一〇、一四、五三、四	二九、三三、一六、二	二八、〇六、〇五、〇	二三、一九、〇八、四	一一、二二、一五、五三	九四、〇六、二二、四	四六、一〇、二五、〇	三五、一九、三四、五	二七、三四、五五、四	一〇、三三、六三、八三	五八、三三、五九、二	九二、二九、三九、〇
岡山	廣島	山口	和歌山	德島	愛媛	高知	福岡	大分	熊本	鹿兒島	宮城
山崎	細工	大市	大市	西横	西横	西横	西横	西横	西横	西横	西横
一八、九、二四、一五、四	二二、三三、三五、四一、一	二六、九、一六、四三、一	一六、一、〇六、一四、四	一八、二、三三、五三、三	二四、八、三三、一四、二	二二、九、二七、五二、四	三二、一、二九、一五、三	三三、〇、二六、一〇、一	三三、三、二八、一〇、〇	三八、八、二六、〇二、二	三三、三、二八、一〇、〇
明治十四年五月改正											

○第八十號 (九月十五日 輪附)
 本年三 第拾壹號ヲ以テ相違候東京府下憲兵來ル十月十五日ヨリ勸務施行セシメ候條此旨相違候
 事

二十二年勸令第四
 十三號ニ依リ消滅

二十二年勸令第九
 十三號ヲ以テ改正

○第八十一號 (九月十九日 輪附)
 明治五年達監獄則及本年三 第十三號達在監人給與規則同月七 第六拾四號達在監人雇工錢規則ヲ合セ
 テ別冊ノ通監獄則相定候條此旨相違候事
 但明治十五年一月一日以後施行ノ刑法治罪法ニ關涉スル條件ハ同日ヨリ施行スヘシ
 (別冊)

官省院使廳府縣

監獄則目錄

- 第一編
- 第一章 汎則
- 第二章 監署ノ規程
- 第三章 監獄ノ構造
- 第二編
- 第一章 役法 附時限
- 第二章 工錢
- 第三章 徒刑流刑及シ禁獄ノ刑ヲ受メル囚徒押送
- 第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舎
- 第三編
- 第一章 給與
- 第二章 疾病 附死亡
- 第三章 書信

明治十四年九月 太政官 達 第八十號 (輪附)

第四章 接見

第五章 差入品

第四編

第一章 教誨

第二章 賞與

第三章 懲罰

監獄則

第一編

第一章 汎則

第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス

一 留置場 裁判所及ヒ警察署ニ屬スルモノニシテ未決者ヲ一時留置スルノ所トス但時宜ニ由リ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルコトヲ得

二 監倉 未決者ヲ拘禁スルノ所トス

三 懲治場 懲治人ヲ懲治スルノ所トス

四 拘留場 拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルノ所トス

五 懲役場 懲役ノ刑及ヒ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルノ所トス

六 集治監 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル者ヲ集治スルノ所トス

北海道ニ在ル本監ハ徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治ス

第二條 監獄ハ内務卿ノ管轄ニ屬ス但陸海軍ノ管轄ニ屬スルモノハ此限ニ在ラズ

第三條 集治監ハ内務卿之ヲ直轄ス留置場監倉懲治場拘留場懲役場ハ警視總監又ハ府知事東京府縣令之ヲ管理ス

第四條 此獄則ハ陸海軍ノ獄則ヲ以テ處スヘキモノニ適用スルコトヲ得ス

第五條 内務卿ハ毎年其所屬官吏ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ

警視總監府知事縣令ハ毎年三四次所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ

裁判官檢察官ハ時々其裁判所ニ屬スル監倉ヲ巡閱スヘシ

府縣會議員ハ臨時其府縣監獄ヲ巡閱スルコトヲ得

第六條 在監人ト稱スルハ未決已決ノ者及ヒ第十九條第三十條ニ記載シタル者ヲ云フ

第七條 在監人ヨリ司獄官吏ノ處置ニ對シ若シ情苦ヲ訴ヘントスルトキハ第五條第一項第二項ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

第二章 監署ノ規程

第八條 司獄官吏在監人ヲ管束スルハ一ニ和平ヲ秉リ罰例ニ照シテ犯則者ヲ決責スルノ外恣ニ責罰スルヲ得ス

第九條 典獄看守長ハ日夜不時ニ監房ノ内外ヲ視察シ或ハ物件ヲ査閱シ其他囚徒ノ懶惰ヲ生シ脱越等ノ事ナカラシムルヲ要ス

第十條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ拘引狀拘留狀收監狀又ハ處刑宣告書等ノ文書ヲ査閱シテ之ヲ領シ其領收ノ證ヲ引致シ來タル者ニ交付ス其文書ナクシテ引致セラレタル者ノ入監スルヲ得ス

未決者ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲ヲ禁シ法庭ニ引致ノ時モ同往セシムルヲ得ス

已決囚ハ第十六條ニ記載シタル差別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

第十一條 入監ノ婦女乳兒三歳ヲ携帶セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第十二條 新ニ入監スル者アルトキハ名籍ノ様本ニ照シ其要項ヲ詳録シ一小房内ニ於テ通身ヲ搜檢シ利器其他ノ物件ヲ夾帶スルヲ拒クヘシ懲治人ノ監舎ニ入ルトキモ亦同シ

第十三條 總テ監房ニ入ルノ物品ハ典獄一々之ヲ精驗シ其危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ

第十四條 總テ入監人ノ携有スル財貨物件ハ悉ク點檢シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄一々認印シテ之ヲ領置シ釋放ノ時還付スヘシ但點檢ノ際隱匿セシ貨物ハ沒收ス

若シ其領置ノ貨物ヲ以テ親屬ヲ扶助シ其他正當ノ費用ニ充ント請フトキハ之ヲ許ス

第十五條 在監人書籍ヲ看ント請フトキハ新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記載スルモノヲ除キ修身又ハ營業ニ必要ナルモノハ之ヲ許スヘシ

第十六條 已決囚ハ各刑名ニ從テ其監房ヲ別異シ又其中ニ就テ左ニ記載シタル者ヲ別異ス

一 十六歳未満ノ者ト滿十六歳以上ノ者

二 滿十六歳以上二十歳未満ニシテ再犯以上ノ者ト同上ノ年齢ニシテ初犯ノ者

三 初犯ノ者ト再犯以上ノ者

第十七條 要犯疑獄ニ係ル者ヲ拘禁スル未決監ニ於テハ其氏名ヲ呼ハス番號ヲ以テ之ニ換フヘシ但著衣ノ外襟ニ白布ヲ縫著シ其番號ヲ墨書シ監房ヲ出入スル毎ニ皂布ヲ以テ覆面シ常服ノ所ニ小孔ヲ穿テ共犯者ヲシテ共ニ拘禁ノ身タルヲ窺探スルヲ得サラシム

第十八條 放恣不良ノ者ヲ懲治場ニ入レ矯正歸善セシメント其尊屬親ヨリ願出ルトキハ第二十條第一項ノ例ニ照シテ處分スヘシ

矯正歸善ノ爲メ懲治場ニ入ルヘキ者ノ年齢ハ滿八歳以上滿二十歳以下ヲ限トス

内務省之第六十三號 監獄則

第十九條 懲治人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

一 刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ從ヒ懲治場ニ留置スル幼年ノ者及ヒ痲瘋者

二 尊屬親ノ請願ニ由テ懲治場ニ入タル者

第二十條 前條第二款ニ記載シタル懲治人ハ日長ノ體票ヲ具スルニ非レハ入場ヲ許サス但在場ノ時間ハ六個月ヲ一期トシ二年ニ過ルヲ得ス

入場ヲ請ヒ尊屬親ヨリ懲治人ノ行狀ヲ試ル爲メ宅舎ニ帶往セント請フトキハ其情狀ニ由リ之ヲ許スヘシ

第二十一條 懲治人ハ左ノ年齢ニ從ヒ其居房ヲ別異ス

一 十六歳未満ノ者ト滿十六歳以上ノ者

二 滿十六歳以上二十歳未満ニシテ再ヒ懲治場ニ入ル者ト同上ノ年齢ニシテ初テ入場スル者

第二十二條 在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ處刑ノ宣告書其他必用ノ文書及ヒ領置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ其發遣ノ途中ニ在テノ行狀ハ押送官吏之ヲ記述シテ典獄ニ知會スヘシ

在監人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ戒具ヲ用ヒ男女ヲ別ツヘシ但懲治人ハ戒具ヲ用ヒス

第二十三條 典獄ハ看守長及ヒ看守ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録サシメ賞罰ヲ行フノ考據トナス

第二十四條 賞表ヲ與ヘタルトキハ賞與簿ニ其氏名及ヒ賞詞ヲ記載シ視奪シタルトキハ之ヲ削除スヘシ但其賞罰ヲ行ヒタル旨ヲ囚徒ニ示スハ第二十六條ノ例ニ依ルヘシ

第二十五條 特赦アリタルトキハ速ニ其旨ヲ内務卿ニ申報スヘシ

第二十六條 特赦ヲ受タル者アルトキハ免役日若クハ日曜日ノ午後ニ在テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ

十七年太政官第三十七條改正

第二十七條 假出獄ヲ許サレタル者ニハ其證票ヲ與ヘ警察廳傳ヲ以テ其居住セントスル地ニ押送スヘシ

監署ニ領置セシ金錢ハ出獄者ニ携帶セシメス其金員ヲ録シテ共ニ其地ノ警察官 治罪法第六十條ニ送致スヘシ

第二十八條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其刑期間ハ典獄ニ於テ營業ノ方法ヲ指示シ其來署ヲ要スルトキハ召喚スルコトヲ得

第二十九條 在監人中能ク獄則ヲ守ル者ヲ撰テ傳告者誘工者トナス傳告者ハ官吏ノ命令ヲ在監人ニ傳ヘシメ誘工者ハ工場ニ在テ服役者ヲ勸誘セシム但傳告者誘工者ハ滿六個月以上其用務ヲ繼續セシムルヲ得

傳告者及口誘工者ハ私ニ在監人ヲ使役シ若クハ凌辱スルノ所爲アルヲ許サス

十六年太政官第六十二條修正

第三十條 刑期滿限ノ後願ルヘキ所ナキ者ハ其情狀ニ由リ監獄中ノ別房ニ留メ生業ヲ營マシムルヲ得

第三十一條 刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過ヘカラス

第三十二條 死刑ノ執行ハ午前第十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムヘシ

其遺骸ハ死相ヲ驗シタル後初水二分時ヲ過サレハ埋葬若クハ下付スルコトヲ得

第三十三條 刑死者又ハ死亡者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨリ本籍ノ戸長及ヒ近地ノ親屬若クハ故舊ニ通知スヘシ其監署ニ領置シタル貨物ハ親屬ニ下付ス若シ親屬ナキトキハ遺骸ヲ領取シタル故舊ニ之ヲ下付ス但死者ノ身ニ纏ヒタル衣服ハ此限ニ在ラス

親屬遺地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販賣シテ代價ヲ送付スルコトヲ得但送費ハ親屬ノ自辨トス

若シ其物件又ハ代價ヲ受クヘキ者ナキトキハ之ヲ沒收ス

第三十四條 在監人逃走スル者アル時領置ノ貨物ハ前條ノ例ニ依テ處分スヘシ但沒收ハ逃走ノ日ヨリ滿一個年ヲ經ルノ後ニ非レハ之ヲ處分スルコトヲ得

領置ノ工錢ハ第五十七條ニ照シテ處分スヘシ

第三十五條 監獄ノ近境ヨリ發火シテ罹災ノ虞アルトキハ司獄官吏其形勢ヲ量リ在監人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避シムヘシ

水火風震其他激甚ナル變災ニ際シ在監人ヲ押送スルノ違ナキトキハ要犯疑獄ニ係ル者ヲ除クノ外一時解放スルヲ得

第三章 監獄ノ構造

第三十六條 留置場監倉懲治場拘留場懲役場ハ每府縣ニ置キ俱治監ハ適當ノ地ニ之ヲ置クモノトス

留置場監倉懲治場拘留場懲役場一區畫内ニ在ルモノハ墻壁ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

第三十七條 未決監已決監及ヒ懲治場ハ男監女監ノ別ヲ嚴割スヘシ

甲ノ監房ニ在ル者ト乙ノ監房ニ在ル者ト彼是交談シ又ハ物件ヲ交遞スルノ便ヲ得サラシムヘシ各監房ノ鑰匙ハ其製式ヲ同クシ甲乙適用スルヲ要ス

第三十八條 密室ハ監倉ニ設ケ他人ト交通スルコトヲ得サラシムヘシ

間室ハ已決監ニ設ケ暗ニ空氣ヲ通セシメ露モ光線ヲ通セシメサルヲ要ス

密室間室ハ一室一人ヲ限トス

第三十九條 接見室ハ監舎ノ首部ニ設ケ其壁面ニ方三尺ノ口ヲ開キ之ニ縦横ノ格子ヲ嵌メ格子ヨリ三尺許ヲ距リ柵欄ヲ設ケ在監人ハ格子内ニ立シメ外人ハ格子外ノ柵欄ニ倚ラシムヘシ但懲治人ノ接見室ハ此例ヲ用ヒス

第四十條 燈火ハ監房外ニ置キ障得スルノ虞ナカラシムヘシ

第四十一條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ墻壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ

第二編

第一章 役法附時限

第四十二條 定役ニ服スル者ノ作業ハ罪名ニ因テ之ヲ斟酌シ毎囚一日ノ科程ヲ定メテ服役セシム滿十二歳以上十六歳未滿ノ者滿六十歳以上ノ者及ヒ病後ノ疲勞若クハ身体ノ虛弱ニ因リ勞作ニ勝ヘサル者ハ體力ニ應シ作業ノ科程ヲ寛恕ス

若シ己ムヲ得ズ外役ニ服セシムルトキハ鐵鎖ヲ用テ二囚毎ニ聯絆シ笠ヲ用テ晴雨ヲ防シ其面ヲ掩ハシム但外役ノ囚徒ハ一組十八人以上十五人以下ト定メ看守一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシム外役ノ囚徒道路往來スル時ハ務メテ他人通行ノ妨ト爲ラサラシムルヲ要ス

第四十三條 毎日囚徒ヲシテ役ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長及ヒ看守檢ヲナスヘシ歸監セシムル時モ亦同シ

第四十四條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ヌ父母ノ喪ニ遭フ者モ亦一日免役ス

一月一日 一月二日

元始祭 孝明天皇祭

紀元節 春季皇靈祭

神武天皇祭 秋季皇靈祭

神嘗祭 天長節

新嘗祭 十二月三十一日

第四十五條 囚徒ノ專習スヘキ工業ハ授業手若クハ工業殊等ノ囚ヲシテ之ヲ導カシム其刑期一年以下ノ者ニハ習熟シ易キ工業ヲ授ルヲ要ス

第四十六條 定役ニ服セサル囚徒ト雖モ典獄之ヲ勸誘シテ其將來ノ生業ヲ計リ誕生又ハ親屬扶助ノ爲メ勞作セント請フニ至ラシムルヲ要ス其工業ノ種別ヲ定ムルハ典獄ノ指示ニ依ル

未決監ニ在ル者坐作ノ業ヲ爲サント請フトキモ亦同シ

第四十七條 懲治人ニハ教誨ニ充ル爲メ服役時間表ニ準シ七時ニ過キサル時間休息時農業若クハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

○時限

第四十八條 未決者及ヒ定役ニ服セサル已決囚ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ罪リ喫飯セシム又毎日一時間以內監房外ニ於テ運動ヲ許ス

第四十九條 定役ニ服スル者ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ罪テ喫飯セシム其起床ヨリ約子一時間ヲ經テ役ニ就カシメ午前十時前後ニ至テ湯若クハ水ヲ與ヘ正午十二時ニ至リ休息ス飯後暫時休息シ再ヒ就役日没前罷役セシム其時間ハ別表ニ之ヲ定ム但時宜ニ由リ其時間ヲ伸縮スルヲ得

起床退房及ヒ就役罷役其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齊ニ動止セシム

第五十條 科程ヲ終リタル者ハ時限ニ拘ハラズ罷役セシム

午飯ニ就カシムルノ際科程ノ大半ヲ爲シ得タルヤ否ヲ驗視スヘシ若シ偷懶ニシテ怠役スル者ハ飯後ノ休息ヲ許サス

第二章 工錢

第五十一條 定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始テ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ其一分ヲ與ヘ餘分ハ之ヲ監署ニ收ム

定役ニ服セサル囚徒及ヒ未決者ニシテ作業スル者ノ工錢ハ十分シテ其三分ヲ監署ニ收メ其七分ヲ與フ定役ニ服スル囚徒ニシテ當日ノ科程ヲ畢テ仍ホ作業スル者科程外ノ工錢ハ之ニ準ス

第五十二條 尊屬親ノ情願ニ由テ懲治場ニ入タル者其尊屬親ヨリ衣食費ヲ自辨スル者ノ工錢ハ其全分ヲ與ヘ衣食費ヲ自辨スルコト能ハサル者及ヒ刑期滿限ノ後願ルヘキ所ナクシテ監署傍ノ別房ニ留置シタル者ハ其工錢ノ内ヨリ衣食費ヲ扣除シ餘分ハ之ヲ與フ

第五十三條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ監署ニ領置シ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシムヘシ

第五十四條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ヲ準トシ各自ノ技能ニ應ジ一日若干錢ト定ムヘシ

第五十五條 監署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ニ由リ親屬ニ贈與スルヲ許シ又ハ書籍其他必要ノ物品及ヒ第六十九條ニ從ヒ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得

第五十六條 在監人死亡シ監署ニ領置ノ工錢アルトキハ親屬ニ下付ス親屬ナキトキハ遺骸ヲ領取シタル故醫ニ下付ス若シ下付ヲ受ヘキモノナキトキハ之ヲ沒收ス

第五十七條 在監人若シ逃走シタルトキハ已決囚ノ工錢ハ之ヲ沒收ス未決者及ヒ懲治人ノ工錢ハ其親屬ニ下付ス親屬ナケレハ之ヲ沒收ス

第三章 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒押送

第五十八條 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル者アルトキハ其宣告書ノ謄本ヲ具シテ内務卿ニ申報シ其指揮ニ從ヒ警察廳傳ヲ以テ集治監ニ押送スヘシ

北海道集治監ニ於テ管束スヘキ徒流刑ノ囚徒ハ本監官吏ノ臨時派出シタル地マテ押送スヘキモノトス

第五十九條 北海道ニ在ル集治監ハ毎歲三四次官吏ヲ派出シ前條第二款ノ例ニ從ヒ押送シタル徒刑流刑ノ囚徒ヲ受取ヘシ

第六十條 徒刑流刑ノ囚徒ヲ押送スル時ハ戒具ヲ用ヒ男囚ト女囚トヲ別ツヘシ遞船中ニ在テハ戒具ヲ用ヒサルモ妨ナシ

第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舎

第六十一條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其地ニ居住スヘキ家ナキトキハ屋舎ヲ貸與スヘシ

屋舎ヲ構造スルハ將來市街村落ヲ創設スルノ便ヲ計畫スルヲ要ス

第六十二條 假出獄免幽閉ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キ同居セント請フトキハ典獄將來營生ノ方法ヲ覆札シ之ヲ許否スヘシ

前項ノ請ヲ許ストキハ其配偶者又ハ其他ノ親屬現住スル地ノ戶長ニ通告スヘシ

其徒刑流刑ノ者嫁娶ヲ爲サントスルトキハ監署ニ申告セシメ典獄之ヲ許否スヘシ

第三編

第一章 給與

第六十三條 已決囚ノ獄衣類ハ總テ之ヲ貸與ス

第六十四條 未決者ノ衣類ハ總テ自辨トシ囚具ハ之ヲ貸與ス若シ囚具ヲ自辨セント請フ者ハ之ヲ許ス貧困ニシテ衣類ヲ自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第六十五條 已決囚ノ獄衣ハ青色トシ懲治人ノ衣服ハ淺葱色トス

第六十六條 獄衣ハ總テ筒袖トシ長短二種ニ別ツ男ノ通常服ハ長衣就役服ハ短衣トシ女服ハ總テ長衣トス

第六十七條 在監人ニ貸與スル衣類雜具

通常服

一 單衣

一 裕

一 綿入衣

一 襦袢 就役服

一 單短衣

一 裕短衣

一 綿入短衣

一 襦袢

一 股引

一 蒲團 雜具

一 蚊帳

一 莞蓆

一 枕

一 帶尺長三

一 揮尺長三

一 手巾

一 蓆

一 笠

以上ノ貸與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ淋瀝補綴シテ共用ニ充ルヲ得

第六十八條 在監人一人一日ノ食糧

一 下白米十分ノ四

一 挽割麥十分ノ六

一 同 五合

一 同 四合

一 同 三合

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

一 菜

明治十四年九月 大政官 通 第八十二號 (監獄則)

一 唾壺

同

一 便器

木製大小二種但監房ニ加圍ノ棧
椽スルモノニハ此器ヲ用ヒス

一 小帶

草ノ種類ヲ以テ製作
セシ軟カナルモノ

一 洗手盆

木製

第七十二條 浴湯ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一次十月ヨリ五月マテハ十日毎ニ一次トス

第七十三條 已決囚及ヒ懲治人ノ髪ハ常ニ之ヲ短裁シ髭鬚アル者ハ常ニ削除セシム但未決者ハ此限ニ在ラス

婦女ノ梳髮ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルヲ許サス

第七十四條 衣類雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ滌ヒ臭氣ヲ去リ蟲害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ晒洗スヘカラス

第二章 疾病附死亡

第七十五條 在監人疾病ニ罹レハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム

懲治場ニ在ル者ハ病狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第七十六條 病者ノ攝養ニ効アル飲食物又ハ温ヲ取ル湯婆等ヲ用ルコトヲ要スルトキハ醫師ヲシテ其旨ヲ證明セシメ典獄之ヲ考檢シテ許否スヘシ

第七十七條 傳染病侵襲ノ兆アルトキハ其消毒豫防ヲ慎重ニスヘシ若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ病性及ヒ感染ノ形狀ヲ詳悉シ醫師ノ診察書ヲ副ヘ各其所屬長官ニ報告スヘシ

○死亡

第七十八條 在監人死亡スレハ典獄看守長醫師并瀝テ之ヲ驗屍スヘシ

未決者又ハ已決囚ニシテ別故アリ再ヒ訊問ニ係ル者死亡シタルトキハ之ヲ其裁判所ニ申報スヘシ

第七十九條 死者ノ親屬若クハ故舊第三十三條ニ記載シタル時限ヨリ二十四時以內ニ在テ遺骸ノ下付ヲ請フトキハ之ヲ許シ共者ヲシテ簿冊ニ署名押印又ハ花押セシムヘシ

遺骸ヲ請フ親屬故舊ナキトキハ棺ニ入テ假葬シ其上ニ氏名標ヲ建ツヘシ其標ハ約子面三寸長三寸五分トス

第三章 書信

第八十條 已決囚其親屬故舊ニ書信ヲ贈ルハ六個月間ニ一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス但其他官司ノ尋問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ司獄官吏ニ於テ法律ニ觸ルコトナク且必用ト認マルトキハ此限ニ在ラス

第八十一條 未決者ニ係ル書信ハ定限ヲシ但豫審判事又ハ檢事ノ檢閱ヲ經ルニ非レハ贈答セシムルヲ得ス

第八十二條 懲治人及ヒ幼年ノ已決囚其親屬故舊ニ贈ル書信ハ一個月一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス

第八十三條 在監人ノ發スル書信ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ若シ書中忌諱ニ渉ル等ノ文意アルトキハ通信ヲ許サス

第八十四條 外人ヨリ在監人ニ贈リ來タル書信ハ典獄之ヲ檢閱シ適正ノ事項ヲ陳ヘ又ハ遷善ノ諭示ヲ主トシタルモノニ限リ之ヲ本人ニ付與ス若シ在監人ノ改悛ヲ妨ルモノト認ルトキハ之ヲ付與セス

第八十五條 書信ヲ檢閱スルハ先ツ直行ヲ順讀シ次ニ逆讀料讀又ハ橫讀シ嫌疑ノ文意アリヤ否